

# 男坂



総明会会報

明治大学付属明治高等学校・中学校 同窓会

# 明治中學校校歌

## 校歌

### 一章

帝都の真中駿河臺、

遙かに望む富士のねの

高き理想の影追ひて

集る健兒勇ましや

### 二章

忠と孝の大糸を

色どる正義、愛と、誠

我等が胸をかざるべき

大和錦の美ならずや

### 三章

學びの高嶺文の海、

嶮しく荒き行末を

懼れず笑みて進みゆく

我等が意氣は天を呑む

### 四章

世界に王たる日の本の

國民の基と身をなして

我等が校の名を掲けむ

我等が國の威を掲けむ

一、白雲なびく駿河台

眉秀でたる若人が

撞くや時代の暁の鐘

文化の潮みちびきて

遂げし維新の栄になふ

明治その名ぞ吾等が母校

明治その名ぞ吾等が母校

三、靈峰不二を仰ぎつつ

刻苦研鑽他念なき

我等に燃ゆる希望あり

いでや東亜の一角に

時代の夢を破るべく

明治その名ぞ吾等が母校

明治その名ぞ吾等が母校

二、權利自由の揺籃の

歴史は古く今もなほ

強き光に輝けり

独立自治の旗翳し

高き理想の道を行く

明治その名ぞ吾等が母校

明治その名ぞ吾等が母校

作詞 児玉 花外  
作曲 山田 耕柞

(学)明治大学 理事長

長吉 泉

(学)明治大学 学長

納谷 廣美

明治高等・中学校 校長

吉田 善明

(明治大学法科大学院教授)

# 総 明 会

昭和59年開催の第20回総会において命名された。  
初代校長の鶴澤総明先生のお名前をいただき、かつ、  
明中高同期会と同窓生の総体の連帯を意味するものである。



## 目 次

- 2 総会・懇親会のご案内
- 4 会長挨拶
- 5 校長挨拶
- 6 平成18年度活動報告
- 7 平成18年度決算報告
- 8 評議員名簿
- 9 チャリティゴルフ大会
- 11 明朗会
- 13 男坂讃歌
- 45 天国からの男坂讃歌
- 57 駿河台の軌跡
- 73 ようこそ調布へ
- 83 同期会・クラブOB会・学校報告
- 103 恩師の訃報・退職者一覧
- 104 寄付一覧
- 106 幹事学年挨拶（前年度・本年度・次年度）
- 112 個人情報保護に関する規則（案）
- 116 100周年記念事業のご案内

## 男 坂



総明会会報  
明治大学付属明治高等学校・中学校 同窓会

## 表紙について

表紙題字 **男坂** の文字は、  
**卯木敏夫氏**に筆耕戴きました。  
（総明会顧問・昭和26年卒猿楽会）

男坂写真は、  
明誠会会報委員 荒井信之 撮影です。

## 第42回総明会総会・懇親会のご案内

**日 時：平成18年12月3日（日曜日）**

**場 所：セルリアンタワー東急ホテル**

**総 会 午後4時より 地下2階「朝霧」**

**懇親会 午後5時より 地下2階「ボールルーム」**

今回の総会・懇親会のテーマは

**「男坂讃歌～未来の後輩たちへ～」**です。

明治高等学校・明治中学校卒業生の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

総明会は明治高校・中学の卒業生、また一日でも在校された方などすべての皆様の会です。ご案内のとおり本年も年に一度の総会・懇親会が大々的に開催されます。そして本年の幹事学年は、我々（昭和54年卒・明誠会）が努めさせていただきますのでどうぞよろしくお願いします。

懇親会では、お世話になりました恩師、懐かしい先輩・後輩にお会いできます。皆様、母校明治のもとに童心にかえり年に一度の明治祭りを是非お楽しみください。

また、今回は会報のテーマでもあります「男坂讃歌、そして未来の後輩たちへ」として、母校・明治高校・中学が新天地・調布へ移転するにあたり、我々の思い出の数々をいつも見守ってくれた男坂に想いを馳せ当時の学校生活を懐かしんでいただきたいと思います。そして、この駿河台の地で培われた明治の良き伝統・質実剛健・明治らしさを未来の後輩たちへ語れば幸いです。この会報にも先輩・後輩の「男坂讃歌」がいっぱい詰められています。

皆様、どうかそれぞれの「男坂讃歌」に是非涙していただき熱き明治魂を燃やしていただきたいと思います。

当日は、恒例の応援指導班OBによる応援歌の紹介は勿論、吹奏楽班OBやマンドリン部OBによる懐かしく素晴らしい演奏などとにかく明治一色をご披露いたします。

何卒万障お繰り合わせのうえご参加ください。

幹事学年一同皆様のお越しを心よりお待ち申し上げます。





## 會費

**一般会員・・・・・・・・・・10,000円**

**シニア会員(39年卒以前)・・・ 8,000円**

現役学生・・・・・・・・・・3,000円

ご同伴者・・・・・・・・・・ 5,000円

※ ご出席の方のみ、お手数ですが確認のため同封の返信はがきにご記入の上、投函してください。

(誠に恐縮ですが、返信用紙の内容を基に出席者の名  
札を作成しますので、楷書にてご記入ください)

※ 返信用紙で申し込まれなかった方も当日参加できますので、是非お誘い合わせの上、ご参加ください。

## 第42回総明会総会 式次第（案）

## 一、開会の辞

## 二、會長挨拶

### 二、議長選出

#### 四、書記選出

## 五、議事進行

第一号議案 会務報告

## 第二号議案 会計報告

## 第三号議案

### 監查報告

第四号議案 会則改定の件他

## 六、閉会の辞

尚、式次第については、再度ホームページでご確認下さい。

# 総明会会長挨拶

明治大学付属明治高等学校・  
中学校同窓会

総明会会長 佐久間 洋一



昨年の総会で再選され、会長として2期目に入りました。改めて皆さんのご支援、ご協力に感謝するとともに、今後皆さんの負託に応えるべく微力ながら努力を重ねてまいりますので宜しくお願いいたします。さて、炎天下の8月22日、調布の新校地で行われた地鎮祭に出席しました。母校が一年半後にこの調布の地に移転し、ゆとりと充実の新校舎で新たな歴史を刻む、まさに第一歩ということを実感しました。男子校として神田駿河台の地で九五年余の時を刻んだ母校が、これからこの調布の地でどのような後輩を迎え入れ、また送り出すのかを想像することは楽しみなことです。総明会は毎年新しい会員が参加し、現在一万数千人を擁しております。調布への移転は校史に留める新たな出発点でありますから、会員の親睦のみならず母校の支援を主たる目的とする総明会にとっても大きな転換点であります。移転に関して何らかの協力ができればと考えています。まず総明会から母校の調布移転を祝して記念品を寄贈することになっており、協議検

討する小委員会を発足させ、母校と継続的な折衝の場を持つことになっていきます。その他にも会員の皆様へご理解とご協力をお願いすることがあると思いますので、その折には宜しくお願いいたします。また、総明会にとって、もうひとつの転換点となる会則の見直しですが、検討のための委員会を設置して約3年近く、この間さまざまな意見が戦わされております。会則の見直しは私の会長就任時の公約でもあります。「同窓会は同窓生全員のもの、これには例外がなく、全ての同窓生が帰還できる母港のようなもの」という位置づけからして、「同窓生一人ひとりの母校に対する熱き思いを結集し、総明会の一員であることに喜びを感じて頂けるような組織にしたい」との初心に立ち返り、まずは会則の見直しに全力を傾注しますので、どうぞ今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。最後にりましたが、この1年以上にわたり、本年の総会、懇親会、会報発行に惜しみない努力をして下さった明誠会の皆さんに感謝いたします。

# 総明会の総会を祝って

校長 吉田 善明



2008年4月開校に向けて、新校舎の建設が着々と進んでいます。駿河台の地から調布市富士見町への移転です。神代植物公園、深大寺を背景に富士見町から仰ぎ見る霊峰富士も格別であり、刻苦研鑽の地として申し分のない好適地と思っています。通学圏は若干変わりますが、新宿から京王線調布駅下車、スクールバスで約10分、中央線三鷹駅下車、スクールバスで約20分でアクセスできます。新校舎への移転と同時に、すでにのべてますように（総明会会報2005年度版）、少人数教育（中学1クラス35人、高校1クラス40人）に徹し、男女共学化を図る準備に入っています。男女共学を実施することによってOBの一部の方には本校の建学精神（校風）が変わるのではないかと不安もあるようですが、そのようなことは決してありません。「質実剛健」「独立自治」なる校訓は変わることなく脈々と継承されるものと確信しております。共通の舎で男女が人間としての価値観を認め合いながら成長していくことは必要なことです。また、新校舎キャンパスには、講堂、野球、サッカー等が可能なグラ

ウンド、テニスコート（5面）、校舎内には体育館、サブアリーナ、剣道場、柔道場、400人収容のカフェテリアもできます。新校舎の近くに本校専用の硬式野球場（東府中）もできます。

このように誇るべき充実した教育施設の建設が進む中で、教職員は教育内容の充実を期すべく教育課程検討委員会をはじめ各種検討委員会を設け、その準備に入っています。わけでも、中・高・大連携の一貫教育を魅力のあるものにするよう心掛けています。現在すでに、本校生徒には在学中に大学の単位を履修する道が開かれ、自分が希望する科目の単位を取得すると高校の単位と同時に大学入学後の単位として認定される、いわゆる先取り認定制度が実施されています（プレ・カレッジプログラム）。これは他大学の付属校にもみられない本校の特色として自負しています。そのほか、特別課外講座、自主選択講座を設け本学教授の指導を得るなどして大学との絆を強めています。

総明会OBの皆様も、母校が進めている教育方針をご理解され、さらなる御支援、御協力をお願いいたします。最後に総明会総会の盛況を祝し、さらなる発展をお祈りします。

## 2005年度活動報告

専務理事 関谷 芳久

総明会は本年度、佐久間會長のもと42回目の総会を迎えます。OBの連帯を育て、母校との親密な協力関係、賛助活動を維持推進することを目的として、各委員会指導のもと、活発に活動してまいりました。今後益々皆様の力で、いきいたいと思っております。まずはじめに、2006年3月の卒業式で新たに216名の総明会新人会員を迎えたことをご報告致します。

さて、昨年ホテルパシフィック東京で開催された第41回総会以後、本年10月までの活動報告を申し上げます。

### ☆総会

第41回を迎え、昭和53年卒同期会「紫友会」の担当で「やっつけて！お願い！1000人総会」をテーマに、日曜日の午後2時より総会を始め、一人でも多くの同窓生に参加していただくよう計画致しました。総入場者47名という、いままでにない会員、来賓の出席をいただきました。大盛況のうちに開催されました。総会において3年目の信任を得た佐久間會長、また理事で企画委員長長の吉田耕太郎氏を副会長に信任し、新たに三副会長制度にし、総明会活動の発展を目ざしました。昭和29年卒、国際アイズホッケー連盟副会長の富田正一氏の貴重な体験談を拝聴し、また懇親会ではスペシャルゲストで歌手の庄野真代様を迎え、とても楽しいひとときを過ごしました。

### ☆評議員会

各学年2名の代表で構成される評議員会は今年も3回開催いたしました。校舎移転問題や、総明会における個人情報への取扱い、また創立100周年に向けての活発な意見交換が、毎年60名以上の参加を得て協議されました。また7月7日に評議員、班部OB懇親パーティーを開催しました。

### ☆理事会

執行部と各委員会委員長により4回開催され、各委員会報告や今後の総明会のあり方など、活発に意見交換をしてまいりました。

### ☆組織検討委員会

昨年より引き続き、9名のメンバーにより会則の見直し、会長の下で考方法等論議してまいりました。この総会でまとまりましたものを発表できるよう努力しております。

### ☆学校行事参加

卒業式、入学式、球技大会、紫紺祭、オリエンテーションなど、総明会の学校説明会を行いました。

☆イベント

- ①武蔵会（明大中野同窓会）の総会出席や懇親会、幹事会を通して親睦交流。
- ②白駿会（明高父母の会OB会）の総会出席や親睦会交流。
- ③第12回総明会チャリティゴルフ大会を、6月4日富士O.M.G.ゴルフクラブで開催し、約100名の参加者で盛り上がりました。
- ④大学4年生同期会立ち上げを組織委員会のバックアップで今年も3月24日リバティタワーで開催しました。活気あふれる大学生が60人程度集まりました。
- ⑤企画委員会による明朗会落語鑑賞会を今年も計画致しました。

## 総明会 2005年度 会計報告

(自) 2005年 4 月 1 日～ (至) 2006年 3 月31日

単位：円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	11,213,816 (ゴルフ委員会残金420,707円、企画委員会残金2,555円を含む)	会議費	758,855
新入会員入会金	2,160,000	交流費(学校)	1,265,550
新入会員永久会費	2,160,000	交流費(OB)	510,008
学年会費	575,000	交流費(その他)	250,000
雑入(会議費)	387,000	通信費	0
雑入(幹事学年)	100,000	事務費	92,320
貯金利息	72	委員会活動費	1,830,915
		雑 費	4,855
		次年度繰越金	11,883,385
	16,595,888		16,595,888

上記の通り報告いたします。  
 会 長 佐久間洋一  
 監査の結果相違ありません。  
 監 査 伊藤 茂雄

平成18年3月31日  
 会 計 中村 正容  
 平成18年5月20日  
 監 査 阿部 正行

## 第41回 総明会 特別会計報告

単位：円

収入の部		支出の部	
総会会費収入	2,745,000	総会関係費	6,207,486
総明会より助成金	961,084	会報関係費	2,114,784
寄付・広告	5,641,860	運営関係費	1,149,932
総明会会計より繰入	124,258		
合 計	9,472,202		9,472,202

## 総明会 2006年度 予算案

(自) 2006年 4 月 1 日～ (至) 2007年 3 月31日

単位：円

収入の部		支出の部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	11,883,385	委員会活動費	1,700,000
新入会員入会金	2,160,000	本部等	1,800,000
新入会員永久会費	2,160,000	次年度繰越金	13,780,000
学年会費	575,000		
雑入	501,615		
	17,280,000		17,280,000

## 第42回 総明会 特別会計予算案

単位：円

収入の部		支出の部	
総会会費収入	3,000,000	総会関係費	3,900,000
総明会より助成金	1,090,000	会報関係費	2,400,000
寄付・広告	3,500,000	運営関係費	1,290,000
合 計	7,590,000	合 計	7,590,000

# 総明会評議会名簿

(敬称略)

年 令	名 称	氏 名	氏 名
昭和 8年	昭 八 会	市 森	夫 郎
昭和10年		川 田	康 仁
昭和11年		垣 富	七 郎
昭和12年	明 中 21 会	野 笠	吉 国
昭和13年	明 中 26 会	奈 葉	男 人
昭和15年	明 中 七 会	伊 落	雄 博
昭和17年	明 中 二 八 会	鈴 齊	英 也
昭和18年	明 中 二 八 会	鈴 齊	夫 二
昭和19年	明 中 二 八 会	鈴 齊	城 二
昭和21年	明 中 二 八 会	鈴 齊	夫 郎
昭和22年	明 中 二 八 会	鈴 齊	行 之
昭和24年	明 中 二 八 会	鈴 齊	一 郎
昭和25年	明 中 二 八 会	鈴 齊	雄 一
昭和26年	明 中 二 八 会	鈴 齊	夫 義
昭和27年	明 中 二 八 会	鈴 齊	樹 生
昭和28年	明 中 二 八 会	鈴 齊	仁 行
昭和29年	明 中 二 八 会	鈴 齊	次 郎
昭和30年	明 中 二 八 会	鈴 齊	夫 夫
昭和31年	明 中 二 八 会	鈴 齊	明 茂
昭和32年	明 中 二 八 会	鈴 齊	士 介
昭和33年	明 中 二 八 会	鈴 齊	郎 勲
昭和34年	明 中 二 八 会	鈴 齊	悟 郎
昭和35年	明 中 二 八 会	鈴 齊	洋 雄
昭和36年	明 中 二 八 会	鈴 齊	幸 昭
昭和37年	明 中 二 八 会	鈴 齊	幸 宏
昭和38年	明 中 二 八 会	鈴 齊	成 郎
昭和39年	明 中 二 八 会	鈴 齊	和 郎
昭和40年	明 中 二 八 会	鈴 齊	啓 利
昭和41年	明 中 二 八 会	鈴 齊	一 央
昭和42年	明 中 二 八 会	鈴 齊	樹 志
昭和43年	明 中 二 八 会	鈴 齊	億 仁
昭和44年	明 中 二 八 会	鈴 齊	夫 威
昭和45年	明 中 二 八 会	鈴 齊	征 介
昭和46年	明 中 二 八 会	鈴 齊	平 純
昭和47年	明 中 二 八 会	鈴 齊	步
昭和48年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
昭和49年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
昭和50年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
昭和51年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
昭和52年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
昭和53年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
昭和54年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
昭和55年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
昭和56年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
昭和57年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
昭和58年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
昭和59年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
昭和61年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
昭和63年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
平成 2年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
平成 3年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
平成 4年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
平成 5年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
平成 6年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
平成 7年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
平成 8年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
平成 9年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
平成10年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
平成11年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
平成12年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
平成13年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
平成14年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
平成15年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
平成16年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
平成17年	明 中 二 八 会	鈴 齊	
平成18年	明 中 二 八 会	鈴 齊	

# 第12回 総明会チャリティゴルフ大会

昭和54年卒 明誠会 岩田 茂

第12回総明会チャリティゴルフコンペが、6月4日（日）茨城県は霞ヶ浦にある「富士OGMゴルフクラブ出島コース」で開催されました。

昭和34年卒業から平成5年卒業までの会員、総勢98名が日ごろ鍛えたゴルフの腕前を披露しました。

当日は心配された雨も降らず絶好のコンディションで大会がおこなわれました。

今回のコースはトーナメントも開催される本格コースで、

高速グリーンに悩まされながらもダブルペリアのハンディ戦で競技がおこなわれました。結果は別表のとおりですが、参加者全員が和気藹々とプレーを楽しみました。

チャリティのほうはアウト3番、イン12番のショートホールでグリーンをはずした場合に寄付をいただきました。見事にワンオンした方も気持ちよく寄付をしていただき総額65000円を集めることができました。

プレーの後には表彰式を兼ねたパーティーがおこなわれました。

今日のコンペは特別協賛の

「Winwin」のゴルフ用品をはじめ、全員に賞品が当たるといふ豪華さでした。

参加者はそれぞれ笑顔で賞品を受け取り、お互い今日のプレーについて語り合い、チャリティは宴たけなわとなり、最後に全員で校歌を斉唱してパーティーは終了しました。ゴルフを通じてこれだけの仲間が集まるという母校のすばらしさを感じながら帰路につきました。

最後になりましたが、楽しい大会を運営していただいたゴルフ委員会の皆様ありがとうございました。

第42回 総明会ゴルフコンペ 成績表

	氏 名	卒業年	アウト	イン	グロス	ハンデ	ネット
1	堀 直樹	S. 46	43	40	83	12	71
2	堀 真寿	S. 46	36	40	76	4.8	71.2
3	志村 和哉	S. 54	42	43	85	13.2	71.8
4	斉藤 公寿	S. 46	43	41	84	12	72
5	木村 誠	S. 54	43	45	88	15.6	72.4
6	大橋 美郎	S. 51	41	46	87	14.4	72.6
7	石川 淳	S. 34	45	38	83	9.6	73.4
8	小田島 保男	S. 43	40	43	83	9.6	73.4
9	太田 繁太郎	S. 45	39	44	83	9.6	73.4
10	今個 恒夫	S. 46	45	38	83	9.6	73.4

（同スコアの場合は卒業年が低いほうが上位です）

※ 11位以下のかたは紙面の関係上省略させていただきました。



優勝の堀 直樹氏



第12回総明会ゴルフ大会

「ヘルプの一日」

昭和54年卒 明誠会 玉置 孝一

その昔「アムステルダムの朝は早い・・・」というナレーションで始まるネスカフェのCMを覚えていたのだろうか。私は朝、歯を磨きながらこのCMを思い出していた。総明会ゴルフコンペの朝はアムステルダムの朝より早かった。「じゃ、明日3時半ね。」との約束通りK澤が車で迎えに来てくれた。そしてこれからカツアゲ担当のS崎を拾って一路、土浦のゴルフ場を目指す。遅れちゃまずいの一急で高速を飛ばしてゴルフ場に

到着したのは4時50分だった。皆で仲良く準備して、先輩方を迎える。明誠会の一部のメンバーは前日から先乗りしていたが、深夜までの酒盛りで澁んだ目をしているヤツがいる。さすが明誠会である。ゴルフより同期との酒盛りが大切なのである。

私を含めプレーしないお手伝いをゴルフ委員のM君は「ヘルプ」と呼ぶ。私は何故かこう呼ばれると可笑しくなってしまうのである。ヘルプは自分の仕事が終われば自由だ。それは、糸の切れた風が何処に飛んでいくのかワカラナイのと同様である。私もこの後のパーティーのことはちょっと

と気になっていたが、昼メシを食うと同時に忘れていた。

昼メシを食い終わってどうしようかと思っていたとき、隣のテーブルで食事をしていたS崎とK澤、そして男根組の先輩二人からお誘いの声。優雅にワインをボトルで飲んで、このテーブルに私を含めてしまった。「お銚子下さい。」で一挙に盛り上がり、気が付けば酔っ払い状態だった。「やばい」ヘルプがヘルプされるようではシャレにならない。M君ゴメン。ここは居酒屋ではない。ゴルフ場のレストランなのだ。こんなに飲んでいる客は他には居なかった

と思う。そしてパーティーの「ヘルプ」が終わってお役御免となった。帰りの車の中、話していなければ間違いなく寝ていた私がいた。

来年は下手クソながらプレーしようと思っていた私だが、宴会付きの「ヘルプ」も悪くないと密かに思う。もし、来年も「ヘルプ」をするならば、私もボトルで赤ワインが飲みたい。

昭和四十六年卒

(株)インタープランニング

ウィンウィンスタイル事業部

堀 眞壽

電話 〇三五六〇〇一三三八八  
FAX 〇三五六〇〇一五〇二二

# 明 朗 会

落語鑑賞会・六大学野球観戦

昭和52年卒企画委員会 小嶋 真作

今年の明朗会は趣向を変えて鈴木演芸場にて落語鑑賞会（9月23日）を開催しました。

果たして盛り上がるかな？とちよっぴり不安もありましたが、流石プロの芸人が集まる演芸場。落語は九席行なわれ、合間にはマジックあり、太神楽曲芸あり、漫才あり、粋曲ありと、何とも多士済々のメニューに会場された会員の皆様は江戸の古典芸能の粋にどっぷり浸かりました。

その後の懇親会では美味しい酒と料理に舌鼓を打ち落語の節回しで交わす会話は「うめえのなんのって、たまりあしない！」ってな調子で盛り上がった次第でありんす。

秋には六大学野球が始まるってんで対法政戦（10月21日）の応援観戦ツアーを組み「おー明治」を声高らかに謳い上げ落語鑑賞会とは違った明治OBの結束で盛り上がった次第です。

※いずれも原稿締切後の企画のため酒を片手に推敲にて書き上げたことほんに許してくださいませ。

## 祝 第42回総明会総会

# 波 の 会

昭和48年卒業生一同

代表者 富 永 栄之進

副代表 板 橋 純三郎

評議員 海老根 一 介

尾 崎 幸 平

名 倉 豊

総明会									
会長	副会長	副会長	副会長	専務理事	常務理事	事務局長	會計		
四十二年卒	四十一年卒	四十四年卒	四十五年卒	四十四年卒	四十五年卒	五十年卒	四十三年卒		
佐久間洋一	尾島育四郎	服部雄二	吉田耕太郎	関谷芳久	北島一弘	山崎秀樹	中村正容		
紫讃会	四一明友会	男坂俱樂部	獅子の会	男坂俱樂部	獅子の会	明紫会	紫讃会		

昭和43年卒 紫讃会

総明会 会長

弁護士 佐久間 洋一

事務所 〒104-0061 東京都港区中央区銀座5丁目8番5号  
ニューギンザビル 10号館5階  
電話03-5568-6646 ファックス03-5568-6648

昭和45年卒

総明会  
副会長

吉田耕太郎

獅子の会

昭和44年卒

総明会  
副会長

服部雄二

男坂俱樂部

昭和41年卒

総明会  
副会長

尾島育四郎

41明友会

昭和50年卒

総明会  
事務局長

山崎秀樹

明紫会

昭和45年卒

総明会  
常務理事

北島一弘

獅子の会

昭和44年卒

総明会  
専務理事

関谷芳久

男坂俱樂部

# 男坂讃歌

未来の後輩たちへ



## 志を高く

清水 紀夫

明治大学付属明治高等学校・

中学校の教育の原点は「独立自治」「質実剛健」です。すなわち、「生徒の自立と人格形成で、目標は生徒個々の幸福」にあります。いつの時代においても中学・高校生が、その目標達成のために心がけてほしい事を3つあげます。

「学力と学習力を身に着けること」

高等学校・中学校で学ぶ全教科・全科目は、諸君の知性

を豊にし品性を高め、人格を形成させる上で必要なものは、何ひとつありません。

全ての学習に意欲をもって積極的に努力し、学力と学習能力を身に着けることです。

「生活習慣を確立し、規律ある行動をとること」

基本的な生活習慣を確立させることにより、学習の成果は上ります。また、私達の自由や幸せを継続させる為に、規律や秩序を守ることが、古来より人間が作り出して来た知恵です。諸君は学校生活を

通じて、集団生活における各々の役割と責任を、自覚を持って行動することが大切です。

たとえば、学校行事や部活動への積極的な参加で充実感や感動が与えられることは、明治の教育上不可欠な要素なのです。それは、ここで指導してくださる先生やOB、上・下級生との日常的な接触こそが、個々人の人格形成に、教室での学習にまさって役立つからです。

そこに、歴史と伝統ある明治の校風を体得すべき内容が凝縮されており、また、本校

中学入試をめざす小学生対象の算数塾です。

# ティープロ算数

TEACHING PRO

代表 香取 輝忠 (昭和52年卒)

千代田区神田神保町 2-15 第一富士ビル6F  
TEL 03-3263-0667 FAX 03-3263-0668 <http://www.tpro.co.jp/>

では特に重んじられているからでもあります。

「自己の志を高く掲げること」  
自分の才能・特性を見つけ、将来、社会において果たすべき使命を自覚しそれを育て上げることです。

才能や特性を輝きのあるものにするには、それなりに努力が必要です。その努力は、正しい価値観に基づいた行動や素直さを基礎として、自らが追求するものを求め、積極的に行動する意欲であり、自らの思考や判断で主体的に行

動する力であり、かつ、既成の概念にとらわれず工夫し新しいことを考え行動して行く創造力です。どんなに才能や特性があってもそれを磨かなければ輝きません。どうか自分の力で才能・特性を磨き上げ自己の志しが達成できるように努力して下さい。それが、自己の人格を育む事になります。

最後になりましたが、私は平成18年3月末日をもちまして定年退職をいたしました。在職中は公私共に皆様より暖かいご指導・ご支援・ご厚

情の数々を賜り心より感謝し厚くお礼申し上げます。

教員生活42年は、上記、本校教育の原点を心に生徒を指導してきました。数多くの素晴らしい生徒が巣立っていき、社会のあらゆる分野で活躍されています。このことは、人生の大半を明治ですごした私には大きな喜びであり、誇りであり、生涯の宝だと思っています。本当に幸せなことにした。

これからも明治精神が絶えることなく受け継がれて行くことを、心より願っています。



五感で感じる5周年



CERULEAN TOWER  
TOKYU HOTEL

セルリアンタワー東急ホテル



〒150-8512 東京都渋谷区桜丘町26-1

TEL.03-3476-3000 <http://www.ceruleantower-hotel.com>

# 未来の後輩たちへ

硬式野球部コーチ

昭和50年卒 真利子直人

「男坂」って正式名称なんですかねえ？ 実にいい名前ですよね。明治の在る所らしくて。

私は「男は明治ぐらいが丁度いい」と昔から誇りに思っています。総理大臣を輩出し、何かの大親分もいる。面白い学校ですよ。

少し前、映画を観に行った、自分がシルバー料金で入れる事に愕然としました。先輩達に頼って生きて来た自分が、実は世間的にはシルバー

になっていたなんて・・・。

野球を通じて現役の高校生と深く、濃く接して来て「今

時の若い者は・・・」というフレーズには大きな疑問を抱くようになりました。昔も今も色んな者がいるのは同じ事。

単に育った環境が異なるだけで、ヒトは百年前も百年後も大差ないんじゃないかと。

「今時の若い者」も決して捨てたものでは有りません。

シルバーも一足跳びにシルバーになったわけでは無く、同じように学生時代を過ごし、同じように「今時の若い者は」と言われて来てようやくシル

バーになったのですから、少しぐらい小言を言ってもいいでしょう。

「今時の選手」も、しっかり生き抜き、野球を愛し続け、元気なシルバーになってくれる事を心から願ひ続けています。

青春時代に熱中した何かを持っていると、老後が楽しいという事を聞いたことが有ります。現代の老後って何歳からは人それぞれですが以前より老後を過ごす時間は確実に長くなって来ています。「人生は長い長い暇つぶし」です。暇が全く無く思える野球部に

原料の育成から加工、製品になるまで  
すべてにおいて化学性を排除し自然の  
恵みを活かしたペットフードです。

## ニチドウ・ウェナーオーガニックフード

 wenaewe  
the spirit of animals

昭和37年卒 吉田信行 昭和38年卒 増田利明

〒124-0025

東京都葛飾区西新小岩4-37-9 TEL 03-3694-2710



在籍出来るのは、なんて幸せなことでしょう。大切なのは一生懸命やる事。適当にやっていたらゲームでも遊びでも絶対に面白くない。好きな事を熱中してやる事。好きなことが見つけれない？それは熱中してないからでしょう。ヒトの構造は変わらないのに環境は激変しています。「体を鍛える」ことが無くても仕事は出来る。「協調性を養う」ことが無くても収入は見込める。この原稿も漢字を忘れてもキーボードを押せば漢字が出て来る。今の時代、野球をする事から意義を見い

出すのは難しくなってきた。多くの部員が入部してくれて本当に感謝しています。そんな彼らとどう付き合ったら良いのか迷いの連続ですが、辿り着いたのは有りのままでしか出来ないという事でした。飾れば飾る程、逆に自身が無くなるという結果に陥ります。何かを教えているなんて気持ちには全く有りません。お互い正直にぶつかり合って何かを発見出来合うのだと思っています。

未来の後輩たちへというテーマ。ちょっと難しい。多分、まだ明治の枠の中にいな

い子供達へのメッセージを何か書けと受け取りました。

『明治』いつ迄経っても古臭いイメージ、無骨で不器用、愛想が無く、勉強も大した事無い。野球も弱いし、今のところ女性もいない。校長の息子でも試験に受からないと入れない日本一クリーンな学校。だけど仲間になる為にトライして下さい。「男は明治ぐらいが丁度いい。」のだから。

平成18年夏まで7年間、硬式野球部の指揮を執って頂いた真利子監督にご寄稿戴きました。

昭和43年卒「紫讃会」

福光税務会計事務所

税理士 福光登志雄

〒228-0803

神奈川県相模原市相模大野7-8-10  
大塚ビル303

TEL 042-747-2933  
FAX 042-747-2935

昭和37年卒

新麴町法律事務所

弁護士 福島啓充

〒102-0083

千代田区麴町3-7-4秩父屋ビル5階

TEL 3234-0511  
FAX 3234-0510

## 男坂の思い出

三迫ボクシングジム会長

昭和27年卒 三迫 仁志

私は高校Ⅱ年になったばかりの昭和25年5月25日に上京し、明治高校に転校して参りました。と申しますのも、私の恩師で有ります野口進先生にスカウトされて、プロボクシングで日本一の男にしてやるから、東京に来る様にと誘われて上京したのです。当時はプロボクシングも見た事もなかったし、スカウトと云う言葉も無かった時代でした。アマチュアの試合を一試合しただけの経験でした。自分としては、ボクシングの修行が

どんなに辛く苦しいものか何も知らず、唯花の大東京に行けると心を弾ませて、直ちにいきますと野口先生に返事を致しました。然し、野口先生は立派な人格者でしたので、先生の友人でもある出身地の新居浜市長の小野かおる氏と一緒に両親を説得に来て下さいました。当時の田舎の市長と言えば大変偉い人で両親は学校さえ行けるのならばと承諾してくれました。野口先生は明治高校で在れば大学の付属高校故に大学まで進学出来ると考えたのでしょうか。野口先生の友人である明大OBの平井義一先生に連れられ転校

手続きに行ったのを記憶しています。

明高に入ってすぐに友達になったのが野球部の冲山光利君でした。新宿御苑、浅草とか東京らしい街を色々と案内して貰いました。楽しい思い出が一杯です。冲山君の自宅が駒込にあり、彼の両親にも大変可愛がって頂きました。先ず一番に驚いたのは校庭がコンクリートだった事。その為に田舎から持参していた新しい下駄を履いて登校し、校庭を歩くとカランコロン、カランコロンと大きな音がして失笑を買った事。とても恥かしい思い出です。明高野球部

祝 第42回総明会総会

49年卒 翼 明 会

翼明会役員一同

は昭和25年島岡御大監督の下、甲子園に出場し、沖山は首位打者となり、学内でも花形選手として優遇され、羨ましい存在でした。私も野球部の松田、村山、友野達と友達になれ、昭和25年の11月6日のプロデビュー戦には、応援にきてくれました。結果は1R、KO勝ち。学友達の自分に対する接し方がすごく優しくなったのを覚えております。授業では体操の松枝先生が若い新人先生で昔の軍国主義時代の教育を受けた先生でしたので、口よりも手の方が早い先生でした。然し、みんな楽しい想い出です。誰一人として殴ら

れなかった生徒はいない位でした。卒業式の日には沖山達7人と男坂の踊り場でチーター（松枝先生の愛称）を殴り返して遣ろうと相談がまとまり、卒業式の後チーターを呼び出し、私が一番先に顎に一発殴る約束が出来ていたのですが、先生は石段の下まで来たところ、7人の顔を見て、穏やかではない雰囲気を感じ走って逃げ去りました。追いかけることも出来ず、皆で神保町の街に繰り出し、懐かしい思い出話しに花を咲かせた事を昨日の事の様に鮮明に覚えております。早や半世紀以上も前になった事が信じられない位です。

**祝 第42回総明会 総会・懇親会**

**昭和52年卒**

**男子校根性組**

<http://www008.upp.so-net.ne.jp/dankongumi/>

# 音楽が人生

昭和42年卒 M41 村山 雄三

私は昭和23年、神田神保町に生まれ、その古本屋街で育ちました。錦華小学校（現お茶の水小学校）に入学、小学校に通いながら明中、明高のお兄さんをよく見ていました。小学校5年生の頃には、明中に入ろうと決めていました。でも、当時私立中学に行くのは1クラス2、3名でした。さて、明治中学に入学した時の事は46年たった今でも覚えていきます。4階建のレンガ作りの古い校舎でした。

私は中学入学と同時にクラブ活動をマンドリン部に決めました。理由は兄がマンドリンをやっていた事、そして何より音楽が好きだった事です。これが将来の自分の人生に大いに関係があるとは思いませんでした。中学高校とクラブ活動を続け、明治大学でもマンドリン倶楽部に入り、4年生の時はキャプテンまで務めさせていただきました。しかし、卒業と同時に製紙会社に入社して勤務していましたが、音楽に対する情熱、どうしても音楽をやりたいという希望が強くなり、30才を目前に会社を辞めて、音楽の世界に飛び込んでしまいました。何と

無謀な事と思いましたが、先輩というのは有り難いもので、当時、様々な音楽活動をしなから駿河台下にあった、今は無きロシア料理のレストラン「バラライカ」というところで生演奏をしておりました。そこに明治高校（明治大学）のマンドリン部の先輩であった佐伯亮氏が食事に来て、私が脱サラして演奏家になっている事をしることとなりました。

当時、美空ひばりが専属のマンドリン奏者を捜してほしいと頼まれていた佐伯氏は早速私に白羽の矢を立て、美空ひばり専属になってみないかと誘われました。最初は驚きもありましたが、佐伯氏はひばりさんの編曲を多数手掛けていた事あって、専属バンドの中に入る事になりました。昭和56年から彼女が他界する平成元年まで約8年間専属のマンドリン演奏を行っておりました。美空ひばりさんの偉大さは、テレビ、雑誌等でたくさん紹介されていますが、身近に彼女と接して来た私にとって生涯の勉強になった事は事実です。私が思う所、歌のうまさ、リズム感の良さ、自然に出る体の動きと表現力。それは先天的なものであると思いますが、幼い時からの弛みない努力があったからと側近の方から伺っております。

また、人の数倍の「耳のよさ」です。並みの歌手では気が付かないハーモニーの中のチョットした音の違いなどにすぐ気が付くのです。何度驚いたことでしょう。一音楽家として畏怖の念を抱きました。但し、ひばりさんのステージは何回やっても緊張と感動の連続でした。ステージの幕が開いた時のお客様の興奮と渦まく様な歓声は忘れることが出来ません。皆様よくご存知の「悲しい酒」は歌い手と演奏家の糸のからみ合いのような曲です。その日その日の感情によって歌い方、揺れ方が違うのです。でも、何とかそれに近づ

けようとする演奏がたまらなく楽しいのです。そのひばりさんも仕事中は大変厳しい方ですが、仕事が終わってプライベートな時間は本当に楽しい方です。ほんの数回でしたがゴルフに行ったり食事に行ったりしました。今となっては良い思い出です。早いもので美空ひばりさんがこの世を去って18年が過ぎていますが、いまだにテレビをはじめとする報道は続いています。彼女の様な歌手が簡単に現れない証拠でしょうか。合掌。

さて、我がマンドリン部には、佐伯亮氏以外の外にも多くの作曲家、編曲家、演奏家を輩出しております。それも一流の音楽家です。音楽学校では無い明治高校から出ているということは本当にすごい事だと思います。その理由の一つとしては、先輩、後輩の素晴らしいつながりからだと思います。終りにマンドリン部の現役後輩諸君、先輩、後輩、友人を大事にして人脈を作って行って下さい。場合によっては、勉強よりも大事な時もあるかもしれません。これからもマンドリン部の歴史が永遠に刻まれていく事を祈ってやみません。

祝 第42回総明会総会  
明治高校マンドリン部OB会  
会長 佐伯 亮 (昭和30年卒)

# 男坂讃歌

## バレーボール部

昭和54年卒 明誠会 熊澤 正幸

私の生涯の恩師は故松枝正弘先生です。

私もバレー部で、のど輪、前頭部はたき、ももすね蹴りをたくさんしてもらいました（最近の先生はたたくとすぐ怪我をさせるけどチーターはそんなことなかった）。

バレー部の想い出はまず中学1年のときでした。先輩たちにおどされて魔のバレー部に入部。当時の我校バレー部は、九人制で黄金期を築いた伝統

部らしく練習は土のオープンコートでした。となりで相撲部の先輩たちが土俵でぶつかっていました。

中1入部の緊張感夏は夏の合宿でした。当時はやはりオープンコートで伝統的にわざわざ物凄く暑い前橋にいきました。逃げたいのはやまやまでしたが行きました。恒例の前橋市敷島公園にある新花の茶屋という旅館が定宿舎で部屋の下に鯉が泳いでいる旅館でした（昔の先輩は合宿中にお腹がすいてその鯉をかつぱらってさばいて食ったとか。スゴイ）。

合宿は、先生がたまたまみえず、その代わりありがたくも熱心な諸先輩方がみえて頂き、大変でした。今に思うと練習のための練習かなという気もなきにしもあらず。皆、大松枝の真似（スミマセン）大変しごいて頂きました。私は中1で幸いにも助かりましたが、中2以上の先輩は、たとえば「世界1周」？、これは終わりのない罰でコートの廻りでフライングレシーブをさせられる、翌日の朝はシャツに腕、足の膿がベッタリではがすのが悲鳴・・・。休憩時間は、おちんちに赤チン、

# 明治高校バレー部OB会

会長 山口 一磨(昭和27年卒)

監督 山中禎一郎(明治高校教諭)

ムヒ、あげくは歯磨き粉でスー  
スー。合宿の最終日の前日、  
皆明日は帰れると喜び勇んで  
寝ているときに、OBの先輩  
が突如夜中、「これから夜の  
散歩に行くぞ」と枕を蹴飛ば  
し起こされ、皆練習着に着替  
えて宿舎の門前に整列、OB  
の先輩を呼びにいくと。先輩  
が来て「冗談だよ。早く寝ろ」  
とか。当時高校1年だった石  
田先輩（高校ジャパン選抜参  
加）も青色吐息。でも翌日、  
最終日にオープンコート4面  
の真ん中で皆で泣きながら部  
歌「古い顔」を唄い合宿から  
帰ると少しおとなになったよ

うな気がしました。

あとは、中学の遠足で大島  
にいったとき、早や食べ過ぎ  
ておこずかいを使い果たした  
私は三原山に登れずブラブラ  
していると、「熊あーっ!!こっ  
ちに来い。」松枝先生に捕ま  
り怒られたあげく、先生のポ  
ケットの中から300円（たしか）  
を頂き仲間と一緒に登らせて  
もらいました。これを家に帰っ  
てから親に言うとは大変感謝感  
激。当時は「先生、うちの息  
子をもっとぶん殴ってください  
い」という親がたっくんいた。  
とにかく明治、メイジ、で  
教わりました。男坂よ誠に有

難うございました。今でも見  
上げるとしゃんとするよ。早  
稲田、慶応、待ってろよ。い  
つの時代も明治は後から行く  
ぞ。

独立自治、権利と義務、原  
理原則、全身全霊、人間どこ  
までも人間、「この人と思っ  
たらキンタマにぎれ」、すべ  
て有難うございます。

つい先日、同期の友人が  
「俺らはなにがあっても生き  
ていけるだけの教育はつけて  
もらっている。」と言ってい  
たのが忘れられない。

昭和36年卒

総明会  
名誉会長

明治大学教授

**向殿政男**

TEL 03-3701-1691

## エーゼット株式会社

服部 洋一(昭和41年卒)

服部 雄二(昭和44年卒)

大導寺和幸(昭和44年卒)

〒101-0025

千代田区神田佐久間町 4-22

TEL 03-3865-9577 FAX 03-3865-1162



男坂讃歌 応援指導班  
地獄?のランニングコース

昭和54年卒 明誠会 岩田 茂

運動部はトレーニングの一環として、校外へランニングに出かける。

各部は独特の掛け声のもとランニングするわけだが、応援団の場合「明治フアイト!」「おいさあー」「おいさー」である。

ある日、私が応援団に入団し始めてランニングに出かけた。そのとき先輩から「おまえらあ、これからランニングに行くからコースをよく覚え

えておけ!」と一言。中学1

年の私は必死でコースを覚えながら走っていたのだが、どうも覚えにくいのである。通りに沿ってまっすぐ走っているかと思うと、みょうなところを曲がる「これじゃあぜん

ぜん覚えられないなあ?」と思つて走っていると、急に先輩たちの掛け声が大きくなりハツラツとしてきたのである。「?」と思つて走っていると

その先に見えてきたものは、なんと女子高!そこは九段坂上にある和〇九段高校である、その後は〇百合高校、三〇田学園、〇妻高校と順に巡っ

ていったのはいうまでもない。

最終目的地は皇居北の丸公園であつたが、血氣盛んな男子校生にとっては精神修行と肉体鍛錬と〇〇処理を兼ね備えた実に効率的なトレーニング方法である。これが応援団の伝統というものであろうか?神宮球場のスタンドに響き渡るあの声はこうして鍛えられたのであつた。

いま思うと女子高の正門の前を、短パン&ランニングの汗だくな男の集団が大声を出して走りぬけるのだから迷惑なものだったと思うが…。

昭和 45 年卒「獅子の会」

平沼 孝之

駒形 善上人

〒111-0043 東京都台東区駒形 2-7-3  
TEL.03-3841-7856

・毎週 月曜日  
定休日 ・第2・第4日曜日

昭和43年卒  
齋藤会計事務所

税理士 齋藤 昌照

〒231-0023  
横浜市中区山下町194 外丸ビル3F  
TEL 045-664-4175  
FAX 045-664-4177

## 男坂讃歌 英語部

〜ディベート編〜

昭和54年卒 明誠会 河合 洋

当初、英語部としての活動はあまりしていなかった。高校Ⅱ年になって、自分達がイニシアティブをとるようになった時、ユニオンの大会競技に参加してみることになった。6大学やその他大学付属高校の英語部の集まりでユニオンをいうものがあり、そこに所属している学校が参加して、ディベートやスピーチコンテスト、英語劇の大会等をしていた。

最初の大会はディベートであつた。

あるテーマについて、それを肯定する側 (Affirmative) と否定する側 (Negative) に別れ、一定時間内に、ジャッジにいかに関心する主張が正しいのかを証拠と論証で説明し、勝ち負けを競うものだった。

他の学校は経験が豊富であつたが、我々は文字通りディベートのディの字も知らなかった。このときのテーマは、当時家永 (いえなが) 裁判で問題になっていた教科書の国家検定問題で、一通りのルールを覚え、準備を始めた。ディベ

トは一つの問題を肯定、否定という正反対の立場で考えることから、物事を多面的に考える練習になるのだ。この時は5人制ディベートで、5人全員が発言しなければいけないルールになっていた。できるだけ想定質問をつくり、あらかじめ作っておいた文章で、質問や受け答えをすることにしたが、W君には、相手の質問に対し適当なところで「We beg your pardon?」(なんとおっしゃったのですか?)と一言聞く役になってもらった。

最初の試合が始まり、「あなた方のフィロソフィーは何

ですか?」と聞かれたが、そんな言葉は初耳だったので、早速W君に活躍してもらった。すると、会場からざわめきが起った。フィロソフィー (基本的な考え) はディベートでは基本用語だったのだ。観衆は、こいつらそんなことも知らないのかという感じだった。それでも相手は紳士的に別の言葉で聞き直してくれた。その後のことはよく覚えていないが、完敗であつた。

同じリーグの早稲田チームと少し仲良くなり色々話したが、結構どのチームも帰国子女がいるようだった。早稲田にもアメリカ帰りが一人い

た。君もどこかにいたの？と聞かれた。自慢じゃないが、帰国どころか海外旅行もしたことがなかった。

2日目から作戦を変えた。とにかく短時間で4人が何か言って、全員発言ルールをクリアし、残りの時間を一人が相手の主張を聞いてやり取りすることにした。

最後の試合は、△△(検定は廃止されるべきだ)の側だった。

「良い教育を受ける為には、傾いた思考の先生に勝手に教科書を作られることは良くないので国家検定は必要だ」と

主張する相手チームに対し、「先生を信用できないでどうして良い教育を受けることができるのだ」と主張して、かなり良い雰囲気でゲームを終えたので、勝ちもあるかもとちょっと期待した。ジャッジの先生は、判定を告げる前にこの判定は大変難しかったと言ってくれ、我々にかなり好意的なコメントをしてくれた。しかし、負けだった。

なんとと言ってもノーエビデンスだったからな。

もう一回やったら 絶対勝つぞ。

# 男坂讃歌 英語部

〔英語劇編〕

昭和54年卒 明誠会 福田 浩司

明治が会場を提供し、視聴覚教室の舞台を使って英語劇大会を行った。

劇をするのは初めてであった。喜劇か悲劇かどっちをしようか？喜劇で笑ってもらえないとつらいから、悲劇をやる。どうせならオリジナルをやる。という事になった。

夏休みに2週間くらい学校に詰めて、ドラマの基本テーマを考え、かなり悩んだ末に太田裕美の「木綿のハンカチーフ」を元にKが脚本を書いた。田舎から希望をもって都会に

出てきた青年が、都会の厳しい現実に近い、バーで酔ったうえ、喧嘩に巻き込まれ、誤って人を刺してしまう。という話だった。

インパクトをつけるために劇の幕が開いた瞬間に殺人の場面を配置した。主人公Kの絶叫の場面で観客から地鳴りのような歓声と拍手が巻き起こったときは、舞台の袖の全員でガッツポーズをしたことを覚えている。

初めて脚本を書いたKが、この時痛感したことがあった。それは自分の頭のなかには、舞台がなく、あるのはテレビだというのだ。一つの舞台で劇が進行せずに、すぐにシー

ンが変わってしまったのだ。これについては、バックのスクリーンに映像を映し出したり、舞台を半分ずつ開けて、その間に締めているほうの舞台のセッティングをおこなったり色々工夫をした。AV担当のHが頑張ってくれた。幕開けの瞬間、スクリーンに大きく都会の夜景が映し出されたとき、会場からおおっという声が上がった。

配役は我々の代と1年下の後輩で行ったが、ここでも問題があった。男子校の我々の中に当然ながら女性がいないのだ。バーのシーンで一箇所だけ女性が出てくるところがあった。じゃんけんで負けた

TとFがこの役になった。髪とドーランをつけた二人が登場したときは、どこかの女生徒は「もう止めて」と本気で叫んでいた。

演技やメイクは、田村先生にご指導を頂いた。初めてドーランを塗ったときのこと。先生に塗り方を教えて頂き、実際に顔に塗ってみた。そして、ドーランを落とすのはこのワールドクリームですといって瓶を開けたとき、「あれっ、変だな、なくなっちゃっている。」といわれたのだ。それからあわてて、ワールドクリームを探しに近くの化粧品屋さんに走った。高級品はあるのだが、安いのはなかなかみつからず、

どうしようかと思った。見つけたときにはとても嬉しかった。

練習をしている最中に、田村先生が台本を英語の先生にみてもらったらしい。評価は結構よかったが、教科書みたいな英語の中に突然スラングがでてくるといわれたと教えて下さった。衣装も、TとF以外は自分の服だった。この点、古典をやっていた他校は衣装にも気合がはいっていた。慶応は女子高と連合で出てきていた。

初めてのドラマ参加であり不安もあったが、主催校としてオオトリを務めたわれわれの劇は、幕引き後に鳴り止ま

ぬ参加校のスタンディングオベーションで終わった。明治高校英語部員としての誇りを持てた瞬間である。

Kがけんかをする酒場の場面では、雰囲気を出すために本物のウイスキーを使った。そのために、客の役の何人かは出番が終わってふらついていた・・・。

主人公Kが人を刺してしまっただあとで、絶叫するところがあったが、ここでKが絶叫するのは、中学時代にKが授業中によく叫んでいた「しずかにしろ」・・・いわゆる「しずやしー」をモデルにしていたことは、K自身は知らないと思う・・・。

# 男坂讃歌 スキー部

昭和54年卒 明誠会 千崎 修

♪幼い頃に遊んでいた、学生時代に付き合った、いろんな友がいたけれど・・・  
今から33年前に丸坊主で通い始めた男坂。いろんなシーンが蘇ってくる・・・もしこれらが後輩たちへの伝説となるのなら、毎日、坂を上り下りした私たちを褒め称えたい。  
冒頭の歌は皆様ご存知の「古い顔」。私が男坂生活6年間を過ごしたのはスキー部でした。平成15年に他界された水落先生（通称ターザン）率い

る迷門中の名門？運動部である。そして、そのターザンがこよなく愛していた歌である。  
おかげさまで今でも私はソラで歌える。テーマが男坂讃歌だけにスキー部と男坂の因果関係を少し紹介しましょう。  
たしか、当時のトレーニング名は「スラローム降り」  
階段の最上段から回転競技を仮想とし、三段アケぐらいで降りてくる根性と筋力を鍛えるスキー部独特の練習法。これで技術が飛躍的にアップした輩を私は知らない。ぼんぼん中のぼんぼんが集まる（私は例外）部だけに、日常の練

習も適当に出てきてウィンターシーズンに財力を駆使し本場のスキー三昧の輩には絶対になわなないのに日々繰り返し「あれは鍛錬である」と言う事で私自身は納得したが今の後輩達はどうのような「鍛錬」をしているのか。でも今、男坂を見るとぞっとする。無茶な事をしてきたものだ。そして語り継がなければならぬ「鍛錬」が、もう一つ、いや、スキー部を代表とする「鍛錬」といっても過言ではない、肉体トレーニング・正座・荷物もちなどのクラブにもある他愛の無いものだ。

この話に触れる前に皆様は「合宿」のイメージを初合宿参加前にどのように思っていたか。アニメの「巨人の星」や「アニマルワン」など見ていた世代にとっては「練習以外」の時間の楽しいひと時なども行動予定として、いやその部分を大きくイメージしていた輩も多いはずである。そう「日光移動教室」にトレーニング時間がプラスされるくらいでしょうか。  
中学1年生の立山雷鳥沢夏合宿は、そういった思いの中から始まった。数日前に2級上の先輩からの「下着は多め

にもってこいよ」の理解もできず。新宿発の夜行長距離バス、室堂到着、部員全員のスキーを中1坊主が担いで、山道歩行、山小屋に入宿。普段のきついトレーニングから、それくらいは想定内。雨の日の休憩時間ミーティング中、それは突然やってきた。「中1なんか余興やれ」「余興」それはスキー部ならではの身につけなければいけない処世術。芸能人のモノマネや先生のモノマネ、面白い小話などを披露する上級生には楽しい時間。

同期のKがつまらなかった瞬間である。ドタバタバタバタ「コノヤロー」など罵声とともに同期の着ぐるみはみるみるはがされ、まだ芝にもなっていない股間の小さい象さんが登場！「メンタム持っでこい」「オラオラ」「ヒャー」。そして静寂「風呂行ってこい」その鍛錬名を後に人々は「キメ」と呼んだ。当時の先輩方は創造力がたくましく、いろいろなバリエーションがあった。ガムテープ式、エロ本強制読ませ式、キンカン式、マジック書き込み式など豊富でした。当然、私も「鍛錬」していただきました。最上級生だからといっても免罪符には

ならない。同級生からの「キメ」もあるので対象者は全員。さすがに私が最上級生の頃は合宿中一人一回未満の規制緩和を行って卒業いたしました。現役では続行されているかは未確認（これは魔女の黒ミサのようなもので確認のとりようが無いです）辱めに耐える「鍛錬」も積んできたのである。

はたして危険極まりない練習方法と集団リンチまがいの行為は、共学では絶対無理でしょう。父兄に訴えられたら廃部どころかが社会問題になってしまうだろう。おそらく上

にたつ立場の部長や幹部の方々のセンス、バランスがあつての話だったのである。しかし明治の独立自治の精神とは、厳しい中にも自主性を持たせる教育精神と理解します。指導者の方々のみならず父兄の方々も理解していただく事が後輩たちへ私のできる事です。

厨房のアメニティを創造する

津守興業株式会社

代表取締役 津守 徹

(昭和51年卒明々会)

〒332-0001

埼玉県川口市朝日5-5-22

T E L 048-222-6187

F A X 048-222-8584

男坂讃歌 吹奏楽班

明治のブラバンは体育会系？

昭和54年卒 明誠会 池田 浩司

昨今、吹奏楽が非常に人気  
のようである。テレビでも吹  
奏楽の話題が多く、昔を思い  
出す今日この頃です。

30数年前の明高のブラバン  
は、今考えるといかにも男子  
校のクラブだったように思え  
る。特に、中学生時代は、ど  
この運動部とも同じように下  
級生時代の苦労がある。ブラ  
バンの場合、一番嫌だった？  
ことは、楽器運びである。30  
数年前、野球部はそこそこ強  
く（野球部のOBの方々スマ  
マセン）、応援団とブラバン

は神宮に応援に行かなければ  
ならない。

当時、明高から水道橋、総  
武線で信濃町、そして神宮球  
場へと下級生が上級生の楽器  
を含め全て手運びをした。そ  
れも、なぜか歩くことは許さ  
れず、重い楽器を両手で持ち、  
脇の下には小さな楽器を挟ん  
で、走るのである。中学1年  
の小さな体に楽器を持たされ、  
中学3年が先頭で走るのであ  
る。暑い時期に、水が飲みた  
くて喉がカラカラになった記  
憶が今だに忘れることができ  
ない。もちろん、神宮球場で  
ジュースなどを飲むことは許  
されない。ただ、トイレに行

くふりをしてトイレで水を飲  
んでいたものだ。当時、下級  
生は楽器を吹くことより、楽  
器運びのためにいるような扱  
いだったように思う。他にも、  
理不尽なことが、たくさんあっ  
たクラブでもあった。ブラバ  
ンのOBの方なら思いだして  
いただけると思います。汗を  
かいたこと、辛くて泣いたこ  
とは何年たっても忘れない思  
い出である。

吹奏楽部、ブラバンは、文  
化部の象徴のように世の中で  
は思われている。

明高のブラバンは、いかにも  
男子校の体育会系のブラバン  
だった。

祝 第42回総明会総会・懇親会

# 吹奏楽班OB会

会 長 竹 越 利 之

(昭和53年卒)



## 男坂讃歌 硬式野球部

昭和54年卒明誠会 吉田 正穂

高校1年の春。場所はつっ  
じヶ丘のブルペン。「とにかく、  
やってみろ！」私の恩師、  
卯木敏夫監督の言葉でした。

中学時代は剛球投手だった  
私？。甲子園を夢見て、硬式  
野球部に入部した。希望に満  
ちた16歳の私が硬式ボールを  
投げてみた。「ヤバイ！」少  
年の希望が見事に崩れていっ  
た。ボールがキャッチャーの  
手前で急降下するのだ。俗に  
言う、球がおじぎするのだ。  
これじゃ甲子園どころか、試  
合にも出られない。そんな時

に、監督さんからかけていた  
だいた言葉でした。

やってみろと言われても、  
何をどうやるのかもわからず、  
とにかくやってみた。一日、  
何百球投げただろう。それも  
毎日。手首を曲げてみたり、  
親指ではじめてみたり、サイ  
ドハンドにしてみたり、とに  
かく考えられることは何でも  
やってみた。そうこうするう  
ちに、カーブが曲がり始めて  
くれた。しかし、直球は相変  
わらず速くなってくれなかつ  
た。「こうなったら仕方な  
い、カーブピッチャーになろ  
う！」剛速球投手、江夏に憧れ  
て野球を始めた私がカーブピ  
ッチャーになった瞬間でした。

「とにかくやってみる！」  
46歳になった今でも、この言  
葉は私の宝物です。

カーブがまあまあ切れて、  
ピッチャーもクビにならずに  
すみ、そして、いよいよ高Ⅱ  
の秋。甲子園の補欠校になっ  
た一つ上の先輩方が引退して  
いかれ、私たち同期は10人、  
1つ下が3人。不安だらけで  
した。それでも我らがキャプ  
テン、熊倉を中心に頑張りま  
した。頑張ったと言っても、  
結局、甲子園には行けません  
でした。試合のことをあれこ  
れ書いても「トラレバ」とか、  
グチめいたことが多くなりそ  
うなので、ここでは書きませ  
ん。でも、試合に勝つために

つつじヶ丘で汗を流した3年  
間は、一生、忘れません。す  
ばらしく優しい？先輩も沢山  
いました。しんどかったけれ  
ど、楽しい思い出です。テー  
マが男坂讃歌なのに、つつじ  
ヶ丘讃歌になってしまい申し  
訳ございません。でも、野球  
部の人はみんなそう思ってい  
るはずです。つつじヶ丘よ、  
ありがとうございます。

昭和五十六年卒  
硬式野球部OB  
須藤司法書士事務所

司法書士

須藤貢一

〒一三五〇〇四六  
江東区牡丹二一九一 一六一九一四  
TEL〇三―三六四三一 一六五〇

# 男坂讃歌 柔道部

昭和54年卒明誠会 木村 弘樹

最近、あのヨットスクールの校長が刑期を終え出所したとの事で、テレビで何度か見た。どの番組でも子供に対しての体罰の是非についてのみの討論でヨットのおっさんも必死に語っていたが、何かムカつく思いがし、直ぐにチャネルを変えてしまった。俺が思うには、体罰に至るまでに何があったのか、また事後はどうなったのかが大事であり、体罰そのものは流れのひとつでしかないと思う。

我々が明治に入学した当時は、恩師達や先輩達からの愛のムチは日常茶飯事で、俺も自慢じゃないが、ほとんど毎日のように誰かに殴られていた。皆さんもご存知のチーターを始めとして諸先生からもゴツツアン！になったが、一番いただいたのが我が柔道部顧問のダジマ大先生だ。

まだ柔道場が男坂の横にあった頃、昼休みにミーティングをしていると大先生が道場へ入ってきて、掃除が行き届いていないとの指摘をされて出て行った。その後、放課後の練習時にまた来られた時、確

かに掃除をしたのだが、大先生の目には綺麗になっていなかったのだろう（大先生は見ただ目に似合わない、結構タンディーで綺麗好きだったのだ）突然キレてしまい、その時に参加していた部員全員を片っ端から殴り沈めていったのである。当時の高校の先輩達には100kgを有に越す人も居たのだが、その先輩達も宙に浮いていた。おそらく20人以上は仕留めたのではないだろうか、今、考えてもやはりあの大先生はスーパーマンであり、十分に尊敬に値する人物だったのである。ただ力だけが凄いのではなく、

全員を同等に殴ったところが凄いのだ。しかし、中坊だった我々は、この後、高校の先輩達からどんな目にあっただかは皆さんの想像の通りだ。

このような恩師や諸先輩方からの愛のムチにはそれなりの理由があったからこちらも覚悟が出来ていたし、殴られる時も本気で来られるだけに怖かったし気合いも入っていたから怪我も無かった。またボコボコの顔で帰っても親達はまたこのガキは悪い事したのかぐらいで何も言わなかったし、俺も、なんか恥ずかしいのか何も言えなかった。し

かしここで大きかったのが、同期の悪友や、同じ釜の飯を食った先輩達のフォローだったのだ。もちろんムチをくれた恩師や先輩達も何かの形でフォローしてくれたが、やはり気持ちの分かる仲間達のフォローは大きかったし、お互い事あることにつながりは深まっていた。それが大学の頃には“なかよし会”という輪になり今でも俺にとっては大事な財産になったのだ。

松枝先生や小田島先生、またお世話になった他の先生も他界されたが、俺の中にはいつまでも元気な先生方は存在し、今でも時々、夢の中で殴られている。

俺は明治を卒業して直ぐに大阪に配属となり、誰も仲間の居ない所での生活となったが、この恩師や“なかよし会”の連中のおかげで今日まで約20年何とか頑張ってこられたと思う。今でも東京に帰り、男坂へ行くとあの6年間上り下りしながら刻み込んだ思い出の一ページ一ページが蘇る。俺にとっての男坂は大事な大事な日記帳なのである。

明高柔道部OB会

相談役

昭和三十一年卒 福田 二郎  
昭和三十一年卒 佐藤 康明

顧問  
昭和三十一年卒 大村 勝利  
昭和三十一年卒 鳥海 又五郎

会長  
昭和三十一年卒 小川 洋一

副会長  
昭和三十一年卒 中谷 捷治

幹事  
昭和三十一年卒 中井 一郎

幹事  
昭和三十一年卒 中野 一郎

幹事  
昭和三十一年卒 中本 義行

昭和三十一年卒 中島 平人

昭和三十一年卒 近藤 義典

昭和三十一年卒 有田 幸彦  
昭和三十一年卒 木村 弘樹

## 男坂讃歌（坂の上の白雲）

昭和54年卒明誠会 明治十三年男

慣れ親しんだ男坂を、こんな気持ちで下りる日が来ようとは・・・。

真新しい学生服に身を包み、意気揚々と下りて行ったあの4年前には思いもしなかった。昭和51年、もうすぐ高Ⅱの春。「この坂もこれが最後かなあ・・・」、横には肩を落としたお袋がいた。男坂が長く、そして少し急に感じられた。落第を宣告された日、3月にしては暖かい午後の事であった。誰もいない教室にお袋を残して校内を歩く。思い出を刻み込む様にのんびりと。ふと一抹の不安が頭をよぎった。

「他には誰もいないのだろうか、まさか俺だけ？」 ほどなく不安は消えた。自分の家が一番学校に近かっただけ、そう気づくのにあまり時間はいからなかった。

神妙な顔つきで次々と現れる面々、ホッとした様に「なんだよ、お前もかあ！」が挨拶代わり。「これからどうする？」の質問が飛び交う。いつしかまた神妙な顔つきに戻っていた。

その後、続々と集まった同級生は、なんと20人。学年の8%にあたる人数だ。「嘘だろう、多すぎる！」それは前年から始まった明治高校変革にあった。その荒波に飲み込まれた20人、16歳だった。有り得ないと言う憤り、自分が

だらしなかったと言う反省、味わった事のない複雑な思いが駆け巡る。何かを思い切り叫びたかった。

救われたのは、言うならば明高気質であろう。逆境の中でも明るさとたくましさが出す。仲間がいればなおさらだ。またそこに生まれた妙な連帯感にも助けられていた。ふさぎこんでいた気持ちが少しでも晴れた様な気がした。いつしかみんな前を向いていた。

あれから30年、あの時学校に残った者、辞めていった者、残ったけど続けられなかった者・・・。20通りの選択、20通りの人生。どれが失敗、どれが成功、誰にも自分にも分からない。ただ大きな落し物

をした。その気持ちだけは残っていた。

今年、幹事学年（明誠会）として明高に顔を出す事が増えてきた。そこには母校がある。同級生がいる。なんと誇らしい事だろう。やっと30年前の落し物を見つけられた気がした。退学も落第もない集まり、それが「同期」であろう。この歳になってもう一度入学した気分だ。卒業は逝く時である。

2006年初夏、男坂だけはあの時と変わらぬ。大きく深呼吸をする。緑の香りが心地よい。その坂を仲間と共に下りていく。意気揚々と、そして少し誇らしげに。

## 男坂讃歌 番外編

## 天井いもや

昭和54年卒 明誠会 千崎 修

平成18年3月31日の昼過ぎに実行委員長のK氏が私の会社に来訪した。用件はゴルフ会の案内・同期への案内の資料渡し。午後2時前ぐらいの来社だったので、そのあと遅めの昼飯を「天井いもや」で済ませた。会社が近いので月2回ぐらいは行く、遅めの暇な時間に行ったのは少々である。先代が2年前（平成15年11月）に亡くなっているの息子さんがきりもりしている。天井中盛を食べ終え、お勘定を済ませるとかしこまって

「1月に母が逝去しました」「えっ、この間玄関先から出かけるのをお見かけしましたよ」。私の記憶が曖昧なので2代目につっこまれても何時とは返せない。11月の中旬に検査で病院に行き、検査結果を聞きに行ったまま入院、腎臓ガンの末期状態で短い闘病生活からのご逝去。「よろしかったらどうぞ」玄関から上がらせてもらいご焼香、先代と女将さん仲良く仏壇に納まっていた。

いろいろな事が思い出される。中1の時にK氏に連れて行ってもらったのが始まりで、K氏もたまに来るそうだ。応

援指導班のHは先代に「帽子を取れ」と怒鳴られていた。武蔵境のFは「キスだけの大盛」を食べていた。同期の中での定番は「キス抜きイカ追加の大盛」。

ある日の昼下がりに、客もまばらな時間帯、雑誌社の女性編集者が女将さん取材して居るのを聞いていた。「学生さんが多いですね、お一人お一人にご飯の量をお尋ねになるのはどうしてですか」「食欲旺盛な学生さんには沢山食べてもらいたいし、女性の方は小食です、お米を大切にしたいのです」。大盛・中盛は一粒も残さず食べると500

円（現在の価格、たしか中1の時は220円）。先代も女将さんも明中・明高生の胃袋の面倒だけでなく躰役も担っていた。それは「いもや」に限らず、周辺の暖かい目に守られていたのです。

平成18年1月21日ご逝去・・店を出て手帳を見るとその日には昨年末に急逝した母の納骨スケジュールが残されていた。東京は忘れもしない雪の降る寒い日でした。

## 天井いもや

日、祝祭日を除く十一時より十六時まで営業  
電話 〇三・三三二九三・〇三六六

伝えたくない讃歌

― 学校謹慎 ―

昭和54年卒 明誠会 千崎 修

私たち54年卒は、中学入学時183名、まともに6年間で卒業した人数が150名をきるといふ当時の世代で最悪のレッテルを貼られた学年でした。それは学業怠慢だけではあき足らず、素行についても抜群でした。「学校謹慎」それは退学・謹慎者が増えるのを避けるための空前絶後の処分・苦肉の策であったのだ。晩秋の2号館・職員室直下の会議室で我々は有意義な「学校謹慎」3日間を過ごした。昼休みはスター気取りで校庭に遊ぶ同輩たちに手を振った。

さて、学校謹慎者の構成を説明しよう、修学旅行札幌ホテル非常階段喫煙組（なぜか全員高校入学組で3人、可愛いもの）、N大三高出入り神田警察ご厄介組（私を含む10名前後、これがやんちゃ組）、体育祭前夜の宴会、チーターに現場踏みこまれ組（運動部幹部、生徒会会長、副会長など20名ぐういはいただろうか）。この時の回想をK君に書いてもらった。

時は昭和52年秋、体育祭前夜。翌日の体育祭の準備を済ませたメンバー（生徒会長をはじめ各運動部主将などの中心メンバー）は体育祭開催に備え、つつじヶ丘明高グラウンド内の野球部合宿所に前泊。

やはり当然の如く血気盛んな若人の酒盛り宴会が始まりました。

「そういえば合宿所に酒があるぞ」「飲もう飲もう」と始まり、誰ともなく宴会の開始。始めのうちはさほど騒いではいなかったと思うのですが、だんだんと酔いがまわり男同士で抱きつく者なんかもいて、大声で明高生らしく元気に騒ぎ出したような記憶があります。そのうち酒がきれて、周辺地理に詳しい某部の同期が「〇〇に行つて酒と氷買ってこよう」ということになった。それから〇〇へ数人で騒ぎながら買い物組が発発。行きも帰りも騒々しくバレー部のK（筆者）などはフ

## 明雪会

スキー部OB会

会 長 堀 眞壽（S46年卒）

副会長 戸張 毅（S47年卒）

津守 徹（S51年卒）

名誉会長 若松弘昌（S39年卒）

相談役 大出育男（S31年卒）

佐藤健一（S31年卒）

山田和孝（S36年卒）

事務局 五十嵐公二（S62年卒）

深谷 剣（S62年卒）

めざせ！インターハイ

ライングレシーブの練習などを繰り返しながらで服が破けていた記憶があります。酒の補充もたんまりで益々のヒートアップ。その後は飲み過ぎで記憶がありません。ただ、さすがに夜半に近所の通報で松枝先生がいらしたときの一場面だけは未だに瞭に焼き付いています。体中に電撃が走ったようで私はいちどに酔いが醒めたのを覚えています。

それからは当たり前ですが、皆正座でずいぶんと先生に怒られました。諸先生方には大変ご迷惑をおかけしました。誠に申し訳ありません。ただただ今は反省をしております。あきれた話です。

会議室には、ほぼ1クラス

分の人数が集まり、朝から自習そして反省文の創作。この反省文というのが謎だった。1日の反省なのか処分された事に付いての反省文なのか、だいたい1つの事件に3日間も反省文など書けない。くだりはいつも反省しています。なんて猿でも書ける。しかし謹慎指導の先生には質問できなかった。適当に書いて提出していた記憶がある。1日の反省は謹慎者全員での討論会。だいたい罪が違ふのだから初日は話にならないし、やんちゃ組は、罪のステータスが違ふよ、と言う感じで罪のレベルに誇り?を持っていた。それはそうだろう酒や煙草なんて日常茶飯事だから、それに対

して議論の必要はないだろう。もともと偏差値が高い集団、3日もすればまとまった内容の議事録を出せたような気がします。

今思えばいいコミュニケーションの場をあたえていたかもしれません。悪事を正当化する気はさらさら無いが、ガキの時に人様に迷惑をかけるような事と人道に外れたやんちゃな事ぐらいやっておかないと、ろくな大人にならないと思います。

私たち明誠会は入学年度・卒業年度でくくってしまうと寂しい人数になってしまいそうなので分け隔てなく総会へ向けて声をかけて集まりたいと思います。

昭和46年卒

(株)ハナワトランスポート

代表取締役社長

**塙 直樹**

中央区日本橋箱崎町12-2  
03-6667-5800

(株)グローバル インシュアランス  
保険総合コンサルタント

代表取締役

**若松 弘昌**

(昭和39年卒 明雪会名誉会長)

〒141-0031 品川区西五反田 2-9-7  
ドルミ五反田アンメゾン 1001 号  
TEL 03-3491-0900

永遠の男坂讃歌

―先生、ありがとう―

昭和54年卒 明誠会 玉置 孝一

3月に行われた卒業式に出席した時、壇上の先生に思わず注目してしまった。卒業生の担任なのだが、この女性の先生のいでたちが格好姿なのである。誠に卒業式に相応しい。艶やかである。卒業生に対し「こいつらしいなあ。」と正直思ってしまった。思い起こせば我々の時代、女性の先生といえば、保健の吾妻先生、音楽の丸山先生、英語の森先生の3人だけであった。しかも、定年が近いのである。この3人の先生が卒業式に格好姿で壇上に登場したら、きつと目を背けた、いや、何かの

間違いであろうと必死に自分を説得していたに違いない。また、謝恩会に出席すると、そこそこ綺麗な先生がいるのだ。当時こんな先生が赴任していたら、真剣にナンパしようとする輩も数多くいたことだろう。当時の我々は若い女性教師に憧れていた。はかない叶うことの無い永遠の願望だったのだ。

英語の森先生は校内でも常にハイヒール。しかも何故かハンドバックを下げていた。吾妻先生は階段をのぼる姿が辛そうだった。音楽の丸山先生はよく音楽準備室でうまそうにタバコを吸っていた。この光景をいつも見ながら禁断症状と戦ったものだった。

今、思い起こせば、ユニークな先生が多かった。生徒から「トーセン」と呼ばれていた書道の高木東扇先生は書道界ではかなり有名な先生であつたらしい。しかし、私たちはそんな先生とも知らずパフォーマンス溢れる授業に沸いたものだった。この先生のおかしなところは「書く気が起らない、気が乗らなければ、散歩でもしていっちゃい。」そして「充実したところでイッキに書き上げなさい。」しかし、散歩にいったまま戻らないヤツが多かった。また、石鹸と雑巾を持っていくと点数がプラスされたのもこの先生。話ばかりしている生徒をしかるとき「大きくなれ！ゴメン！」

高木先生の話で忘れられないのは、昔、先生が若かったころ、他校の講師をいくつも掛け持ちしていた頃の話だ。当時、明治高校を教えたあと他校の講師に行くのだが、明治の授業を時間通りやると、次の学校の授業に間に合わない。それを生徒も知っていて「先生！ほかの先生には黙っているから、早退していいよ。」

「みんな、ありがとう。」と言って毎回授業を早退していたという信じられない話。先生曰く「だから私は明高生が大好きです。」この話が終わったとき書道室内に割れんばかりの拍手が起こったのを覚えて



います。本当にいい時代だったと思います。

「ダジマ」でおなじみ英語の小田島先生も面白かった。

質問に答えられないと「ヘラクレス！」と一言。言われた生徒はその場で腕立て伏せをやらされた。その程度ならまだしも、先生の怒りに触れると「完全装備」が待っていた。完全装備とは帰り支度をして学帽をかぶり、革靴に履き替えて校庭をランニングするのである。カバンを抱えて走る姿は1号館の全ての教室から丸見えだった。

「ポンコ」村田先生の授業は手が疲れた。大きな声で古文の訳を話し、それをひたすらノートに書き取る。その合間

にたまに雑談になる。「おのれら、クソという漢字を知ってるか。クソはなあ。米が異なると書くんじゃない。分かったか！ボケ。」とか「この歌の本当の意味はな。女に着物脱いで、俺の前に横になれと言う意味じゃ。おのれらに言えるか！こら、ボケ」ボケと言ったかどうか覚えていないが迫力満点だった。あるとき、古文の読み方で「先んずれば・・・」との読みの指導で「これはなあ。サキンスレバと読むんじゃない。分かったか！じゃ。○○読んでみる。」

「はい。せ○ずれば・・・」「このバカトレ！」（爆笑）生徒も先生も全て分かってやっている。会話のやり取りを面白がっていた時代です。中学1年生。道徳の授業は福島校長でした。ドフトエフスキー、罪と罰、自由とは何か、規則とは何か。先生の講話をじっと聞きながら少し大人になったような気がしました。「タムチン」の愛称で呼ばれていた田村先生。先生は生徒が履く上履きをいつもはいていた。あれは何故だったのだろうか。動詞の活用を大声でやったの思い出される。桜井先生の通称「ズエラップ」面倒くさかった。山脇先生の授業では「君たち。今、目の前にある教科書はな。燃えているんだ。分かるか。」スイマセン分かりません。村野先生の小テストでは数々の裏技

があったが「二枚歯」は懐かしい。境田先生の授業は何の授業だったかとも思い出せません。鹿又先生の紫色のチョークは読めませんでした。松本先生の数学「こんなのはチョイとやれば・・・」名文句でした。

この文を書いているうち卒業アルバムが見たくなった。恩師の集合写真を見ていて驚いた。現在副校長の小西先生が半そでポロシャツにジャージ姿。なんと裸足でサンダル引っ掛けて座っているではありませんか。これぞ男子校の体育教師！豪快な雄姿。恐れいりました。当時新卒で赴任してきたばかり。小西先生のハードパンチャーぶりも今は

昔。剣道場のバチで太ももを一撃。鮮明なミミズ腫れが家に帰っても取れなかった。小西先生の必殺技でした。

さて、紙面の関係もあるので最後を飾るのはご存知ターゲット。松枝先生です。私たちは中1、高1、そして一部の者は高3と3年間も体育を受け持っていたきました。運が良いのか悪いのか。中1の時、先生の「全員整列！右向け、右！」軍隊調の掛け声。ビビッた何人かが必ず左を向いた。左を向いたヤツの運命は如何に。

——悲惨——

こうなるともう狂った歯車は元には戻らない。「キサマらあり。たるんでる！」「全

員整列！番号ははじめ！」

言っておくが、ここはタイムスリップした予科練でも士官学校でもない。私立の名門、明治中学の体育の授業中である。しかも、中学1年である。まだ入学したばかりで夢と希望に満ち溢れ、酒もタバコも知らないイタイケな少年が恐怖に打ち震えているのである。「イチ」「ニイ」「サン」「ヨン」「ゴ」・・・。「ナニイ！番号止め！」となりで級友が容赦のない平手打ちで倒れる。私の頭の中は「ヨン」なのか「シ」なのか。「ナナ」なのか「シチ」なのか冷静に考えられない。大声で「助けて——！」と叫びたい衝動に駆られて膝がガクガクしてくる。中途半

端なオカルト映画より数段恐い。授業が終わり、恐怖から開放された我々はいつも憔悴しきって皆無口だった。

明治の体育授業はバレエ、バスケット、縄跳び、マラソン、それと剣道。これをローテーションで6年間やるわけだが今考えれば誰も文句を言わなかったのが不思議だ。チーターの授業は勿論、バレエ。アスファルトの校庭でやるバレエは、これまた怖い。いや、痛いのである。ボールを追ってフライングレシーブなんかやるバカはいなかったが、とにかく大きな声だけは出していた。そして、明高名物の雪中ランニングである。東京で雪が降ることはあまり無い。し

かし、冬、チーターの体育の授業ではなぜか雪が降るのである。この雪の中、校庭をランニングするのである。しかも、上半身裸、短パンに裸足である。全員「白いアベベ」状態。中にはあまりの寒さに下半身も裸になったという話は全く聞かないが、これを1時間やるとなれば結構辛かった。赤くなった肌から立ち上る湯気。掛け声勇ましく走る野郎の集団は壮観であった。また、先生はしばしば授業を止めての説教。よく怒られたのが「キサマらは、烏合の衆か！」それらを三無主義と言うんだ！」などなど。まさに精神教育を超えた人間教育だった。私たちを熱い情熱で指導して

下さった先生方も、今は多くが天に召されて星になってしまった。

ここに松枝先生が亡くなられた時に作られた「永遠に語りつが 伝説の人間教育」という冊子がある。集録されている文からの抜粋を掲載したい。

『サヨウナラ・チーター』

― 一番の思い出は ―

昭和24年終戦時の焼け野原を生徒・部員で整地、一面のバレーコートが出来た時は非常に感無量でした。当時は革のバレーボールでなくビニールのレザー張りのボールが一個だけでした。40年間、入学式、卒業式、運動会、文化祭等、年中行事の企画が総て良

い思い出に残っています。特にと云えば、昭和20年後半の卒業式で泣きながら2時間も説教した時です。バレーボール部の思い出は、当間君がいた時のインターハイで5位になった時です。今から33年前です。から経済的にかなり苦しく私財もだいぶつぎ込みました。が良い思い出です。

― 明高気質今昔、

学校へ一言 ―

天と地の差があると思う。又、私は生徒に差があるのでなく親に差があると思う。昔の親は判らなかつたら殴って下さいと平気でお願いして来た。今なら大変な事です。よ。今の生徒に関しては、偏差値

主義で可哀そうと思う。学校に対しては、生徒を型にはめず伸び伸び教育して、スポーツと学業を両立させ私立の特徴をはっきり出して欲しい。

― 生徒へ一言

学業も勿論大切だが、運動部又クラブ活動へ積極的に入り個性を生み出して欲しい。

(以上 抜粋文)

先生は平成2年6月13日にご逝去されましたが、その折、千日谷会堂の告別式で千数百名の教え子たちが別れを惜しみました。先生の教えを受けた者はこの伝説の人間教育を後世に伝え、語り継ぐ使命があると思います。

最後になりましたが、個性豊かな先生方に指導を受けた多感な時代を我々は決して忘れることはないでしょう。駿河台に明治高校がなくなっても恩師の姿は我々の思い出から一生消えることはありません。未来の後輩たちの皆さん、駿河台明治高校を超えた素晴らしい新生明治高校を創って下さい。先生方と共に。

## 高瀬会計事務所

マケテイングアドバイザー

税理士

高瀬 智 亨

〒133-0052

東京都江戸川区東小岩五三三七一八

TEL 〇三五六六八二一五二一

FAX 〇三三六七二一四三〇六

E-mail: n\_takase@par.odn.ne.jp

後輩に伝えたいこと

―昭和20年代―

第6代生徒会長

応援団OB会副会長

昭和30年卒 田村 正彦

光栄にも本年度総明会幹事学年「明誠会」殿より会報への寄稿の御依頼を受けた。すでに古希を過ぎ明高史からもうに忘れ去られている身。氏名だけ名乗っても意味がない。しかし、ちょっと自己紹介させていただければ、「ああそうゆう方なんですか」と、何となく分かってもらえる。実は明高の強さの一つは誰かの名前を手繰って行くと必ず

何かの人脈に辿り着き懐かしい仲間になれるという人の繋がり、の強さにある。

私達の明中入学は戦後の復興が急ピッチで進められる昭和24年。男坂を下りたすぐ左側の新築モルタル2階建の4教室でのスタートである。

今時は1学級の定員数は30名だの40名が目標らしいが当時55名以上の級友が切磋琢磨し青春を謳歌した。何の不満も不都合もなかった。恩師のお顔とお名前は今もすべて鮮明に輝いている。

私は第6代生徒会長。初代橋本、2代石橋、3代杉山、

4代富田、5代須藤会長に生徒会草創期から仕え育てられた当時を知る数少ない生き証人の一人である。第7代名会長中田氏は近年物故。多くの先輩学友と共に「伝説の黄金時代」の一時期を支えた一人であるという自負は今でも私の誇りである。私の弟、田村晴彦は生徒会副会長、卒業後昭和40年代から平成にかけて約20年国語科教員、放送班顧問を務め皆様に感謝の言葉を語る時間もなく43才で病没した。さて昭和24年から昭和30年。進駐軍の命令で柔剣道共に部を名乗れず愛好会でスタート。

祝第42回総明会総会

# 猿楽会

昭和26年卒

会長 卯木敏夫

昭和三十年卒  
第6代生徒会長

田村 正彦

中央医療学園専門学校  
付属整骨治療院院長  
TEL〇三五六〇四三九七一

後にその世界で活躍する名士を多く輩出する。当時全生徒は何れかの部に属することが義務づけられていた。全人教育を目標とする明高精神である。今日の部はその頃からのスタートが多く見られる。一人でいくつものクラブに入り活躍していた才人も多い。後輩に伝えておきたい明高の真骨頂。先輩後輩学友即ち同窓をとっても大切にす。福島先生、松枝先生に象徴される人間教育に心血を注いで下さった諸先生の存在。そして先生の教えを信じ指導

を受けた明高生の高い資質、人材、品格である。今日学園問題が何かと俎上に上る時代。明高を範とすれば解決されよう。

私は昭和30年3月卒業、明高を離れるショックは大きく忘れよう忘れようと意識的に遠ざかった。しかし、昭和56年大先輩卯木敏夫氏のご指示で矢島芳郎氏等とクラブOB会結成に参加、今日の総明会発展の側面に微力を捧げることができた。

時代は移って行く。若いOB諸氏に託すことが最善である。しかし戦後の明高の一時

代を熱く語る体力、気力は残してある。いつでも馳せ参じたい。

平成20年に明中高は調布へ移転、男女共学と決定した。そりゃあ明治は「白雲なびく駿河台」が良いに決まっている。しかし、激論の末調布に決定したからにはその地でも明高を日本一に育て上げるのが使命である。それが明高の男の潔さ、粹、品格である。

祝 第42回 総明会総会

明治大学付属明治高等学校應援團OB会

会長 小田川 玉城 (昭和25年卒)

最後の花道

「不滅の男坂讃歌」

昭和54年卒 明誠会

「男坂」と聞けば多くの先輩方が母校・明治を思い出す。私たち駿河台組にとって明治を語る上で欠かせないキーワードである。

調布への移転を聞いてメシが喉を通らなくなった先輩、後輩。そして「まだ先のことだから」と考えていた現実がいよいよあと2年。こんな時に総明会幹事学年になった。まずは、長らくご無沙汰している母校の行事に参加することにした。

久しぶりに触れた母校明治

は時代の経過を感じさせるには十分であった。学帽は無くなり、学生カバンも無くなっていた。知っている先生もすっかり少なくなっている。これも現実であり、しかと受け止めることが必要なのだ。反面、熱い先輩方が大勢いることも知った。

駿河台明治高校劇場でロングラン上演中のやんちゃ坊主たちの物語は間もなく終演を迎える。万雷の拍手と歓声。アンコールの声、声、声。しかし、今、静かに降りはじめた緞帳が再び上がることはない。そうだ、終わりののだ。男子校に終わりを告げ、新生明治中学・高校は新たなキャ

ストを迎え全く新しい学校へと生まれ変わるのだ。

この幹事学年を担当して、あらためて明治をふり返り、思い出を辿れば、そこには多くの先輩方の後ろ姿が見える。同じ道を同じ想いで全力で駆け抜けることができた今、感謝という気持ちで一杯である。そして、いつの日か後輩たちから「男坂って何ですか？」との問いかけには皆さんが持っている「男坂讃歌」を話してあげて下さい。

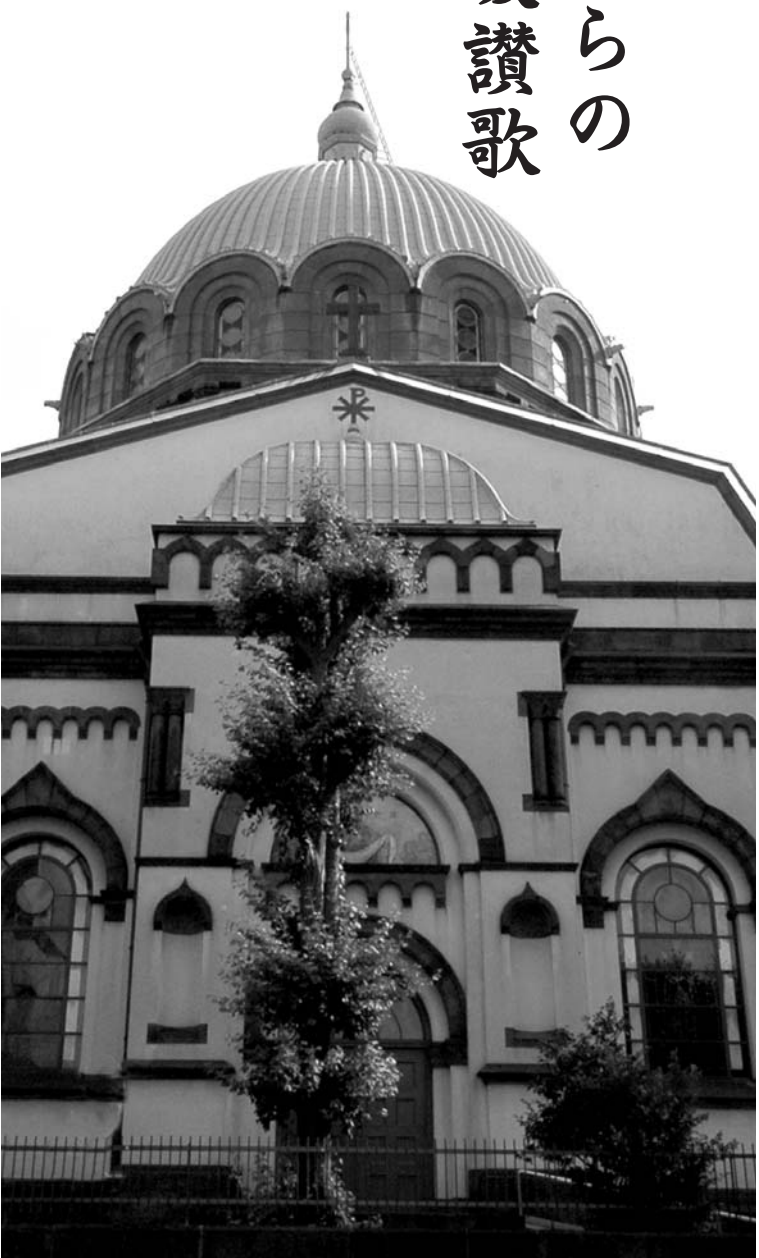
駿河台明治高校における最後の紫紺祭。ここで聞く最後の校歌は恐らく涙なくしては聞けないであろう。そして、いつの時代も決して変わるこ

との無い母校を思う熱い気持ちこそ次代に伝えるべき「不滅の明治魂」だと気が付いた。この精神を時に厳しく、いや、いつも厳しくご指導くださった先輩方、先生方にただただ感謝あるのみ。母校を愛するその思いは永遠に引き継がれると信じています。中学、高校で私たちが享受した人間教育の大切さをあらためて思い知らされました。

最後になりましたが未来の後輩たちへ。これだけは忘れないで下さい

―― 明治命 ―  
こんな熱い先輩が星の数ほどいることを。

天国からの  
男坂讃歌



「村田輝雄先生一周忌」

昭和54年卒 明誠会 岩田 茂

2月11日、大宮の安楽寺において村田輝雄先生の一周忌が行われました。

当日はご親族の方々をはじめ、顧問をされていた応援団OBの諸先輩、村田先生にお世話になった教え子達、総勢30数名が一同に集い個人を偲びました。

法要のあとには、先生を偲ぶ会がとり行われました。和気あいあいと会は進むなか、後輩から先輩へと順にマイクで村田先生の思い出を話すといった企画があり、とってもユニークな話が出るわ出るわで、会場は笑いの渦…。先生

の涙あり？笑いありの指導ぶりが思い出され、会食はますます盛り上がりました。最後には応援団を代表して三森先輩のリーダーによる校歌斉唱と「フレイフレイ、ポンコ」のエンルで散会となりました。奥様も「こんなにもたくさん人が来ていただき、たいへんうれしいです。村田もさぞ喜んでのことでしょう」と感激されていました。

村田先生の厳しい指導のなかにあるやさしいお人柄を思い、故人を偲ぶとともに天国から「おのれらゝあ、気合をいれろおっ！」と声がとんできそうで、なぜか勇気づけられた一日でした。

合掌。



法要後の会食でのスピーチを紹介します。村田先生の熱血指導ぶりが思い出されますね。

●若いころは「ポンコ」なんてかわいいあだ名ではなかった。「サタン」と呼ばれていた。すさまじかった。

●昔、先生は四谷に住んでいて松戸に引越しをした。当時高Ⅱの生徒で引越しの手伝いに行ったら、荷物の数より生徒の数のほうが多かった。2台トラックで、先生宅まで行っただが、荷物は1台の半分に載ってしまい、あとの1台は生徒が乗って行った。その後手伝いに行った生徒達全員は、食事をご馳走になり、新築したばかりの家のカーペットにそうをした生徒がいたとかいないとか…。

●村田先生はカトリック系の神学校を卒業していて牧師の資格をもっている。（もし牧



師になっていてら、ずいぶん元気のいい牧師さんだったことだろう…。)

●トイレで一服していた私は、教室に帰ってきてなんの気なしにそのままタ○コの箱を持っていた。そこに村田先生が授業開始のため教室に入ってきた。その箱をみつけた先生は「そんなもんしまっておけ!」っと一言、オトガメなし。

●私が野球部で甲子園に出場したとき、ベンチに帰るときスタンドを見あげると、いちばん前の応援席で真っ赤な顔をしたポンコとチータが陣取っていた。割れんばかりの声で

応援してくれていた姿がいまも忘れられません。(ご存知のように2人とも声がかいい!)

●応援団の顧問で合宿に参加された先生はステテコ&ランニングに麦わら帽子姿でいつも練習に参加。発する言葉は「気合をいれろ!」のみ。その後、練習のペースについてこれいいのか相談に行くと「おまえらにまかす、いざとなったら救急車呼んでやるから!」だって。なんとも先生らしい。

●ある試験で、村田先生が試験監督をしていた。教室を歩きまわりながらふと私の解答

を見た先生は「君い、その答え考え直したほうがいいよ!」って大きな声で言われた、もちろん答えは書き直した。なんとやさしい先生だ。



祝 第42回総明会総会

昭和45年卒

獅子の会

# 村田先生の思い出

昭和50年卒 明紫会 三森 勲

村田先生というより「ポンコ」といったほうが、先生を知る方々には馴染みがあるので、敬意を表して「ポンコ」といわせていただく。

ポンコは現代国語の先生で、応援指導班の顧問でもあった。また高Ⅰ・高Ⅱと僕の担任でもあった。「ポンコ」の思い出は今から三十数年前に遡る。僕が中学1年生のときのこと。場所は千葉、江見応援指導班の夏合宿の風景、我々が高校生と共に練習をしている時にジーンと練習風景を眺めているおっさんがいる。その風貌は、ステテコにダボシャツ、麦藁帽子といういでたちである。加藤茶のおっさん姿を思い浮

かべてほしい。そのときOBの先輩が駆け寄り話しかけるではないか・・・よく見ると、なんとそのオッサンは顧問の村田先生だったのである。(爆) そんなステテコおじさんの強烈な印象は、学校に帰ってからも続く。高校時代のポンコの現代国語の授業は、とても大変であり楽しかった。それは受講した方ならお分かりになると思うが、教科書に言葉の意味だとか情景だとかをポンコの言ったとおり行間を書いていくのである。とても小さな字で書かないと書ききれないので、カンニングペーパーの練習のようであった。時折 音読をさせられた。『日本』という文字をニホンと読んだ生徒がいた。そこにすかさず大きな声で「ニッポ

ン！」といいなおすポンコがいた。「大日本帝国はニッポンと読む。お札にもローマ字でNIPPONと書いてある。自分の国の名称は正しく言え！」と怒鳴られた。なるほどお札を見るとそのように書いてある。さすがに国語の先生である。そのほか「千摺り」の語源だとか、高校生にバッチリの内容で授業に引き込む力はすごかったように思う。

ポンコは、教科書を片手に教室中を歩きながら講義をなさる。ある夏の事。僕は一番後ろの席であった。例のごとく教科書片手に生徒に音読させているとき、僕の椅子にかけてあった学生服の襟がちよっけと高かったのにお気づきになられ、襟を掴み 持ち上げた。「三森！襟が高いなあ！」

と言って上下に振り始めた。そ、そのとき僕のポケットからタ○コがポロリと床に落ちたではないか。びっくりしたのなんのって脳裏には「謹慎」「停学」の二文字がぐるぐる

## 雨宮芳久先生一周忌

昭和54年卒明誠会玉置孝一

平成18年6月3日(土)、

四谷の真成院 四谷霊廟に於いて雨宮芳久先生の一周忌法要が営まれた。当日はご親族の方々はじめ明治高校物理部OB会・明物会の先輩方、昭和50年卒・明紫会、昭和52年卒・男子校根性組の諸先輩方が出席されました。明誠会からは千崎、玉置が出席しました。

法要のあとは会食がとりとりおこなわれ、ご子息であり総明会広報委員長の雨宮弘典氏の献杯で会が始まった。

思えば私たち54年卒業組は卒業時A組の担任が雨宮先生。B組の担任が村田先生であった。お二人とも昨年お亡くなりになった。

会食の席には雨宮先生の写真とともに趣味の木像が飾られていた。先生が彫られたものなのだが素晴らしいと思う。先生が静かに彫像に向かう姿が目に見え。生前、雨宮先生が授業中に声を荒げて怒るというシーンは皆無であったと思う。授業中学生徒はいつも静かであった。その先生の授業中の姿とこの木像がオーバーラップしてくる。

会もすすみ、最後は校歌斉唱で締めくくった。男子校根性組・小嶋先輩のリーダーで声高らかに「白雲なびく駿河台」の歌声は先生に届いたことと思う。校歌斉唱を聞きながら奥様の目に光る涙。この光景もきつと高いところから先生は見えて下さったと思う。微笑み、静かにうなずきながら。そして、今頃は、天に召された先生方と一緒に、昔話しに花が咲いていることだろう。

最後になりましたが雨宮先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。 合掌。



## 雨宮先生の思い出

昭和47年卒 四七高士酔会 市東 康男

先生の頭がゆっくりと左右に揺れ始めた。「おい、まずいぞっ！」物理部同輩の仲間がひそひそと話をし始めた。左右に頭が揺れ始めるのは、気に障ることがあり大爆発が起る前兆であるのは皆がよく知っている。かつて爆発し、怒りのあまり、生徒の前で手に持ったビーカーを握りつぶした。と先輩たちが話してもいた・・・。

普段はとても柔和で、怒ることなどまずない。と思われる先生である。

物理講義室の隣に物理実験

室というのがあった。我々は物理部の部員であるのをいいことに自由に出入りをしていった。そこは、あらゆる実験器具や試験管・ビーカー類そして測定器などが棚やガラス戸棚に所狭しと並んでいて、ガスバーナーではガラス管を焙って曲げたり伸ばしたりできるなど、胸がワクワクするような夢の部屋である。そこで我々はやりたい放題、散らかし放題していたのをたしなめられたのである。

「明物会」、その名の通り、「明治高校物理部OB会」という組織が、現役から大学生、卒業生まで40年以上の歳の差

を超えて組織されているのも先生の人柄のお陰である。白衣の似合う先生であった。OB会にも必ずご出席されていたのだが、何か違うと思ったら、そう、白衣ではなく背広を召されていたからである。そのやさしい雰囲気は小児科か産婦人科の医者のような雰囲気もあった。失礼であるが、先生の髪型も始めてお会いしたその時から晩年まで変わっていない。

人前でのご挨拶とかがあまりお好きではないのに、無理を言って私の結婚式の時に祝辞をお願いしたことがあった。開口一番、「四七四七同士酔

祝 第42回 総明会 総会・懇親会

四七四七同士酔会

昭和47年卒一同

会という変な会を作るほどの  
 」（四七四七同志酔会とは  
 昭和47年卒である私の同期会  
 の名称である）と始まり、「リ  
 ニヤモーターカーやロボット  
 を作るおもちゃクラブに所属  
 された彼は」と次々とお褒  
 めの言葉をいただき、恐縮し  
 た次第である。たぶん祝辞の  
 内容を一ヶ月近く悩まれてい  
 たのではないだろうか。

話は変わって、先生のお好  
 きだった煙草。真っ白い白衣  
 の胸ポケットに覗くそれは鮮  
 烈な黄色のパッケージのエコー

である。これ以上薄くできな  
 いというくらいペラペラの外  
 箱にこれまた短いタバコ。そ

れを職員室や実験室でよくプ  
 カプカと吸われていたのが印  
 象的である。「エコーが安い  
 のはたばこ税が安いからであっ  
 て、決して品質が悪いからじゃ  
 ない」と。税法を勉強すると、  
 なるほど、そのとおりで旧三  
 級品という六銘柄の紙巻たば  
 こは、エコー わかば しん  
 せい ゴールデンバット ウ  
 ルマ バイオレット であり、  
 国税のたばこ税と地方税の道  
 府県・市町村たばこ税はほか  
 の銘柄と比べて約半額となっ  
 ている。

先日執り行われた一周忌に  
 はかつての教え子や元部員た  
 ちが参集し、思い出話に花が

咲いた。退職後に仏像を彫り  
 だされたとか、法要の祭壇に  
 も飾られていたそれは先生の  
 お人柄を表すような優しい顔  
 の仏像であった。合掌。

祝 第42回総明会総会  
 明治高校物理部OB会

## 明物会

連絡先: meibutsu@cdma.mind.meiji.ac.jp

前年度総明会幹事学年 昭和53年卒

## 紫友会

<http://www.iguchi-meiji.com/shiyukai/>

# 谷口先生の思い出

昭和34年 明水会 村嶋大三郎

去る12月31日谷口善三先生の突然な死去の知らせにとっても驚きました。先生が入院されて

いる事は知っていましたが、さほど差し迫った様子でないと伺っていましたのに・・・

あけて1月6日通夜。7日告別式と慌ただしい正月はあっという間に過ぎてしまいました。喪主の奥様より、葬儀の際に明治高校、総明会、高ⅢD組卒業生、水泳部、応援団等多数の参列と忙しい中2日間

盛大な葬儀ができました事大変感謝され、皆さんによるしぐとの礼状をいただきました事を紙上で報告させていただきます。

さて谷口先生（通称田中）の思い出を書けとの依頼ですが、何せ先生と生徒の関係以外なく、先生と何百人もいる生徒の中の一人である私に思い出を書けとの依頼で何を書くか原稿締め切り期限ギリギリになってやっと書き上げました。

昭和28年明中に入學し1年D組の担任が谷口先生でした。当時先生は大森駅の近く山王アパートに住んでおられました。それ以来44年の長い師弟

関係でした。当時新入生は必ず何かの部に入らなければならなかったもので水泳部を希望しました。当時は入部テストがあり誰でも入部できる訳ではなかったのです。テスト会場は明大の地下プールで行われました。地下にプールがあるなんてビックリ（プールは青空の下にあるものと思っていたから）その入部テストに合格したのは僕と内藤、3年前に亡くなった宮崎の3名という狭き門だったのです。

（当時は今時と違って競泳部で少数精鋭主義だったし4コースの25mプールなので多人数では効率が悪くなるため。）それ以来の長い水泳との付き

合いが始まった訳です。当時1年の顧問先生は谷口先生ではなく、2年から顧問になりました。それ以来何十年に成りますか長い間顧問を引き受けられ卒業後も明水会の会合等に出席され大変感謝しております。ですから、水泳部としては私の方が先輩となります。

当時は顧問の名だけで練習に顔も出されず、コーチも一度もされた記憶ありません。そんな先生でしたが高Ⅱの時の関東大会が大宮公園プールで行われた時、西塚先輩のコールを明大中野高校とアナウンスされた時、先生は直ちに明治高校と訂正する様抗議され

た事を思い出します。

でもさすが先生！部員たちの名前と顔はよく知っておられました。おかげで英語の時間には目を合わせないようになっているのによく指され（予習していないから当然答えられません）カワイガッテいただきました。（中1から高Ⅲまで6年間も・・・）また高Ⅲの館山合宿の車内での喫煙、列車の割り込み等が学校に知れた時も先生は初めて合宿に飛んでこれた大事に至らない様配慮してくれた事。（夏休み中だったから大事にならなかったのかな？）また、我々水泳部員が「神田荘」で麻雀をしていた事。喫茶店

「クラウン」でたむろしていた事等で教員室に呼び出された時もお説教だけで大事にならないように治めてくれた事等、部員思いだった恩師です。またOB会に出席された時は必ず祝儀を持参され我々に社会常識を身を持って教えてくれました恩師です。卒業後も不動産屋をやっていた関係で先生の家作の管理など頼まれ今年65才になる迄長い付き合いをさせていただきました。私は父親が二才の時に死んだので、何となく憧れていたのかなあ・・・という感じの先生でした。谷口先生のご冥福をお祈ります。

## 祝 第42回 総明会総会 バスケットボール部OB会

OB会会長 三田幹男(S43年卒)

### ルーズボールクラブ

(バスケット部OB会主催のゴルフコンペの名称です。)

平成18年度 バスケット部 OB会総会  
(9月23日開催)

# 松枝正弘先生十七回忌

チーターを偲ぶ会

昭和54年卒 明誠会 岩田 茂

6月17日故松枝正弘先生の十七回忌がとり行われました。小雨降るなか明大リバテータワー前に集合した40数名の教え子たちは、バスをチャーターして松枝先生の菩提寺である大和市の善徳寺に向かいました。

善徳寺には好子<sup>たかこ</sup>夫人をはじめご家族も一緒に盛大な法要がとりおこなわれました。法要のあとはバスでお茶の水に引き返し、大学会館で「チー

ターを偲ぶ会」がおこなわれました。

「偲ぶ会」にはバレー部OBをはじめ約120名の教え子たちが松枝先生を偲び集いました。

松枝家からは好子夫人、長男の弘樹氏、長女の栄子さん、お孫さんとご家族も参加していただきました。

山崎実行委員長の挨拶、小西副校長の献杯で会はスタートし、参加者はおいしい料理に舌つづみを打ちながら、松枝先生の思い出を話し、ユニークな挨拶もありで会場は笑いの渦、会は大盛況となりました。

た。

生前の松枝先生は厳しいながらもユーモアが好きだったので、天国で「おまえらあゝ」と怒鳴りながら笑っておられることでしょう。

宴もたけなわになり松枝先生の好きだった歌「ふるい顔」を全員で斉唱、会場には感きわまり涙ぐむ方もいました。

最後に現役応援団のリーダーで応援歌、校歌を全員で斉唱して偲ぶ会は散会となりました。

参加者の心の中にチーターの熱血指導、愛情あふれた教育がよみがえり、松枝先生の

遺影のもとに全員の心が一丸となった偲ぶ会でした。

合掌。





## 松枝正弘先生を偲んで

昭和44年男撥寮部 服部雄二

平成2年6月13日に松枝先生が逝去されてから、早いもので今年が十七回忌となりました。すでに明治高校生も、松枝先生をまったく知らない卒業生が14代位あるのだと思うと、なにか寂しさも感じられます。しかし、私達の中には松枝イズムの精神が明治高校の一つの校風になっていた時代があった事を若い方々に知って頂きたいと思います。

## 松枝家の事

先生の命日に毎年OB4、5名で墓参をしておりますが、その帰りには必ず奥様にお会

いして、しばしお話をしております。ご家族皆様とOBとは今も強い繋がりがあり今後もしっかりと良い関係が続くと確信しております。

## 先生とOB

今回の偲ぶ会には総勢140名参加されましたが、自画自賛で恐縮ですが素晴らしく一体感のある楽しい会を開催できました。それは先生とOBの方々とは一対一の思い出が皆様の中に強烈に残っていて、今の人間形成に大きな影響を与えているからだと思います。昭和20年代卒の方も50年代卒の方も皆その思い出に優秀はありません。こんな様々な思

い出を、皆様に残していった松枝正弘という先生は、明治高校の歴史上ただひとりではないかと思えます。

## 先生が好き・嫌い

この様に書くと、誤解を受けるかも知れませんが、松枝先生程生徒からはっきり評価をうける先生は、いないのではないのでしょうか。たぶん私の独自の判断ですが、好きな生徒は30%、嫌いな生徒は70%こんな具合ではないでしょうか。これだけ見れば悪い先生になってしまいうすですが、嫌いと思う生徒の大半の理由は、怖い先生だったからなるべく近寄りたくなかったと言

う事だと思えます。そして、これだけはっきりと好き嫌いが分かれる事が、実はすごい事ではないのでしょうか。もしも他の先生の好き嫌いを調査したら興味がなくなるとか、良く判らないとか、自分には関係ないと言ふ事にならないでしょうか。在校生の皆に、影響を与えそして恐れられた松枝先生を誇りに思っております。



明治大学付属明治高等学校  
昭和49年卒

# 小林総合法律事務所

弁護士 小林 信 明

〒102-0083 東京都千代田区麹町1丁目6番9号  
DIK 麹町ビル3階・4階

T E L (03) 3238-8515 F A X (03) 3238-1231  
URL <http://www.law.gr.jp>

昭和四十五年卒

獅子の会

池上 繁夫

昭和四十六年卒「明潮会」

(株)ライトハウス・コミュニケーションズ

代表取締役

齊藤公義

中央区銀座三十三シニア銀座E1400-1  
電話 〇三六二二六六二〇〇  
F A X 〇三三五四二一八〇七〇

昭和40年卒

# 明 優 会

会長 大関清人

事務局

坪田達夫 TEL 03-3947-2431



代表取締役 高田信一  
明治高校 昭和34年卒

損害保険・生命保険

# 株式会社タカダ保険事務所



〒132-0031 江戸川区松島 4-27-13  
電話 03-3654-9181 FAX 03-3655-2300

<http://www.takahoken.co.jp> [tio@takahoken.co.jp](mailto:tio@takahoken.co.jp)

吉武孝生税理士事務所

昭和五十年卒 明紫会

〒121-0813

東京都足立区竹の塚一三六七  
エンゼルハイム竹の塚駅前一〇号  
TEL 〇三三三八五五二一八  
FAX 〇三三三八五二一九  
E-mail: [t.yotax-yoshitake.com](mailto:t.yotax-yoshitake.com)

足立区中央本町四一二十四一八

小田島 保男

昭和四十三年卒 紫讃会

昭和四三年卒

竹川忠芳法律事務所

弁護士

竹川 忠 芳

〒105-0003 港区西新橋一〇一〇一三  
電話 虎ノ門法曹ビル四〇〇八  
F A X 三五〇四一三〇〇七八

# 駿河台の軌跡



「男坂物語」

―男坂誕生―

昭和54年卒明誠会 玉置 孝一

今年の会報テーマも男坂讃歌に決まり、男坂の歴史を辿ってみることにした。

現在の猿楽町に校舎が建てられた当時は立派な正門があった。しかし、正門は現在の2号館の正面で通りに面している。何であるそこが正門なのだろうか。正直、疑問に思った。男坂の下に正門があったのではなかったのか。「・・・!」そうかこの当時はまだ男坂はなかったのだ。

昨年あるOBから数十年ぶ

りに紫紺祭にいったが正門が無くなっていて驚いたという話を思い出した。その先輩の明高卒年は昭和32年ころだからまだ現在の1号館はない。昭和37年に旧校舎が取り壊されているのでこの頃には正門も閉鎖されたのであろう。

私たちが毎日通学で通っていた男坂の歴史は比較的浅い。この坂の標識に書かれている説明文は次のような内容である。「この坂を男坂といいます。駿河台2丁目11番地の端から猿楽町へ下る石段の坂「女坂」に対して名付けられたものです。この坂のできた

のも比較的新らしく、大正13年(1924)8月政府による区画整理委員会の議決により作られたものです。男坂は同一場所、あるいは並行してある坂の急な坂を、女坂はゆるやかな坂というように区別されて名付けられています。」とある。

この坂が出来たのは大正13年である。この前年に関東大震災が起きた。多くの建物が崩壊して焼失した。この火災で創立時からの重要書類などを納めた金庫室にも火が入り明治の歴史も灰となってしまった。

この震災で時の政府は土地を一旦国が買い上げて都内の区画整理事業に本格的に着手する。この震災で旧制明治中学裏にあった崖も崩落したと思われる。いや、派手に崩落したに違いない。そしてこの状況を見た政府の調査員たちはこんな会話を交わしたのではないだろうか。

「いや、ひどいなあ。これは。この崖は復旧するより裏猿楽町(現神保町)への近道を作った方がいいんじゃないか。」「そうだねえ。この辺りは抜け道がないからね。」と言ったかどうかは定かでないが、

とにかく崩れた崖は階段として工事が始まる。同じく崩落したもう一つの崖も階段として作られた。これが男坂と女坂である。またこの時には明大裏から錦華小学校へ続く道も作られた。これが錦華坂である。こうして、震災の復興事業の一環として男坂は誕生したのである。

ここで終わる筈だったこの話は、私の想像と違う新たな事実が後日判明する。それは明治大学史資料センターで見つけた明治高校発刊「六十年の歩み」のなかに記されていた。卒業生が創立60年に寄せ

て当時の思い出を書き記している。第9回卒業生（大正14年卒）柳原氏の記述より抜粋すると、「・・・ニコライ堂と病院の町に大正の終り頃文化学院というとてもハイカラな学校が出て来て駿河台も急に華やかになりました。文化学院あり所謂お茶ノ水ありで通学の往復の楽しかったこと。甲賀町から裏猿楽町の新校舎（現在の校舎）へ越してからはお茶の水橋を渡り、その文化学院の前を通って鶴越（ひよどりごえ）の様な坂を立木につかまりながら転がる様に校庭におりました。・・・」

驚きの一文であった。つまりお茶の水方面から通学してくる学生の中には迂回して正門から登校する者ばかりでなかった。校舎うらの崖を下りるやんちゃな先輩方がいたのだ。この事実がここに男坂を造らせた最大の理由ではないか。仮に崩落していなくても、階段を造ろうとした理由はすでに多くの生徒が飛ぶ様にして下りていた「本当の男坂」がそこに存在していたからだ。たのだ。いや、そう思いたい。男坂の生みの親は移転間もない旧制明治中学だった。

思えば本校は明治45年、駿

河台明治大学内に開校して大正11年に猿楽町に移転する。なぜ移転先が猿楽町だったのかは今となっては知る由もない。とにかく、当時の新校舎が猿楽町に建ったが故に男坂との長いお付き合いとなったのである。また、崖下に旧制明治中学があったからこそ通学路としての必要性も考慮して「男坂」が誕生したのかも知れない。

間もなく二度目の校舎移転が待っている。明治と共に八十余年、男坂は今日も変わらず。

「八丈島明治高校」

兄弟校のこぼれ話し

昭和54年卒明誠会 玉置 孝一

明治大学史資料センターで明治高校関係の資料を読んでいたところ、面白い本を見つけた。明治OBが様々なジャンルから寄稿しているのだがその中に偶然次ぎの文を見つけた。「明治大学付属八丈島高等学校 並木清志」とある。次のような文章の書き出しで始まる。

私は駿河台に隣接した明治高校を昭和47年に卒業した付属出身者です。総明会という同窓会会報を担当するにあた

り、在学中、社会科の先生が余談で「八丈島にもう一つの明大付属校があった」と話されたのを思い出し、企画記事として取り上げることにした。何故ならば人口約一万人のこの島に、たった5年間しか存在しなかった兄弟校に疑問とロマンを感じると確信したからである。

並木氏は私と同じ会報委員だったのだ。そして、私も同じことを初め考えていたのだ。小さな島の兄弟校は不思議な魅力がある。先輩は実際に八丈島へ取材に訪れている。素晴らしい行動力に敬服する次

第である。この内容については別の項で触れるとしてこの中の次の文から話は展開する。

・・・また、当時明八校で教鞭をとられその後駿台明高に着任された釜屋正誠先生によると明大マンドリン倶楽部は夏合宿地として度々訪れ、練習の合間に各村巡回演奏を開催した。総勢29名の演奏者による豪華なメンバーで、のど自慢大会等も含めた楽しいイベントであったという。

この文を読み、明大マンドリン倶楽部史に何か八丈島のこと載っているか調べることにした。

練馬 高野台

ネイチャーズフォレスト株式会社

代表取締役社長 横山茂樹 (昭和52年卒 男子校根性組)

本店 東京都練馬区高野台1丁目3番7号NFプラザ2-304  
TEL 03-3996-0612 FAX 03-3996-0630

http://www.neritaka.net/ E-mail:nfsy@famille.ne.jp

みんなが、参加して創る、地域活性化のための町づくりを目指して頑張っています。ネーチャーズフォレストの名前の由来は、人々の心を癒す森をイメージして名付けられました。

この倶楽部史が昭和47年創部・50周年を記念して発刊されている。OB座談会のなかに八丈島のこと書かれているので原文のまま転載することとする。

暗闇のなかの古賀メロディー  
(昭和28年〜30年)

司会 皆さんの時代は、世の中も良かったし、全ての面で恵まれていたと思います。今井主将、森田マネージャーから。今井 一番これまでと違うのは食糧事情でしょうね。だから、合宿の待遇が非常によかった。特に

八丈島の時はぜいたくだったね。

司会 当時はやはり船でしたか。

石橋 竹芝桟橋から「黒潮丸」に乗って、夕方出発して翌朝着いたんだね。

根田 こんなところに人が住んでいるのかと思いましたが。島を見たときは。(笑)

森田 ああいう島で合宿するのは、はじめてだったからね。

宮入 島のほうでも、なまの音楽を聞くのは、戦争中の海軍軍楽隊以来。

青木 だから練習生が一番すごかったですね。

根田 「あの子かわいそう」

まして、マンドリンなんて初めてだから、すごく騒がれたんじゃない？

遠藤 島じゅうのサイン帳が全部売り切れたそうですよ。

森田 下級生のほうがモテルんだな。なぜか。

前田 昼間練習していると女の子たちが見にくる。

練習で部員を怒ると、その怒られたヤツがもてるんだな。

青木 だから練習生が一番すごかったですね。

根田 「あの子かわいそう」



富士 OGMゴルフクラブ  
出島コース

〒300-0204 茨城県かすみがうら市下軽部 881  
TEL 029-896-1011 FAX 029-896-0950  
URL <http://www.orix.co.jp/ogm/>  
e-mail: [dejima@ogmj.jp](mailto:dejima@ogmj.jp)

S63年度卒業 箱田恒雄  
コンペの相談承ります。

豆菓子・おかきの専門店  
有限会社 青山但馬屋

代表取締役

太田垣政紀

(昭和五十一年卒明々会)

〒107-0061  
東京都港区北青山二丁目十一番  
電話 〇三三四〇一七八四三  
FAX 〇三三四〇四一六三三

なんて差し入れがくる。

(笑)

司会 同情票を集めるわけね。

前田 悔しいから怒るのやめ

たりして。(笑)

司会 演奏会はどうでしたか。

高巢 我々の時代、宮入がは

じめて司会をやったね。

宮入 あそこは電力がなかつ

たでしょ。だから溜まっ

た水を流して発電して

たけど八時になると電

気は消えちゃう。

加茂 演奏中消えましたね。

司会 どうしました。

今井 ちょうど「古賀政男傑

作集」のタクトを下ろ

した時、パッと暗くなっ

て音も消えちゃった。

お客さんがザワつきは

じめたんで「覚えてい

るのでやっちまえ」っ

て声で指揮して続けた

んです。もの凄い拍手

で感激しましたね。

高巢

その時、お客さんの一

人が懐中電灯でパーッ

とステージを照らして

くれたんです。

加茂

電気もないし、道も遠

いからみんな持ち歩い

ているんだ。

今井

会場の人みんなが次々

とつけてくれて。

森田 感激でしたね。

石橋 ステージと客席が一体

になったものね。

今井 一曲終わってお辞儀す

ると、お客さんも、み

んなお辞儀するんです

よ。おばあさんなんか

手をついちゃってね。

以上のような内容であった。

文中出てくる根田氏は現在明

治大学財務担当理事の根田哲

雄氏である。

この時の合宿の写真が数枚掲

載されている。1枚は昭和28

年・八丈島の学校で演奏する

メンバー。もう1枚はやはり

28年合宿中にやった野球大会

中華ファミリーレストラン



孫悟空

細田店

葛飾区細田1-15-6  
Tel. (03) 3650-0059

葛飾区議会議員

新村秀男 (昭和42年卒)



のあとの集合写真。meijiのユニフォーム姿が何人か写っている。八丈島明治高校の野球部か？バックに八丈富士が見える。そして合宿でお世話になった人たちとのスナップ。そして驚いたことにこのスナップと野球大会の写真に若かりし頃の釜屋先生が写っていた。釜屋先生は明大マンドリン倶楽部のOBでもある。先生が大学卒業後、どんな経緯で八丈島明治高校に着任したのか。残念ながら今年、先生は他界されてしまった。八丈島の明治高校を知っている数少ない先生だった。

昭和25年に開校するもわずか5年間で幕を閉じた八丈島明治高校。当時の校旗並びに門標は明治大学史資料センターに保管されている。八丈島の当時の生徒たちは遠く離れた東京の本校をどう思っていたのだろうか。そしてこの高校が共学だったと知り興味は尽きることがない。セーラー服の女子生徒と学生服の男子生徒が共に肩を並べて「白雲なびく駿河台」を歌っているシーンが目につく。小さな島の中で明治高校に誇りを持ち学園生活を送っていた遠い先輩方にどの様なドラマがあった

のか。何を語りあっていたのか。こぼれ話の続きは私たちの後を担当する会報委員にゆだねることにしよう。最後になりましたが釜屋先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。合掌。

文中参考資料ならびに写真

明治大学史資料センター所蔵

昭和四八年卒

四国商事株式会社

## 濱本義典

〒一六五〇〇二二六  
中野区新井一五十二  
F 電話 三三八六一五六六四  
A X 三三八六一七六一九



昭和26年 八丈島校

# 明治高校校舎物語

昭和54年卒明誠会玉置 孝一

—黎明期—

私たち明治中学・高校で学んだ者たちはその時代は異なっても駿河台の地で学んだという共通点を持つ。旧制明治中学開校以来、約一世紀にわたる歴史を多くの卒業生を送り出した校舎という視点から振り返ってみたいと思う。

明治大学は明治44年に創立30周年を迎えた。この年には飛躍的な発展を遂げ旧小松宮邸跡地、すなわち現在の駿河

台に新校舎を建設して現在の礎を築くことになる。そしてこの移転地に明治45年4月に旧制明治中学が誕生したのである。明治43年の大学新校舎の見取り図にも「中学建築予定地」とある。現在のリバティータワールの隣、山の上ホテルの下あたりである。

話しは少し逸れるが江戸時代このあたりは神田山と呼ばれていた。この山を切り崩し、遠浅の海を埋め立てた。こうして出来た台地は旗本屋敷に埋立地は町人の居住地になった。そして地続きになった本郷と駿河台の間を掘削して西に流れていた神田川を導いた

のである。こうして川向こうを湯島台、こちら側を神田台と呼んだ。この神田台に駿河の国の武士が住むようになってから駿河台と呼ばれるようになった。話を戻そう。

初代旧制明治中学の校舎は明治45年1月、大学の敷地内に木造三階建ての校舎として誕生する。しかし、不幸にも開校前の3月5日、新築間もない記念館から火が出て、足場を取れば出来上がりだった中学校校舎は全焼してしまふ。大学校長・岸本辰雄の必死の指導によりハイピッチで再建築され開校に間に合わせた。校舎のまえには市電甲賀町

停留所があった。生徒数は1学年150名。生徒は日本橋・京橋・神田・下谷・本郷・小石川・牛込・大久保・中野から通学するものが多数であった。小さな校庭があるだけで放課後などは何をしていたのだろうか。校舎まえの坂を上ってくる市電にスピードが落ちたところを狙って飛び乗るのが生徒のあいだでは流行だったらしい。

生徒は大変勉強熱心で開成、麻布と並ぶ名門校といわれていた。卒業生の進路は東大・慶応・早稲田・明治・商大・東京外語などに多数進学している。開成中学は当時、ニコ

ライ堂近くにありライバル関係だった。開成中学は明治4年創立の共立学校を前身として一時期府立中学となるも明治34年、私立開成中学としてスタートする。西日暮里への校舎移転は関東大震災により校舎が壊滅したためだった。その後、甲賀町校舎は大正9年1月に謎の失火により再び火災に見舞われ校舎屋根の一部を失う。そして、新大学令により大正9年、大学として現在の明治大学が始まる。このような経緯から大学拡張のため、中学は神田猿樂町に二千坪の土地を購入して移転準備にはいる。



① 初代駿河台校舎

大正11年3月鉄筋コンクリート4階建て、外側にレンガをはったモダンな校舎が完成する。(現在の2号館から1号



② 旧4号館・中学校舎

館にかけて) 当時、東京で一番高く、一番モダンな校舎だった。

総明会 顧問(昭和32年卒・明治会)

山 崎 敬 生



市原企業株式会社 代表取締役  
〒299-0102 市原市青柳 2-1-23

— 激動期 —

大正11年3月鉄筋コンクリート4階建て、外側にレンガをはった校舎が完成する。校舎内はコンクリートの打ちっぱなし。従って上履きを履かずに下足のまま入室した。

校舎新築の翌年、大正12年9月1日(土曜日)第2学期の始業式だった。午前7時に開式で諸注意があつて午前9時半頃までには生徒は下校している。そして、無人となつた校舎は午前11時58分に未曾有の大震災にあい校舎内部を焼失してしまつた。

この校舎を私たち54年卒組は知らない。昭和37年に現1号館が竣工するまでこの本校

舎は40年ちかく多くの卒業生の学び舎として存在した。この校舎では現在はないが中学、高校ともに夜間学校があつた。また、当時の机は椅子と鉄枠で一つになっている特殊なものであつたらしい。1階は職員室や倉庫などで2階、3階が高校生の教室、4階には音楽室、生物室、そして階段教室があつた。また、やや薄暗かつたようだが校舎の裏側には講堂もあつた。そして校庭の正門を入って左側には2階が剣道場、1階は雨天体操場になっている建物があり、狭い校庭がさらに狭くなっている。その昔はこの校庭で体育祭をやつたとのことであるがこの狭い校庭では競技も限ら

れたものしかできなかったであろう。この講堂でのエピソードで第9回卒業生の寄稿文に次のような話が載っている。「・・・覚えている方もあるでしょうが、村田教頭が退職の挨拶をした時、私は縁の下を縁の下の力持ちにした覚えはないと、鶴沢校長と村田教頭が壇上で喧嘩をしたことがあります。とてもほほえましい光景でした。・・・」ちょっと見てみたいと思ひました。

この本校舎の裏側、すなわち、崖に建てられた校舎が旧2号館である。本校舎に寄りかかるように建てられたこの校舎は昭和11年2月の落成である。この校舎建設の理由は軍国主義の教育への影響である。つまり軍事教練の導入、柔剣道が武道という教科になった。また、新しい教科として作業という教科もできて明治中学では園芸的作業を選択している。こうした軍事指導に対応するために建てられた校舎なのである。1階が教練の銃器庫、2階に剣道場、3階に雨天体操教練場、屋上に土盛りして園芸場とした。この3階の雨天体操教練場は戦後に図書館として生まれ変わる。明大からも本を持ってきたりして、当時としては都内屈指の図書館としてモデル図書館にもなった。また、剣道場は床が弾力をもつていて東京随一を誇つたとある。この旧2

号館の建設に関する資料が明治大学史資料センターに保管されている。今から70年前の資料であるが戦禍を逃れ存在する。外形図や配筋図、各階の平面図などの青焼図がある。また、最近社会問題化した構造計算書もある。図面には朱記で訂正された部分もあり、今、この旧2号館が存在していれば図面との照合も面白かったと思う。図面の製作は「竹田組設計部」とあり、建設申請者の欄には鶴沢総明先生の名がある。この資料がよく残っていたと思う。

剣道場といえば現3号館敷地の一部に雨天体操場兼剣道場が建築されていた。大正14年のことである。しかし、

9月の豪雨で裏の崖が崩れ、完成目前で破壊されてしまう。結局完成したのは大正15年8月であった。しかし、この剣道場の記述は殆ど残っていない。はつきりした記録はない。昭和3年か4年に明大女子部ができるのだが、その時にこの剣道場は無くなったのかもしれない。この明大女子部の校舎は現3号館の敷地であったと思われる。しかし、この校舎も昭和20年4月13日の大空襲で焼失する。

この空襲で3号館付近一帯にあった民家も焼かれた。そこに軍隊が来て現在の3号館裏の崖に壕をほり、兵士たちの木製ベッドが幾つも置かれていたそうだ。そして、本校舎

にも軍隊が宿泊した。校庭や校舎裏の崖には退避壕が掘られていた。とりわけ宿舍として使われていた4階の教室の荒れ方は酷かった。

戦時中の生徒の学園生活は学校にはなかった。皆、工場などへの動員命令で働く毎日だった。終戦近くには校舎は迷彩色に塗られ、学校とは思えぬ外見だったとある。終戦を期に授業再開にむけ校舎の復旧を計ったものの物が無い時代である。一口に復旧といっても大変な苦勞があったことは容易に想像できる。この時この校舎を見放していたら、我々の歴史も変わっていたことだろう。

以上の校舎は戦前に建てら

れた校舎である。本校舎は昭和37年に旧2号館は昭和48年に建替えによる取壊しにより姿を消した。

旧2号館



— 発展期 —

戦後の混乱から立ち上がった明治中学であるが、教育制度の改訂により旧制中学が廃止され、新たに中学校3年間、高等学校3年間の新制教育制度が始まる。

旧制中学5年制が中高6年制になれば当然教室が足りなくなかった。戦後復興中の学校としては教室増への対応は財政的にも大変厳しいものであった。そこで現在の3号館の場所に中学1年生用に4教室の木造モルタルの校舎を建てた。昭和22年のことである。そして昭和24年3月には鉄筋コンクリート造3階建ての旧4号館が竣工する。ここには中学

教室として8教室があった。これで、中学校校舎が3号館、旧4号館に完成したのである。この時は中学、高校ともに1学年4クラス制であった。

この後、明治中学、高校は発展と遂げ昭和33年度からは中学3クラス、また高校入試も実施して高校5クラスの体制へと移行していく。

ここで、余談ではあるが面白い資料を偶然みつけたので掲載しておこう。皆さんご存知の通り明治高校には同じ明治大学の付属校として明治大学八丈島高校があった。昭和25年から30年までの5年間だけ開校していた兄弟校である。この八丈島校の資料も明大には残されている。島内には都

立校と八丈島校の2校があるだけで野球部の試合は島を二分する人気があったそうである。八丈島校の資料には建設当時の図面や増築用の図面、また収支報告書、収支予定などが大切に保管されている。残念ではあるが紙面の関係で今回は割愛させていただく。

この八丈島校の資料を読み進んでいくうち、全く関係ない1枚のメモ書きが出てきた。内容は次の通りだ。間違いと思われる数字もあるが原文のまま記載する。

『建坪108坪、延建坪324坪、工費約2290万円。鉄筋コンクリート3階建てとし中学生全部収容する。落成の上は現在中学使用の教室を高等学校



④  
現3号館

昭和39年卒  
39会

家田通久

(有)学友社書店

03-3202-0272

に使用し9教室を増やし1教室(学年?)160人収容するとして計580人(480人?)増員となる。現在の木造校舎4教室中1教室は中学事務室と教員控室に使用し残余の3教室は特別教室に使用する。『このメモの最後には明治中学校・田中の印がある。簡単な見取り図らしきものが書かれている。3階建て計12教室、1教室18坪である。』

これは八丈島校のことではなく駿河台明治中学の校舎建設に関係したメモであることは直ぐにわかった。日付もなく、何号館のことなのか定かではない。しかし、この内容からすると建設前の現3号館の建設案ではないだろうか。

そして高校は当時の4クラスから160名増員(1クラス・53名として3クラス増設)して1学年7クラス制も検討されていたことがわかる。このメモが書かれたのは昭和30年ころではなからうか。

この後、様々な検討が重ねられたと思われるが昭和34年に現3号館が落成する。

鉄筋コンクリート4階建て、1階には校長室、職員室、事務室、会議室、保健室があり2階から4階が教室で計15教室。中学1年用の木造校舎は姿を消した。こうして駿河台明治高校は戦後に校舎を次々に建築して大正11年に建てられた本校舎が遂に姿を消し新たに現1号館が昭和37年に誕生

する。理科室、音楽室、書道室、美術室など特別教室が11、普通教室10、そして天体観測室を備えた校舎であった。明治高校創立50周年の式典もこの年校庭で行われている。

この3号館、1号館とともに建築後40年が経過しており、駿河台明治の最後の日まで学び舎としての使命を果たすべく存在する。我々の世代には思い出多き学び舎である。

こうして充実発展を遂げた駿河台明治であるが、昭和40年代に入り、老朽化した2号館と4号館の建替えが計画される。この建替えの計画と同時に校舎移転についても検討されることになる。甲賀町に誕生して以来、明治高校の悩

みは狭い校庭と限られた敷地であった。この時、校舎移転を何故断念することになるのか。

現1号館





—そして未来へ—

明治高校の2号館、4号館校舎建替えに関して昭和46年10月7日付けで次の見出しの連絡文がある。「明治高等学校・中学校新校舎建設計画委員会開催について」招集者は明治大学理事長・水野東太郎氏（当時）である。他にも加藤五六氏、松本留義氏など大学関係者などの名前が目に見える。明治高校からの出席者は福島則雄校長、保坂吉彦先生、そして松枝正弘先生である。この委員会はその後も回を重ね昭和48年6月までに8回開かれている。

まず、マスタープランに沿って協議されたようだが、最終

的にはマスタープランNo.10まで作制されている。建設の概要は新2号館・地上六階、鉄筋コンクリート造、工費概算・4億3700万円。新4号館・地下1階、地上2階、鉄筋コンクリート造、工費概算・1億7900万円とある。当初の計画では4号館は建設予定にはなかった。新2号館地下に生徒ホール兼食堂を建設する予定であった。また、柔道、剣道の格技室は当初のプランでは1号館屋上に建設予定されていた。しかし、振動、騒音の問題があるため変更。新2号館地下の食堂についても土木工事費の膨大な出費、防水、防湿対策費を考慮すると実現は困難との見解から見直された。既存

の4号館は老朽化と同時に地盤沈下が問題になり建替えざるを得ない状況になっていた。

しかし実際の建設が始まった昭和48年はオイルショックの年であり、建材関係の値上がりは想定外であった。この困難を乗り越え2号館は昭和50年3月、4号館は昭和49年12月に完成する。これが現在の駿河台明治高校である。

最後にこの校舎の歴史を調べた私の感想をもってまとめたい。旧制明治中学、明治高校の共通の悩みは狭い敷地であった。甲賀町校舎も猿楽町校舎も同様である。昭和46年から始まった建替えについての委員会のなかでも移転について様々な協議がされて

⑥

現2号館



いる。立教、慶応、法政、早稲田、などの高校との設備の比較や敷地面積、教職員数、生徒数などなど様々な比較がされている。郊外の広大な敷地を獲得して成功している学



校を明治は真剣に追おうとしている。しかし、この検討がされている昭和40年代半ばにあってはたとえ郊外であっても、まとまった土地に校舎を建設するとなれば当時の試算では33億円という金額が計上されている。委員会でもこの協議の結末をこう結んでいる。広い土地での校舎建設は魅力的ではあるが、果たして移転してこれまでと同程度の生徒を確保できるか疑問である。そして、決定的なのは地価の高騰により移転は実現が困難である。移転の時期は時すでに遅きの感があり、機を逸したと思わざるを得ない。断腸の思いでの結論であった。また、この駿河台校舎以外

でも思い出がある。グリーンスクール構想の下建設された南志賀学寮を忘れることはできない。不幸にも火災により消失したが直ぐに再建築された。PTAの絶大なるバックアップにより完成したこの学寮も今は無い。林間学校、冬のスキー学校、クラブの合宿。思い出はあまりに多い。同じく旧4号館にあった元千代田区長・遠山邸を館山に移築した那古学寮も同じく今はない。この遠山景光区長のご子息が明高一期会の遠山景忠氏である。遠山氏は現在も千代田区在住でお元気です。遠山氏の話によれば、この4号館が建設された遠山邸の土地と明大が持っていたお茶の水駅付近

の土地とを交換したとのこと。これにより旧4号館建設が実現したのであった。

先の委員会答申から33年。明治高校の2度目の校舎移転が始まる。多くの関係者が夢にまでみた広大な敷地での校舎建設が今、着々と進んでいる。駿河台校舎はその役目を終り今静かに最後の日待つ。新天地・調布の新校舎には最新の設備と共学という新たな環境でのスタートが待っている。『明治維新』と言っても過言ではないこの事業の成功を我々OBは静かに見守ることにしよう。

新校舎での新生明治の歴史が今始まる。

文中参考資料並びに写真①～⑤  
明治大学史資料センター所蔵  
写真⑥・⑦

明誠会・荒井信之撮影

現4号館



昭和四一年卒

# 尾島育四郎

三徳印刷株式会社

中央区京橋一三三四  
電話三八一三〇一六代

昭和三九年卒  
前島法律事務所  
弁護士

# 前島良彦

〒一〇七〇〇五二  
港区赤坂三一一八一二  
第13洲ビル3階  
電話三五八五一七八九  
FAX 三五八四二六九五

寺村梱包株式会社

代表取締役 寺村武二  
(昭和26年卒猿楽会)

取締役 寺村一義  
(昭和56年卒)

〒113-0033  
東京都文京区本郷2-19-11  
TEL 03 (3813) 6686  
FAX 03 (3813) 6689

登録商標 ゼイタク煎餅  
東京名物 重盛の人形焼

明治高校PTA顧問  
明治白駿会

# 重盛元也

〒一六〇〇〇三  
荒川区南千住二一三四一四  
電話 (三三〇二) 六八三〇

昭和三三年卒  
株式会社 富士産業  
藤義商興 有限会社

代表取締役社長

# 藤田義茂

(株)富士産業文京駐車場

文京区小石川一〇二一四  
日本生命小石川ビル  
TEL 三八一八一三四五六

藤義商興(有)白山駐車場  
TEL 三八一一一五四五八



代表取締役  
伊達忠伸

株式会社 丸光商店

〒170-0003  
東京都豊島区駒込2-9-7  
TEL 03-3949-7688  
FAX 03-3915-2114  
URL: http://www.akari.co.jp  
E-mail: marumitsu@akari.jp

昭和四十八年卒波の会

株式会社 山口商店

代表取締役 山口隆

大田区大森北一一七一二  
〇三一三七六一一四八三八

# 見心会

明治高校剣道部OB会

美一男 善健幸 矢中鈴木 光島羽田 會長 長監督 副會長 監會



「調布ってこんなところ」  
昭和54年卒明誠会 荒井 信之

東京都調布市は多摩地区の東南に位置し、世田谷区、三鷹市、府中市、神奈川県川崎市と隣接しています。

市の中央を東西に京王線と甲州街道が貫き、中央自動車道の調布ICがあります。調布市にある遺跡は、飛田給・下布田・東原・入間町城山など、湧き水の得られる「はけ上」（段丘と段丘、段丘と低地の境にある急な崖）に分布しています。なかでも下布田遺跡からは、縄文時代終末期

の遺構や遺物が多数発見され、国の史跡に指定されています。五世紀頃造られた、飛田給・下石原・上布田・下布田・国領南などの古墳群も知られています。

残念ながら地上部分は既に削られてしまい、現在ほとんど残っていませんが、各遺跡からは、古墳時代から平安時代にかけての住居跡などが発見されています。鎌倉時代以降は、度々合戦の舞台となり、戦国時代の遺跡である深大寺城趾は、上杉氏が小田原の北条氏に対抗するために再興したものとされています。

江戸時代に入ると、徳川家康は全国の交通網を整え、江戸と諏訪を結ぶ甲州街道が重要路線として整備されました。これにつれ、調布では、国領・下布田・上布田・下石原・上石原が宿場となり、「布田五か宿」として、ひとつの宿場の役目を果たしていました。また、当時の調布には18ヶ村が存在しましたが、その大部分は天領（幕府の直轄地）と旗本領でした。天保5年には、上石原の農家・宮川家で、新撰組局長として討幕派と戦った近藤勇が生まれています。

明治維新後、調布は品川、入間、神奈川などとも目まぐるしく変わり、東京府に属するようになったのは、明治26年のことでした。大正2年、京王線の笹塚～調布間が開通しました。大正4年には新宿～調布間、その翌年には調布～多摩川原間、調布～飛田給・府中と距離を伸ばしていきました。調布はこのころから行楽地・郊外住宅地として注目されるようになり、関東大震災以降、多くの人々が移り住み工場も進出するようになりました。

昭和の初めには京王閣や日活撮影所などの近代的な建物

に続いて、商店や料亭などが続々と出来ました。昭和6年には甲州街道が舗装され、昭和10年には稲城村と調布町を結ぶ多摩川原橋が架橋され産業開発と交通の発展に大きく寄与しました。昭和30年調布町と神代町が合併し調布市が誕生しました。昭和39年頃から団地がつくられ、翌年には人口10万人を突破し世帯数も3万世帯になりました。21世紀に向け「みんながつくる・笑顔輝くまち調布」を目標にまちづくりの取り組みが進められ、平成17年には市制施行50周年を迎えました。

ここで、名所を紹介しましょう。

移転予定地から東へ約1キロの所に深大寺があります。東京では浅草寺の次に古く、天平5年に満功上人が開山したといわれており、天平時代、深沙大王の霊地とされています。この地の豊富な泉水は、昔から住む人々の心に水神信仰をもたらし、また深大寺の名は水神と関係のある深沙大王に由来しています。深大寺の境域2万坪は、現在幽邃な林に囲まれています。何度かの火災を経て、現存する古い建物としては、山門（元禄

8年）、常香楼（天保4年）

があります。また3月3日・4日には、厄除け元三大師祭とだるま市が行われています。

この深大寺門前には湧水を利用した全国的にも有名な深大寺蕎麦の店が28軒あります。その中でも「多聞」というお店は、明高生のすきっ腹をきくと満たしてくれるでしょう。そしてリーズナブル。正に学生街にあってほしいお店です。代表的なメニューとして、ざるそば普通盛が600円（深大寺近辺で最安値）、しかも普通の倍はある。中盛が700円（普通盛の五割増）、大盛が800円

（普通盛の2倍）。まぼろしのメニューとして特盛（普通盛の3倍）もあるらしい。おもしろいのが、器（ざる？）の大きさは全部一緒。つまり上に上にどんどん盛るので、向かいに座った人が見えなくなるのです。調布駅から深大寺方面行きのバスで深大寺小学校前下車、深大寺に向かうとすぐの所にあります。大喰い自慢の方は一度ご賞味を。

# 『白雲なびく調布』 新校舎建設予定地見学記

昭和54年卒明誠会 岩田 茂

明治中学高校の移転予定地を見学してきました。

新宿より京王線に乗り20数分で西調布駅に着きました。西調布駅はとてもローカルな駅で特急・急行・快速すべて通過、各駅停車しか停車しない駅です。さらにホームが狭く生徒が集中する登下校時には転落の危険性も感じられました。

改札から出て商店街を通る



「西調布駅ホーム」

と店舗も少なく寂れた商店街という感じで、生徒が立ち寄りそうなところは、セブンイレブンがあるのみか？



甲州街道を渡って移転予定地に向かい歩いてみると、調布飛行場が近いせいかわ騒音表示板があったのには驚いた！  
無飛行時の騒音レベルです

「建設予定地の入口」

西調布駅より徒歩15分強で新校舎予定地に到着しましたが、ゆっくり歩くと20分はかかりそうです。



現在の建設進捗状況としては文化財が出たので条例による発掘調査中でした。かなり広大な部分がブルーのシートに覆われて調査しており、予定どおりの期日までに校舎が完成できるのか不安になりました。

現地を見た感想は「だっぴろい！」それしかありませんでしたが、これだけ広大な敷地に新校舎が建設されれば、すばらしい教育環境が実現されるはずです。

周辺の環境としては隣に市立中学があり、近くには大きな市営グラウンドもあり緑がいっぱいでした。静かな住宅街と



「発掘調査中の現地」

いうおもむきでしたが、気になるのはやはり飛行機の発着音です。プロペラ機なので騒音は低めですが、かなり気になります。

予定地の近くにはコンビニが数件あり、生徒たちの空腹を満たすにはこまらないでしょう。しかし飲食店となると駅前に立ち食い食堂と蕎麦屋、とんかつ屋があるぐらいでかなり不自由しそうです。

### ●新校舎へのアクセス

新校舎へのアクセスとしては調布駅からバスの利用がベストだと思います。調布駅であれば京王線の特急・急行・

快速とすべての列車が停車するし、多摩センター方面とも直結しておりかなり便利です。乗車するバスは武蔵小金井行き、三鷹行きと2種類以上あり頻繁に出ています。

乗車時間は10分程度と思われ、最寄のバス停から新校舎までは徒歩1〜2分です。

学校としては、調布駅から新校舎までスクールバスの運用も考えているようで、実際に生徒は調布駅を利用することになるでしょう。

調布駅はターミナル駅で駅前にはPARCOをはじめ大型店舗や多くの飲食店があり、下校時の生徒はかなり楽しめ

「調布駅前」



そうです。新入女子生徒には  
パルコは特に人気でしょう。  
(近くにエステ店もあります)  
西調布駅を見たときは、御  
茶ノ水から引越してきた生  
徒にはカルチャーショックを  
受けると思いましたが、調布  
駅の繁華街を見てかなり安心  
しました。(なぜ繁華街を見  
て安心するのだろうか?)

●まとめ

新校舎は調布駅からバスを  
利用すればかなりアクセスも  
良く、飛行機の発着音を除け  
ば緑多い教育環境のなかでの  
びのびと授業が受けられるで  
しょう。調布での新しい生徒

達に期待します。

昭和四十七年卒  
有限会社 犬塚木工所

代表取締役

犬塚浩章

〒164-0012 中野区本町三ー一四ー一七  
TEL 〇三ー三三三三ー〇二六五  
FAX 〇三ー三三三三ー〇二六七

昭和五〇年卒「明紫会」

(有)太陽精器製作所

代表取締役

世古俊之

大田区大森西七ー二ー十  
電話 〇三ー三七六一ー九八八一

昭和42年卒

結城法律事務所

辯護士 結城 康郎

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目6番4号  
第11森ビル10階  
電話 03(3506)1151(代表)  
FAX 03(3506)1152  
携帯 090(3104)1840  
E-mail: yuuki-lo@bj9.so-net.ne.jp  
http://www.yuki-law.com

昭和51年卒(明々会)

有限会社 ニューハウス  
(ホテル大阪屋グループ)

代表取締役 上野雅宏

〒111-0021  
東京都台東区日本堤1-2-3  
TEL 03-3872-6518



## 小西副校長

### 調布を斬る！

7月14日（金）明治高校において調布に建設中の新校舎の設備や男女共学への対応などを小西副校長にインタビュー形式で取材しました。今の明治高校が目指しているものは何か。少しずつですが見えてきたのではないでしょうか。聞き手は明誠会会報委員です。

#### 【Q1】調布移転決定の主な理由は？

明治高校・中学校の校地移転は、明治大学における数十年前からの課題でした。明治高校・中学校は明治大学の核となる生徒を教育することを使命とする明治大学の付属校であり知育・徳育・体育の全人教育を展開しています。それは、進学校にはない真にゆとりある教育の展開です。この使命を達成するに



#### 【Q2】

調布移転によるメリットはどのようなものがあるのか？

先ずは教育設備やスポーツ施設の充実、そして選択制の大幅な導入により、生徒一人ひとりに対応した幅広い授業カリキュラムが可能になります。また基礎教育の充実、高大連携の推進があります。より付属校らしい高校へ大学との連携を強めていきたい。具体的には高校時代に明治大学のとりたい科目を先

は、教職員の努力や卒業生及びPTAの協力に加えて豊かな教育施設と設備の整備が必須であります。しかしながら、現猿樂町の校地校舎はあまりにも狭隘すぎ、教育設備を拡充することは不可能な状況にあります。明治高校・中学校が引き続き教育使命を全うし、今後とも私学の雄としてその存在を確固たるものにしていくために、教育基盤の抜本的な整備を図ることとし校地移転が決定されました。また、男女共学化については、現在明治大学の学生のうち3割は女子学生です。各学部からの強い要望もあり、移転後の生徒確保の方策として決定しました。女性の社会進出、自立した女性を育成するということは今後必然と考えています。



高校女子冬服



高校女子夏服

### 【Q3】

他の明大付属校との違いは？（明大中野八王子が共学）  
100%明大進学が前提の本校と他の付属校では教育基

取りできるプレカレッジプログラムや大学の教員が担当する少人数制ゼミナールの充実などがあります。また各学部の教員による学部入門講座などの実施も大学側と協議中です。今後はさらに直系付属校としての特色を全面に出していきたい。これらはSTUDY 学習環境の整備、SPACE ゆとり空間の活用、SPORTS スポーツ施設の充実と呼ばれる明治高校の基本コンセプト「3つのS」に基づくものです。

### 【Q4】

「質実剛健」「独立自治」の校風は生かされるとのことですが、今の校風を女子生徒に浸透させるのは難しいのではないかと？

本方針が違います。それに準じてカリキュラムが違います。また、生徒一人ひとりの育て方が違うはずですね。100%進学はある意味「ぬるい」とも取られますが、ゆとりある学園生活のなかから個々の将来を見つめ資格取得を目指す生徒、スポーツや文化活動に打ち込む生徒がいます。これは直系付属校の長所と考えています。

### 【Q5】

現在の先生方は女子生徒に教鞭をとった経験はないとおもいますが、正直なところとまどいはありますか？

女子生徒にも「校訓」はあてはまると思っています。質実剛健は飾りがなくたくましく、内面がしっかりしていることであり、独立自治についても男性・女性と特別問題にすることではないと思います。

確かに女子教育の経験が少ない教師が多いため、男女共学化に伴う研修をすでに実施しています。また、

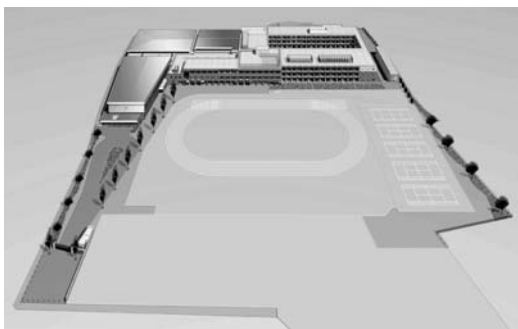
今後指導方法等も男女共学に対応するべく変更していく予定です。

【Q6】生徒の男女比などどのようになるのでしょうか。

男女比については2対1から7対3を予定しています。共学になって男女比を同じにした場合、現在の男子の部員が減少し衰退する部や班がでることが考えられます。したがってこれまでの「活力」を生かしがら共学化を進めていきたいと思っています。

【Q7】「少人数教育」とありますが1クラス何名を予定していますか？それにもなう教員の増加はありますか。

中学は35人で5クラス。高校は40人で7クラスを予定しています。生徒総数は1365人になります。これは最大人数です。実際はこれより若干少ないかと思いますが、教員の増員については現在検討中ですが、いきなり増やすということは現実難しいと思います。しかし、家庭科や、体育の女性教員などは採用しなければなりません。



新校舎完成予想



建設現場写真

【Q 8】

女子の加入により新しいクラブ活動がおこなわれると思いますが、設立が予想されるクラブはありますか？

新校舎には和室も作られる予定ですので華道や茶道なども可能だと思います。部の創設については生徒からの要望に学校側が対応してきたわけですので、今後基本的にはそのようなスタンスで対応していきたいと考えます。課外活動検討委員会という委員会があるので、新部についても検討しています。入学者のアンケートでは硬式テニスへの要望が多いのでこの件については新部としての創設を検討中です。また、女子の受け入れについてはそれぞれのクラブで検討しています。

【Q 9】

最後に、学校までの通学についてお聞かせください。

通学機関については現在、京王線調布駅とJR三鷹駅からのスクールバスを予定しています。京王線調布駅からの路線バス使用も検討しましたが通学時に集中する生徒を処理することも難しいので京王線調布駅北口の西友前とJR三鷹駅北口からスクールバ

スを運行予定です。バス運行本数については現在検討中ですが、最終的には生徒の通学路アンケートに基づき決定したいと考えています。

また、スクールバスの運賃についても大学がどのくらい負担できるか協議中です。各クラブの早朝練習や放課後の部活にも対応してバスを運行する予定です。生徒の安全を考えれば駅と学校とを結ぶスクールバスの運行は必要不可欠だと考えます。

インタビューは1時間を超えましたが、小西副校長にはとても丁寧の説明していただきました。まだ校舎は遺跡発掘中で建設が始まっていませんが(H18・8月現在)、発掘が終了した場所から順次建設にはいり、2008年1月には完成の予定です。

その他、2008年3月に【サヨナラ駿河台】(仮題)というイベントを予定されています。まだ詳細は未定ですが、OB、生徒、地元の皆さんなどにも参加していただけるイベントにしたいとのことでした。

ご多用中にもかかわらず早くインタビューに応じていただきました小西副校長に感謝申し上げます。校舎落成の日が待ち遠しく感じられました。

# 同期会・クラブOB会・学校報告

千代田区  
神田猿蓑町々會詰所

千代田区立神田猿蓑小学校  
〒100-0001 千代田区神田猿蓑町々  
TEL 03-3268-1111

# 昭和38年卒 二年に一会 明治で友となり半世紀

われわれ同期生が明治中学、明治高校とともに学び、友となり過ごしてから半世紀になります。昭和38年卒の同期会「二年に一会」です。名称のとおり2年に1回、同期会を開いており、卒業の翌39年に第一回の総会・懇親会を有志が呼びかけて開催してから、21回を数え、その間一度も欠かしたことがあります。われわれの会は一日でも明中・明高で席をとみにした者はすべて会員なのです。

会長・三浦昭生が中心とな

り、高橋正侑幹事長、関戸淳一事務局長、常任幹事諸君によって四十余年、この会を支えています。本年は開催年であり、姿卓君が代表幹事を務め、9月2日（土）に野球部で活躍した山田正雄君（現日本ハムファイターズデレクター）のご子息が経営する東京・青山のイタリアンレストラン t a n t a で第22回の同期会を開催します。

人生の節目である「還暦」

も過ぎ、50年の長きにわたりつき合ってきた仲間たちは、老いてますます盛ん。これからも総会だけに限らず、新しい計画をたてて会う機会を増

やしていきたい。と考えております。この会報の誌面をお借りして、同期の仲間たちに呼びかけたいと思います。

最後に同期会事務局の連絡先をお知らせするとともに第42回総明会の成功を祈念し「二年に一会」の報告とさせていただきます。

〒135-0005

東京都江東区高橋十四-二〇  
二年に一会事務局

関戸 淳一

TEL 03-3631-2008

FAX 03-3631-2548

二年に一会 服部 紀夫

昭和五四年卒「明誠会」  
(株)畑清商店

代表取締役 吉田正穂

板橋区新河岸二-八-一  
電話 03-3392-2841  
FAX 03-3392-2843

昭和五十一年卒 明々会

総合不動産  
株式会社 エヌエフ・ヴィレッジ

取締役 事業推進室 室長

吉田 博

〒177-0033 練馬区高野台-1-37 NFプラザ  
TEL 03-3591-0120 五五  
FAX 03-3591-0120 五五

昭和三八年卒同期会

二年に一会

会長 三浦 昭生

# 昭和39年卒 三九会 「百名集り還暦記念同期会」

久しぶりに同期が燃えた。

15年前に総明会の幹事学年を引き受けて以来の事だ。昨年10月29日、日本橋のレストラン東洋（北村元曠君経営）に同期生百名が集った。50才到達の記念同期会も70、80名集ったが60歳還暦祝いにはどうしても百名集ろうと1年前より企画が始まった。

まず名簿の整備、会場、日時、記念品、アトラクション、恩師の先生方との連絡等、いろいろな準備が始まった。会場は我々同期にとって本当に

運が良いと言うか、東京の中心、日本橋に北村君が経営するレストラン東洋がある。会場選びに苦労しないのがいい。いつもありがとうございます。記念品はいろいろ候補があったが結局赤いポロシャツ（39 men）のネーム入りだ。アトラクションには同期のマンダリンクラブOBに出場願った。

元氣な恩師の先生にも出来るだけご出席願いたく連絡しました。保坂先生、村野先生、後藤先生、松本先生、山脇先生、栗原先生がお元氣な姿を見せてくれました。まず百名に来てもらうために名簿の整

備そしてご案内用に特別に還暦記念案内封筒も特注しました。2ヶ月に1回位のペースで集り、幹事みんなでの電話作戦等で1ヶ月前には百名出席の目途がついた。連絡のつく二百数十名の半分近くが出席することになった。さすがに百名となるとレストラン東洋の会場は満員状態となり、本当にあちこちで談笑の輪が咲き、身動きのとれないくらいの様子となり会場は皆の熱気に包まれました。幹事役で会場を提供してくれた北村君が感謝のあまり涙ぐんでいるのが印象的でした。元氣で集れたことへの感謝とまた10年

祝 第四二回総明会総会・懇親会

## 図書班OB会

連絡先 平田 幸彦

〇三―三五八九―〇六八七  
大西静士郎  
〇九〇―二五三三―〇一八九

三九会 佐藤 仁

祝 第42回総明会 総会・懇親会

株式会社プレイアベニュー

取扱商品：パーティグッズ  
パーティコスチュームほか

取締役

**大西静士郎**

(昭和52年卒)

男子校根性組

〒272-0135

千葉県市川市日之出5-7

TEL 047-395-4315

FAX 047-307-3636

http://www.playave.com

紫讃会 清水紀夫先生退職記念パーティ

“Thanks Mr.IVY”

昭和43年卒 紫讃会 二田 幹男

平成18年4月22日(土) 18

時 ベルシーヌ竹芝。清水紀夫先生退職記念パーティが始まる。

目の前にはレインボーブリッジがまるで絵画のように迫ってくる。そして続々と集まるおなじみの顔・顔・顔……。その数80数名、43年卒同期会“紫讃会”の面々、ありがた

いものである。清水先生が明高に就任され、初めて担任を持たれたのが我々の学年“高IC組”でした。その後3年間、いろいろご迷惑をおかけし大変お世話にな

りました。昨年、今年3月にご退職と聞き、どうしても

“紫讃会”だけで先生をお送

りしたいと考え幹事に相談、大いなる賛同を得てこの日に至ったのです。そして言い出しっぺの私が実行委員長となっ

た次第です、これも何かの縁ではないでしょうか。

清水先生到着、とても65歳とは思えないシャキッとした姿、マンクラの校歌演奏の全員でお迎える。面影を懐かしむように一人ひとりと握手……。

先生は全員のテーブルをグラス片手に時間をかけて回る。美味しい料理もそっちのけ、皆先生を囲んで話に無我夢中……。そろそろ時間をかけて作っ

たスライドショーをやらなければ……。ところがこの懐かしいスライドで爆笑・歓声・驚愕の大盛り上がり、100枚以上のスライドもあつと言っ間、時間が足りない！

しかしお開きも近づき、有名な某先生に書いて頂いた

“清水先生の似顔絵”を贈呈。

さすがに良く似ている、先生も喜んでいる！良かった！

そして清水先生最後の大仕事、全員の出席を取って貰う。一人ひとりにゆっくりと名前を呼び、深く頭を下げ「ありがとう！」の言葉、ジーンと胸を打たれる。

あつと言う間の4時間が過ぎてしまう。もったいない程楽しく、かけがえのない時間

であった。

「清水紀夫先生、ありがとう！」

“Thanks Mr. IVY!!”





昭和44年卒

## 男坂俱樂部

男坂俱樂部は、毎年1回の総会を開催しております。今年度は、連休明けの平日である5月9日の火曜日に銀座の「白いばら」にて開催しました。

毎年、土日で開催していましたが平日希望も一部にあり平日に開催しました。開催場所については、賛否両論いろいろありましたが、昨年度大変好評のため引き続き同じ場所での開催になりました。50の半ばを過ぎたオジさん集団

ですが、恩師を含め、話し相手の女性がいるだけで大いに盛り上がりました。

当日は、幹事学年昭和54年卒「明誠会」の多くの委員に参加してもらい写真撮影等のお手伝いをしていただき、ありがとうございました。

今回も二次会を同じ場所で行い、途中退席もなく恩師を中心になおいに盛り上がりしました。

また今年の総明会ゴルフコンペでは、15名参加で個人賞も含め多くの賞品を頂戴することが出来ました。

秋の総明会総会は、微力な

がら男坂俱樂部として協賛金協力および同期を多数誘い出席させていただきます。

男坂俱樂部会長

福田 正知

昭和四四年卒  
弁護士

田中等

丸の内南法律事務所

〒100-0005

千代田区丸の内二丁目三

丸の内仲通りビル七区

TEL 03-3321-5151

FAX 03-3321-6040



昭和47年卒

## 四七四七同志酔会

1999年に帝国ホテルでホスト学年を務めました、一風変わった会名の四七四七同志酔会です。早いもので、あれから7年の月日が過ぎ去りました。母校に奉職しておりますが仲間、当時実行委員長を務めた、田中徹太郎君も平成18年4月から教頭職に就き、我々もそういう年代になって来たのか。と改めて時の経過を実感させられます。

本年ホスト学年の諸君が大粒の汗を流しながら、この冊子の取材、資金集め他に動きまわっている姿を目の当たり

にすると、帝国ホテル目指し準備を始めた96年から99年のことが『我々もこんな風に大汗をかきながら、西に東に走り回ったなあ』と、つい昨日のこのようにいろいろな思い入れが交錯しながらよみがえり、毎年のことながら『よく頑張っているなあ、ありがとう』『本当に、おつかれさま』と声をかけずにいられません。ただただ、頭が下がるばかりです。

私達は、『四十を過ぎてからの人間関係の再構築』と『お互いがお互いの人生にエールを贈り合おう』を謳い文句に掲げ、総明会当日に向けて走りまわりました。当日の帝国ホテ

ルでは、1学年後輩の、波の会（富永会長）の皆さんなどのお手伝いを賜り、430名（うち同級生百余名）の出席を得、盛会裏に閉会させて頂きました。

その後は不定期ですが、3年から4年に1回程度同窓会を開催しております。前述に揚げたスローガンのおかげかどうか、和氣藹々、仲の良い学年と自負しております。

今回、掲載させて頂きましたのは、2008年調布移転を控え、在りし日の母校で、♪ここが♪ここが明高よく♪♪記念の写真を撮りましょねえ♪と、2004年9月に撮影したものです。この時は

参加者が約60名程でしたが、来年くらいにもう一度最後の記念撮影をしたいと考えております。

四七四七同志酔会

廣野 宏士



昭和50年卒

## 明紫会

年一度の同期の総会を行う度に思うのは、4年前の総明会総会ホスト学年の時に先輩から言われた「同期は減ることとはあっても増えることはない」という一言である。

我々は、「だったら、同期会に参加する仲間を増やそう」と考え、イベント好きの幹事達は、毎回いろいろと企画を考え実行に移して来た。

そして今年から、東西南北の4つの地域に分け、それぞれに副会長を置き、順番に地元優先の開催場所で行う事にした。

今年は北部担当で、北千住

駅前の東武菜苑で行った。しかも6月9日金曜日。土日以外での開催も初めてであるが、仕事帰りの方が都合がいい仲間もいると思って、時間もたっぷりとり、遅れて来ても参加できるようにした。

当日はなんと参加者37名のうち、6名が初参加という幹事としてはこんなに嬉しい事はない。

今回幹事の吉武君も、店選びから会報作成、郵送、そして当日まで、今までやらなかった分を補うように動きまわり、「準備もみんなでワイワイやって楽しかったけど、皆に会え、喜んでくれて本当に嬉しかった。」と。

来年は西地区が担当、まだ

店も日時も決まっていなくても、幹事の瞳が輝いている事は確かだ。

卒業して30年以上も経っているのに、いまだにこのバカ騒ぎ。この原稿を書いている今も、バカ暑い明紫会のゴルフ（7月16日、14名参加）から帰って来たばかりである。更に暑くなる来月にも温泉付一泊ゴルフツアーも予定されている。

明治のおかげで、総明会幹事学年制度のおかげで、いい仲間に出会い、人生楽しく陽気に生きて行ける事に、素直なボクは感謝いっぱいだァー！

明紫会 事務局長

窪寺 弘匡



昭和五〇年卒「明紫会」

(有)太陽精器製作所

代表取締役

世古俊之

大田区大森西七一二十  
電話 〇三ー三七六一九八八ー

## 昭和51年卒 明々会

梅雨明け間近の7月22日、本郷のイタリアレストランにおいて、毎年恒例の明々会（昭和51年卒）総会が行われました。会には今年春に退職された清水先生、そして山脇先生が駆けつけてくださいました。（付け足しのように申し訳ありませんが、今年の総明会幹事学年である明誠会からも2名ご参加いただきました。）特に清水先生にはこの日の昼間に栃木県の都賀カントリークラブで開催した明々会ゴルフ（スコアの方はまあま

あだったとのことです。）さらには、二次会のカラオケまでお付き合いただき、おかげさまで会は大変盛り上がりしました。この場をお借りして参加していただいた恩師と後輩の皆様に感謝申し上げます。我々明々会は3年前の総明会の幹事学年でしたが、幹事終了後も結束が固く、機会あるごとに顔を合わせており、5月の清水先生ありがとうの会でもOB学年としては最大の人数が集まりました。今年の総明会総会にもかなりの人数が集まると思いますし、今後毎年楽しく顔を合わせて続けていきたいと考えていま

す。

最後に明誠会の皆さん、準備は本当に大変でしたが皆で力を合わせて総明会を大いに盛り上げて下さい。

明々会 萩原 秀紀



祝 第42回 総明会 総会・懇親会

昭和51年卒

# 明々会

ホームページ：<http://meimeikai.s14.xrea.com/>

株式会社 岡仁  
代表取締役

## 岡本雅仁

（昭和五十一年卒明々会）

TEL〇三―三四五一―三六七二

## 温泉にぞびえる紫根男旗の集い？

昭和52年卒男子校根性組

会長 小嶋 眞作

今年の同期会は東京ドーム温泉Spalacquaで開催（9月9日）しました。

同期23名に明紫会（S50）から2名・明誠会（S54）から4名の総勢29名が参集して大中小の男旗を湯殿に立てる会となり、風呂上りに呑む冷えたビールと熱燗酒で気が付けば全員がベロベロという有様は半ば呆れ驚き挙句の果てに「流石〜！紫根明治〜♪」と頷いた次第です。男子校根性組が船出してから早や2年目を迎え、幹事学年のオーバーヒートが少しはクールダウンするかと思いきやヒートアッ

プしっ放しで何だかんだ口実を付けて毎週のごとく呑んだくれてるおバカな同期から、

本来同期の憩いの場として設けたHP掲示板を（迷える子羊ならぬ）盛りのついたウワバミ狼ごっここの場としてジャ

レ合う同期に、1年に1回開催する同期会で顔を会わせる同期とそれぞれ温度差はあるものの、いずれも同じ学舎の仲間としての絆を感じます。今回この同期会に出席するた

めだけに700km遠方の青森から駆けつけてくれた同期も居て「思いは一つだ！」と改めて認識し思わず目頭を熱くしました。会報は原稿集めから発行までの準備が手間だけど30年前のおバカに戻った同期会

として盛会だったことで全て報われる思いです。

今回の総会で今後の同期会は毎年6月の第1土曜日に開催することに決定しましたので宜しくね。

また、今年に総明会の運営理事として布施ゴルフ委員長・小生小嶋企画委員長の2名を男根組から輩出できたことはとても名誉あることと思う一方で同期に支えられて何とかこなせる重職と認識している次第です。

※本当に〜！ ああ〜何故オイラに白羽の矢が？と自問自答したら↓『世の中の役に立たなくても呑める口を持って生まれたんだから呑み助の同期のため母校のため少しは働

け〜！』とチータの罵声が、あつモトイ励ましの声が聞こえたから仕方ないとひとり禿増してる今日この頃で・・・なととぼやいて挨拶の弁とさせ



昭和53年卒

## 紫友会

紫友会にとってこの一年間は大いなる収穫の年でした。昨年度総明会幹事学年として、岩井君、竹越君、加藤君等有志が中心となり準備に奔走し無事、実行できたことがその出発点。それまで同窓メンバーによる活動は、井口君による紫友会ホームページ立ち上げ、有志による同窓ゴルフ会等、個人ベースでの活動に終始していましたが幹事活動を通じてやっとひとつにまとまってきました。意外だったのはその中心にいたのが学生時代、

優等生というよりもどちらかというと個性的なメンバーだったことでした。しらせ時代の申し子といわれている私たちでも、やはり「明治」は青春。今まで音信不通だった人、同窓会に無関心だった人、初めて明治中学・高校のOBだと思ひ出した人、いろいろいたけれど会ってみれば皆一瞬にして仲間に戻りました。ある者は会社社長として苦労し、ある者は秘書室長として男子校で味わえなかった生活を満喫し、またある者は中国への転勤を控えているとのこと。やっと味わいのある人生になってきたことを記念し本格的に

紫友会を運営していくこととしました。5月12日に銀座アスター御茶ノ水賓館にて開催した紫友会懇親会にはゲストとして松本理三郎先生にご参加いただき、30人の仲間が集い各自の現状報告をしました。それぞれが立派な中年に変身した姿に驚き笑い、2時間は瞬く間に過ぎてしまいました。またゴルフ会も過去最高の14人が参加し7月15日に鹿島の杜カントリークラブで行われ、よもやの飯野君(あつ、この人秘書室長ね)の優勝で盛り上がりました。唯一残念なのは恩師である谷口先生、保坂先生が相次いで他界されてし

まったことです。ご冥福をお祈りするとともに、いつまでも紫友会を続け、思い出を語り続けることをお約束いたします。

紫友会 川原 均



## 「若手の会」報告

昭和49年卒 翼明会 則 茂雄

6月29日(木)午後6時より、品川にある「ピアチェーレ(イタリアンダイニング)」で若手の会が行われました。今回は、大学4年生6人・大学2年生10人・大学1年生6人と、北島常務理事・則の計24人が集まりました。

大学4年生は就職決定のことと、今後どのようにして同期会を立ち上げるかを話し合っていました。大学2年生は、修得した単位や同期の消息といった気楽な話題で盛り上がっていました。大学1年生は、学部毎の授業の様子や、入っ

たサークルのことを話し合っていました。

アルコールがまわるに従って、先輩後輩入り交り交友を深めていたようです。彼らを中心に、12月の懇親会は大勢の学生会員が参加してくれるでしょう。

学生会員(特にクラス幹事)の皆さん、来年も若手の会を実施します。楽しいひとときを過ごしましょう！

昭和49年卒

坂政合板株式会社  
マーカム株式会社

代表取締役

坂上 真 啓

〒424-0045

静岡市清水区東大曲町8-36  
TEL 0543-66-1155

## 新たなレジエンド(伝統)?

昭和52年卒 企画委員長 小嶋 真作

今回企画委員会で、明大ラグビー部・総明会役員会の承認を得て、全国に名を馳せた北島忠治監督時代のラグビィシャツを復刻版としてお届けできることになりました。

今後神宮の六大学野球・ラグビーの応援観戦には今回お届けする紫紺ラグビィシャツを着たサポーターとなって集い声高らかに「おー明治」を歌いたいです。

製作にあたり多くの諸先輩のお力添えをいただき四方八方手を尽くし割安な価格で提供できることと相成りましたことはただ感謝の一言に尽きます。

今回の製作販売は8月末日で締め切りましたがサイズ等に限りがあるものの在庫が多少ありますのでお問い合わせください。リクエストの声があれば引き続き製作することを検討します。さらにこの流れが続くなら神宮球場・国立競技場を紫紺ラグビーで埋め尽くした応援も夢ではない! 「蛮カラ」明治の美学をプチアピール出来たら!と思う次第です。



# 明球会

硬式野球部OB会

昭51卒 明球会副会長 一泉 二郎

古豪明治高校野球部と言われて久しいですが、硬式野球部OB会「明球会」は現在420人の会員がおりまして、多くのOBの方々によって、現役選手の監督指導を含めた会の運営を行っております。

歴史のある硬式野球部もかつてとは置かれた環境が相当変化致しております。この厳しい条件の下、明球会としては現役選手がより良い状態で練習が出来、一試合でも多く

勝ち抜けるように支援致しております。現役選手は勿論ですが、OBの方々も切磋琢磨・研鑽に励んでおります。監督



を含め現場の指導者の件では色々有りましたが、チーム自体は変わってきました。ひとつでも上に昇って欲しいと会員全員が願っております。

明球会の定期総会は6月でしたが、世代を越えて勝利に向けての熱い議論が展開されました。今年も総会後に「出陣式（選手激励会）」を行いました。「明治高校を甲子園に送る会」「応援団OB会」にもご尽力頂きまして、「明球会」と併せて3団体共催で行いました。約180人の参加者全員が甲子園を本当に現実のものにしたいと心から祈念致

## 硬式野球部OB会

# 明球会

会長 高橋郁夫 (昭50卒)

ホームページ URL <http://o-meiji.com/>

事務局連絡 E-mail: [mail@o-meiji.com](mailto:mail@o-meiji.com)



しておりました。

硬式野球部は、入部したからには部員に3年間高校野球を全うさせることを前提に、選手ひとりひとりの気持ち・考えそして人生をも十分に汲み取るような指導を致しております。人生同様、置かれている状況と自分の能力を見極め、ひとつひとつのプレーを自ら判断出来る若者を育てるようにしております。長い人生で、明高野球部の指導者から何を教えられたのかを思い出し、ピンチをチャンスに変えることが出来る強い意志を持った若者を世に送り出した

いと考えております。監督やOBの方々の現場での熱血指導に心から感謝申し上げます。

最後になりますが、昭和36年から使用してきた調布つつじヶ丘のグラウンドを今秋、明大野球部と共に東府中に移転し、新明大球場に隣接した「明治高校野球場」が新設されます。

学校移転に先立ち、硬式野球部は関係者皆様のご尽力で一足早く練習の拠点を西東京に移します。新球場の完成予想図を添付させて頂きます。



新球場完成予想図

12月3日、  
総会・懇親会  
お待ちしております。

明誠会

2006年総明会 実行委員「昭和54年卒」

## 出陣式

(硬式野球部選手激励会)

明球会 後藤 勇三

誇り高いMeijiの名を胸に飾り、明治高校の歴史と伝統を継承する若人が今年も集いました。...

6月18日夕刻、大学会館に於いて夏の選手権大会に臨む硬式野球部を応援団を筆頭とした教職員・PTA役員・応援団(父兄会・野球部父母の会・卒業生...と、多くの声援の輪が囲みました。

3回目となる今年は、硬式野球部49名、応援団21名(中学団員の参加も了解)を含む総勢184名による盛大な出陣式

となりました。

前日の組合せ抽選会結果(明治高校の初戦は7月13日の対開成高校戦)が伝えられると会場から拍手が湧き、更にベンチ入りの20名が発表されると歓声に変わりました。

この記事が読まれている頃には第88回全国高等学校野球選手権大会も全国制覇の学校名が分かっている訳ですが、そこに明治高校の名があることを期待して報告記事とします。以上、報告は※2006・

出陣式実行委員会でした。

※実行委員会が出陣式を共催した「応援団OB」「甲子園に送る会」「明球会(硬式野球

部OB会)のメンバーで構成されています。



祝 第42回 総明会 総会  
昭和46年卒

# 明潮会

喫茶  
ペガサス  
後藤義明 S45  
フェンシング部

Clarion  
後藤勇三 S50  
硬式野球部

## 「明治高校を甲子園に送る会」について

昭和55年卒 渡辺 裕之

第42回総明会、総会懇親会の開催、おめでとうございませう。

皆様ご承知のとおり、明治高校の甲子園出場は昭和25年（1950年）の選抜初出場以降、春4回、夏3回という輝かしい歴史を有しています。昭和28年（1953年）の第35回選手権では準決勝進出・全国ベスト4の戦績を歴史に刻んでいます。しかしながら、昭和40年（1965年）春の選抜出場を最後に甲子園に「明治高校」の名が登場する事無く40年以上が

経ちました。その間も伝統の灯を絶やす事無く、奮闘しておる野球部指導陣、現役選手を見るに何か支援できることはないかと模索するにあたり、明治大学監事であります山浦晟暉氏（昭和29年卒）のお声がかかりに有志が募り2003年6月に当会を発足しました。4年目を迎え会員も約200名を数えるに至りました。会員の立場も、明治高校中学校OBはもとより学校関係者、PTA、父母関係者、また直接明治と関係なくとも、明治の野球が好きだという明治ファンの方と多岐に渡っております。2008年の学校の移転に際

し、専用グラウンドも2006年秋には完成します。また、既に学業・一芸入試も始まっており、学校全体の更なる躍進が期待できます。この様な環境の中、是非「古豪復活」を果たし、甲子園で紫紺の旗の下、皆で校歌を歌おうではありませんか。

昨年度支援活動状況

平成17年6月12日

出陣式（全国高校野球選手権大会東京都大会）

6月27日 トンボ寄贈

8月8日 遠征費援助

平成18年2月17日

グラウンド整備器具寄贈

明治高校を甲子園に送る会  
問合せ先

事務局 渡辺裕之

TEL 090-11125-4071

mail: 6lurv@rondo.plala.or.jp

明治大学監事

明高野球部を甲子園に送る会 会長

山 浦 晟 暉

昭和29年卒

TEL. 03-3378-2151

# 「六旗の集いを終えて」

明治高校応援団 団長 釜谷 洋平

今年の六旗の集いは2月19日（日）我が母校明治高校にて行われました。団員の声と共に報告させていただきます。

先ず、日程、場所が正式に決定したのは12月上旬でした。六旗の集い直前は入試等学校行事の都合上練習がなかなか組めませんでした。リーダー長・秋山にも焦りがありました。一人一人の気持ち、そのまとまりを重視した練習を行うことができました。今回は本校で行えるということもあり

様々な宣伝活動を行いました。各教室にポスターを貼り

宣伝したことにより生徒が尋ねてきて日に日に関心が高まっ

て来たのも事実です。この様な宣伝の効果があつたのか当

日は開場前には多くの人が列を作って待っていました。雑

用の多くをこなす中学1年生は初めての六旗で分からない

ことが沢山あったと思います。が良く頑張ってくれたと思います。

開場とともに多くのお客様が入り、立ち見が出るほどで

した。本年は出場校が3校と少ないにも関わらず多くのお

客様にご来場いただき、ありがとうございました。

本番が始まり満員のお客様を前にして立つ舞台は大変気

持ちのよいものでした。普段の努力の成果である舞台は瞬

く間に過ぎてゆき、最後の曲目高Ⅲを送る「駿台節」にな

りました。団員一同、高Ⅲの先輩方を快く送り出すことが

できました。また、今回の六旗で最も印象に残ったのは3

校のチャンスパターンメドレーがおこなわれ、3校の下級生

全員で客席に乱入したことです。開場は盛り上がり、団員

も共に楽しむことができました。

た。

後日友人から「やっぱり明治が一番だったよ。」と言わ

れてとてもうれしく思いました。今回初めて旗手長として

参加した大野、副団長・大竹も充実感で一杯だったと思

います。

ただ、もう1人の副団長・萩原は「早実のチアとものと仲

良くなればよかった。」との本音も聞けました。

こうして終わった「六旗の集い」は団員全員が満足のい

く一日でした。

伝統の音色は歴史を重ねて  
♪吹奏楽班♪

# 「第47回定期演奏会」

昭和54年卒明誠会 玉置 孝一

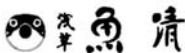
吹奏楽班の定期演奏会が1月29日(日) 昭和女子大学人見記念講堂にて開催されました。演奏会は3部構成で第1部は本校吹奏楽班顧問・常任指揮者・鈴木先生のタクトでコンクール課題曲など3曲。第2部は松岡拓人君の指揮でポップスステージ。第3部は再び鈴木先生のタクトで「白鳥の湖」など2曲を演奏しました。全体の曲目構成も馴染みのクラシックがあり大変好評でした。第2部のポップスステージではステージの構成

がガラリと変わって応援指導班・山崎君の名司会?と生徒諸君のパワフルな演奏でおいに盛り上がりました。衣装もそれぞれが仮装しており、エンターテイメントとして完成された観もあります。しかし、堂々と伸びやかに演奏する彼らの姿はこれが等身大の飾らない高校生なのだと思います。むしろ好感すら感じます。

またアンコール曲の演奏時に、今年卒業する高3の生徒全員に後輩から花束が贈られフィナーレを迎えました。男子校らしい飾りのない演出はこれからも変わることなく受け継がれることと思います。競争の激しい高校吹奏楽界

において数十年にわたりトップレベルを維持することは大変な努力が必要だと思います。コンクールの輝かしい成績のその影にはOB会、父母会はじめ先生方、コーチの方々の一丸となったご指導あつてのことと推察いたします。

調布移転後の翌年は迎えて第50回の記念演奏会になり、OBとの合同演奏などの企画もあると聞いています。きっと素晴らしい演奏会になることを期待しております。最後になりましたが、吹奏楽班の益々のご発展をお祈り申し上げます。



ふぐ料理・和牛しゃぶしゃぶ

代表取締役 岡本力三

台東区浅草4丁目36番2号  
電話(3874)2390 FAX(3871)5899  
(昭和48年卒)

**上陽テクノ株式会社**

代表取締役

**阿部 正行** (昭和40年卒)

千代田区外神田 6-10-11  
TEL. 03-3834-1329

爽やかなトレモロの響き  
♪マンドリン部♪

# 「第47回定期演奏会」

昭和54年卒明誠会 玉置 孝一

マンドリン部の定期演奏会が2月5日(日)御茶ノ水・日本大学カザルスホールにて開催されました。演奏会は3部構成でマンドリンオリジナル曲を中心とした聞きごたえのあるプログラムでした。第2部では昨年の全国ギター・マンドリンフェスティバルにおいて本校6度目の受賞となる朝日新聞社賞受賞曲も演奏されました。前半は松田正幸君が指揮を担当。後半は本校マンドリン部OBで音楽監督の久保田孝先生の指揮で演奏会は進行しました。

本校マンドリン部は創部52年の伝統を誇り、高校マンドリン界において全国津々浦々にその名を知られております。また、その質の高い演奏は高校、大学を問わず多くの団体の知るところであります。技術面ではOB久保田先生のご指導の下、急速な進歩を遂げ現在にいたっています。大型のオーケストラが持つスケールの大きい演奏は本校マンドリン部には規模的に望むべくもありませんが、それを補って余りある繊細な音楽の表現、伝統の演奏テクニクは高校生離れした超絶の域と言えるでしょう。

今亡き初代顧問の丸山ミヨシ先生が頑なに貫いたオリジナル音楽路線は多くの生徒達に引き継がれ、今見事な花を咲かせていると思います。昨年他界された先生も天国でこの演奏を静かに聞いて下さっていたのではないのでしょうか。演奏会はスタンダードなオリジナル曲からメインの久保田先生作曲の「舞踊風組曲第2番」まで一糸乱れることのない素晴らしい演奏でした。最後の舞踊風組曲は生徒たちのこの曲にかける情熱が会場全体に伝わり感動的でした。部員不足の悩みはここ数年続いています。少数精鋭の精神でこれからも質の高い音楽の追求を願ってやみません。最後になりましたがマンドリン部の益々のご発展をお祈りいたします。

昭和39年卒業 (マンドリン部OB)  
ユアサ商事株式会社 代表取締役社長  
日本経団連評議員  
公認会計士

谷 慈 義

(会社)〒103-8570 東京都中央区日本橋大伝馬町 13-10  
TEL 03-3665-6667

## 「第58回 明治高校卒業証書授与式」

に参加して

昭和54年卒明誠会 岩田 茂

平成18年3月10日、小雨降るなか、明治大学アカデミーコモンにおいて「明治高校卒業証書授与式」が行われました。

本日、栄えある卒業を迎える216名の卒業生。それを送る在校生、教職員、来賓の方々、そして多くの父母がここアカデミーコモンに集い、未来に巣立つ若人たちを暖かく送り出しました。

式典は、栗野先生の司会により開式、国歌斉唱、学事報告と厳かに進行していく。

つづいて行われた卒業証書授与は、各組担任の先生が卒業生一人ひとりの名前を読み上げ卒業生が一人ずつ起立。卒業生216名の総代として、遠藤龍太君が吉田校長より卒業証書を授与されました。

その後、優秀賞5名、皆勤賞32名、清勤金賞20名、総明会賞5名の卒業生がそれぞれ表彰されました。

表彰のあとは、吉田校長により式辞があり、その後は明治大学の長吉理事長をはじめ多くの来賓の方々により、卒業生の明るい未来を予感させる力強い祝辞の言葉が贈られました。

そして在校生を代表して2

年、鈴木亨輔君が送辞を読み上げ、卒業生に感謝の気持ちを送りました。その答辞として卒業生の若山宗士君が在校生に明治高校の将来を託す言葉を残しました。

最後は入場者全員により「仰げば尊し」、「校歌」の斉唱です。校歌は卒業生がスクラムを組んで斉唱し、ご来場の母親のなかには万感の思いで涙ぐむ姿もみうけられて、場内は最高潮のなかで閉式となりました。

その後、グラウンドフィナーレというべき卒業生退場。グラスバンドの演奏による「蛍の光マーチ」と会場が一体となった2拍子の手拍子の

なかで卒業生が退場していきます。退場時間を利用して、式場正面の大スクリーンには卒業生の3年間の思い出がスライドで映し出され、青春の一ページがほのかな笑いとともにも再現されていました。

会場全体に響きわたる熱い拍手に、在校生からの掛け声も加わり会場は感動の渦、これぞ男子校！これぞ明治魂！後輩から卒業生への感謝の気持ち、同じ学び舎を共有した連帯感が確かにそこに存在し、この連帯感がある限り明治高校の将来は安泰であると感じた心暖まる卒業式でありました。

# 「2006年度入学式」

昭和54年卒明誠会玉置孝一

4月6日晴天の駿河台。明治中学校・高校入学式が明治大学アカデミーコモンで行われました。今年度の入学者は中学校141名。高校は明治中学から154名・一般入試合格者54名・推薦入試合格者26名の合計234名でした。

式は国歌斉唱に始まり吉田校長の式辞、高校1年生・新島高史君の生徒宣誓が行われた。また、来賓祝辞を明治大学理事長・長吉 泉氏、明治大学学長納谷廣美氏そしてPTA会長・白岩忠夫氏から頂

戴しました。その後、学校役職者、主任、担任紹介が行われ、最後に全員で校歌を3番まで斉唱して約1時間半の入学式は滞りなく終了しました。

中学1年生は真新しい詰襟姿が初々しく私も三十数年前を思い出しました。もう記憶も怪しいのですが、明治大学記念館講堂で行われたと記憶しています。冷たい空気が漂い、古い講堂の雰囲気は何故か怖いように感じたのを覚えています。

今年入学した中学生も高校生も卒業は全員調布の新校舎です。調布には立派な講堂も出来ると聞いているので卒業

式は新講堂となるのでしょうか。今日の前にいる彼らは、新生明治高校の礎を築くべき世代。校長式辞にもあったように、挑戦する気持ちと前へ進もうとする気持ちをもって、まだ誰も知らない未知なる道を歩んで欲しいと思います。

式の最後に歌った校歌はまだ新入生はつぶやく程度だったと思います。しかし、今日この地で歌った「白雲なびく駿河台」を一生忘れることなく明治中学・高校の伝統を継承し発展させて欲しいと願うばかりです。

茅原ベルト株式会社

代表取締役会長

茅原誠也

(昭和三十二年卒)

〒一〇一〇〇五三  
千代田区神田美土代町十一一五  
TEL〇三三三九一一七六四一

昭和36年卒

山田和孝

山田ゴム工業(株)

Tel.03-3863-2147

昭和三十七年卒  
柚木法律事務所

弁護士 柚木 司

〒一〇一〇〇四一  
千代田区神田須田町二一三十一河合ビル八〇一  
TEL〇三三三九四一六二九〇  
FAX〇三三三九四一六二九〇





我らが母校、明治高校は思い出多き駿河台を後にして新天地・調布に移転します。移転後は新たな歴史を調布に刻みつつ、駿河台で培った独立自治、質実剛健の明治建学の精神を確実に受け継ぎさらに発展させてくれることでしょう。

そして2012年には『明治の新世紀』を迎えます。この記念すべき創立100周年の祝典に向け、今こそ「お、明治」の心意気を見せようではありませんか。

明治大学付属明治高等・中学校卒業生が根幹をなす総明会はじめ関係各位の方々に、新たな世紀を迎える「新生明治」への熱き応援を賜りたいと存じます。

我ら明誠会は1000万円(子ども銀行発行券)の寄付は済みました。

詳しくは最終ページ総明会会長からの案内をごらんください。

#### 教職員平成18年度退職者

川瀬 孟俊先生

下野 進先生

永年のご指導ありがとうございました。

#### 恩 師 の 訃 報

平成17年12月31日 谷口 善三先生 享年84歳

平成18年 2月26日 釜谷 正誠先生 享年86歳

平成18年 4月22日 保坂 吉彦先生 享年80歳

謹んでご冥福をお祈りいたします。

# 第42回総明会 御寄付者一覽 (敬称略)

## ◎総明会行事

評議員会・支部OB懇親会参加者有志

金 三万二千元

## ◎学校関係

白駿会有志一同様

金 九万円

白駿会会長金井靖雄様

金 一万円

## ◎同期会・クラブOB会その他

紫友会 (53年卒) 有志

金 二十万円

紫讃会 (43年卒) 有志

金 十一万四千元

男坂俱樂部 (44年卒) 有志

金 十一万二千元

明々会 (51年卒) 有志

金 十万八百元

卯の木会有志

金 六万三千二百十二円

明紫会 (50年卒)

金 六万一千円

## ◎個人

金 十万円

中田 貢弘 (37年卒)

金 三万円

福島 啓充 (37年卒)

岡田 基宏 (57年卒)

金 二万円

服部 雄二 (44年卒)

男子校根性組有志 (52年卒) 金 七万八千元

二年に一会 (38年卒) 有志 金 四万八千元

ごとう会有志

金 四万五千五百円

応援団OB会有志

金 六万円

柔道部OB会有志

金 三万円

明球会

金 一万円

金 一万円

藁谷 吉田耕太郎 (44年卒)

千崎 康忠 (34年卒)

三浦 昭生 (38年卒)

加藤 一也 (39年卒)

秋本 康彦 (39年卒)

中村 正容 (43年卒)

細矢 日出男 (43年卒)

塙 康敏 (43年卒)

比留間 竹郎 (45年卒)

山形 英明 (45年卒)

中村 裕次 (45年卒)

廣野 宏士 (47年卒)

大前 実之 (49年卒)

佐藤 眞弘 (49年卒)

富澤 秀敏 (50年卒)

古屋 修蔵 (51年卒)

岡本 雅仁 (51年卒)

関口 芳信 (51年卒)

金 五千円

北島 一弘 (45年卒)

中村 信也 (45年卒)

金 三千元

千葉 近藤 訓康 (45年卒)

上野 隆史 (45年卒)

内藤 功 (42年卒)

高梨 賢一 (44年卒)

栗田 茂 (45年卒)

由本 俊昭 (45年卒)

横田 圭二 (45年卒)

松川 芳久 (45年卒)

藤城 良友 (45年卒)

中川 勝三 (45年卒)

玉本 幸三 (45年卒)

高橋 功 (45年卒)

高橋 秀人 (45年卒)

清水 通 (45年卒)

笹本 和義 (45年卒)

金原 章二 (45年卒)

大田 繁太郎 (45年卒)

岡野 憲正 (45年卒)

有元 幸夫 (45年卒)

前川 国和 (45年卒)

関係者各位から暖かいご支援をいただき誠にありがとうございました。お預かりした寄付金ならびに広告代は大切に使用させていただきます。

第42回総明会実行委員会（昭和54年卒明誠会）

実行委員長 熊倉 章雄

事務局長 河合 洋

常住 豊、道下和幸、

五十嵐公一、中津洋行、岩佐浩之

会計委員長 矢ノ目 忠

鳴海秀幸、柳田雄次郎

会報委員長 玉置孝一

岩田 茂、荒井信之

企画・総委員長 熊澤正幸

池田浩司、志村和哉、藪崎正光

寄付広告委員長 千崎 修

吉田正穂、水上泰良、朝倉七寿、

星本慎児

ゴルフ委員長 松戸一浩

高埜雅信、渡辺欣信

幹事学年寄付者一覧

五万円

西 浩明

四万円

志伍会

保上 達也

松居 博志

松村 博

宮沢 孝浩

吉田 雅博

脇本 正彦

三万五千元

荒井 信之

三万円

木村 弘樹

小松原英太郎

一万円

島田 俊彦

一万円

朝倉 一寿

五十嵐公一

五十嵐庸介

池田 浩司

石井 浩学

石川 俊彦

岩佐 浩之

岩田 茂

高本 伸介

榎本 真人

河合 洋

川村日出樹

熊倉 章雄

熊澤 正幸

小林圭一 齊藤庸宣 島崎守朗 志村和哉 千崎修 染野俊哉 高埜雅信 田中宏明 田辺文敏 玉井孝一 玉置豊 常住彰彦 内藤洋行 中津彰彦 永山和明 平田和広 昼間一雄 星本慎児 松戸一浩 水上康良

九千元

神宿 彰

八千八百八十八円

助川 寧

五千元

田中 克己

福田 浩司

森田 雅久

道下和幸 森康朗 安江修 矢ノ目忠 藪崎正光 山下泰弘 吉田正穂 渡邊欣信

# 前年度幹事学年御礼挨拶

第41回総明会実行委員長

昭和53年卒紫友会 竹越 利之

第42回総明会・懇親会の開催、誠におめでとうございます。幹事学年の昭和54年卒「明誠会」の皆様、本当にご苦勞様です。

昨年の第41回総明会、会報作成・総会・講演会・懇親会の幹事学年を務めました紫友会よりこの場をお借りして、御礼の挨拶をさせていただきます。

幹事学年の前年に立ち上げた私たち昭和53年卒「紫友会」

は、皆様からの暖かいご指導のもと、何とか無事に第41回の総明会を開催することができました。本当にありがとうございます。ごさいました。「やらせて、お願い！1000人総会」と名打って企画させていただきましたが、残念ながら400人余りの参加者になってしまいました。一番の原因は私たち同期の動員不足であると痛感いたしております。150人を目標に頑張っておりましたが、結局60人の同期の参加だったのです。しかし、1年前に11人でスタートした「紫友会」が、同期みんなの努力で60人になったこ

とは、実行委員長として本当にありがたいことだと感謝しています。これからはこの60人からさらに輪を広げ、今後の後輩たちに少しでも協力できればと思います。

会報作成につきましては、会報委員会の諸先輩に大変お世話になりました。また、取材として各同期会にお邪魔させていただき、たくさんのご寄付と応援をいただきました。講演会では、トリノオリンピックを、昭和29年卒の富田正一氏にご講演をいただきました。懇親会では、明治大学長はじめ、

現任教員、退職恩師、PTA、白駿会、武陵会のご来賓の皆様にも大勢ご参加いただきました。懇親会に花を添えていただきました応援団OB会の皆様、そしてお集まりいただきました総明会会員の皆様に心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、今まで総明会を支えていただきました役員の皆様本当にありがとうございます。

12月3日4時にお会いしましょう。

## 次年度幹事学年抱負

昭和55年卒 紫魂会 渡辺 裕之

第42回総明会、総会並びに懇親会の開催、おめでとうございます。これも総明会、役員・執行部そして学校関係者皆様の永年に渡るご尽力の賜物であると感じております。

また本年度ホスト学年の明誠会の先輩諸兄に於かれましては、この1年間のご活躍、我々後輩からみて、並々ならぬ気合を感じ、元気を頂きました。本当にありがとうございます。来年度は私たち昭和55年卒がホストを務めさせて頂くわけ

でありますが、今まで決定しておりませんでした同期会の名称も「紫魂会」と決まり、6月から数回の打ち合せを行なって参りました。皆、公私共に忙しい中、総明会の名に恥じない総会・懇親会にしようと同期一同、努力精進しております。

母校は2008年4月から調布に移り、共学となります。来年2007年は、明治高等学校が駿河台の地で燦然と輝いている最後の年です。この節目に幹事学年として、過ごせる事に大きな責任を感じると同時に多少の不安が募っ

てくるというのが、正直な気持ちです。

明治高等学校から新生明治高等学校へ発展躍進するにあたり、それに相応しい懇親会にすべく、ない知恵をしぼり同期で会議を行なっております。企画等細かな部分は未だ決定しておりませんが、参加者皆様にご満足頂ける宴になるよう紫魂会会員一同、全力で頑張って駿河台に明治魂（紫魂）の花火を打ち上げる所存でございます。今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

祝 第42回総明会・懇親会

# 紫魂会

(昭和55年卒)

第43回総明会幹事学年

# 幹事学年挨拶

昭和54年卒「明誠会」

実行委員長 熊倉 章雄

私は「誠」という言葉が大好きです。中学・高校を通して、母校において「誠」を教えて頂いたと思っております。今年度、総明会 総会・懇親会の幹事学年になり、その実行委員長という大役を仰せつかり何から手を付けてよいのかわからないなかで準備が始まりました。会報？寄付？総会企画？よく分らないけどとにかく同期を集めて月に1回同期会をやるつもり動けばいいや。そんな声掛けに二十名弱の仲間が集まって、ああでもないこうでもない、喧々囂々、

侃々諤々をやっているうちに月に1度の会合に大勢の先輩方が来てくれるようになりました。

それぞれの担当委員会ごとに先輩たちのアドバイスがなされ、これはこうだよ、あれはこうだよと説明を受けました。しかしこれは先輩たちがやってきたことであり、基本は自分たちが何をしたいのか、どうしたいのかを考えるのが幹事学年である。との言葉に「質実剛健」「独立自治」の精神を今一度身思い知らされました。やはり明治っ子である以上はこの言葉は忘れてはなりません。

先輩、後輩の間柄でも、これが入るとそこはそれ、話が進み、酒も進みます。俺たちの時はこうだった、ああだったと時が経つのも忘れて杯を飲み合わせることも何十回。心配のあまり毎日のように電話を下さる先輩もいらっしました。「電話じゃないと裏技は教えられないからな。」などはいいいのですが。時に、二日酔いの朝に電話で一下り戴いたのには少し閉口しました。

同期でも何年ぶり、何十年ぶりのメンバーもいます。ここの潤滑油もやはり「酒」。「俺は命をかけて会報を作るぞ！」と、のたまう奴もいれば、「寄付・広告どうしよう。」とノイローゼ気味の奴も。ちょっと飲み過ぎてドンパチ始まりそうな時もあります。同級生が酒の席上での言葉です。明日になれば「昨日はどうも。」の一言で「幹事学年がんばるぞ！」となります。

この原稿を書いている時点で準備を始めて半年になります。先輩の愛情、先生の激励、同期の友情、私の周りは「誠」で一杯です。今年の総会・懇親会はお知らせの通り12月3日(日)午後4時より、渋谷のセルリアンタワー東急ホテルで執り行います。当日は一人でも多くの「誠」にふれあう事ができますようお願い申し上げます。幹事学年の挨拶とさせていただきます。

昭和52年卒  
パートナーズ総合事務所

司法書士  
菅原 誠

台東区東上野 3-35-5  
TEL 03-3835-8041  
FAX 03-3835-8042  
e-mail ZVC 00312@nifty.ne.jp

明治高等学校 昭和30年卒

**同窓の友・共に社会奉仕活動をしませんか  
駿河台ライオンズクラブが貴君の  
入会申し込みを待ってます 連絡は下記へ**

ライオンズクラブ国際協会 330-A 地区

元ガバナー 宇田川 雅弘

(東京練馬L.C所属)

●入会についてのお問い合わせ●  
TEL 03-3993-5831

「建築のことなら!」

## ワイシー企画 株式会社

代表取締役 藁谷 豊  
(昭和44年卒)

所沢市緑町 4-37-13

電話 04-2923-3381

FAX 04-2923-3399

## 明治大学付属 明治高校同窓会 川口明高会

(設立 昭和53年)

間もなく設立30周年記念事業を開催2008年

明高会ホームページ <http://www.cablenet.ne.jp/~prout/>

安全興業株式会社

代表取締役

土屋悌一郎

(昭和四十八年卒)

〒333-0842 川口市前川一丁目三六  
TEL 0481-2691-0660  
FAX 0481-2691-0708

初代会長 大熊 康浩

2代会長 目良 昇

3代会長 久松 勇

4代会長 天野 洋一

5代会長 荻野 布昌  
(物故)

6代会長 石井 次男

7代会長 由本 俊昭

新会長

8代会長 土屋悌一郎

事務局 川口市峯307-4

石井君忠

048-294-3780

昭和三九年卒

加藤一也税理士事務所

加 藤 一 也

東京都豊島区巢鴨 3-25-8  
第2扇屋ビル  
電 話 03-3910-8683

台東区上野 3-17-8  
田沼第一ビル4F

弁護士 小坂嘉幸

TEL 03-3831-6032  
FAX 03-3831-6037

菊  
本  
哲  
也

昭和四十一年卒

昭和43年卒  
株式会社 ホソヤ

代表取締役

細矢 日出男

〒104-0042  
東京都中央区入船 2-3-6 第1細矢ビル  
TEL 03-3551-0725  
FAX 03-3551-0748

祝 第42回 総明会総会

明治高校卓球部OB会

明卓OB会

会長 高橋正侑（昭和38年卒）

明治高校  
テニス部  
OB会

株式会社 シティ・ハウジング

代表取締役 佐藤 仁

（昭和39年卒）

本社 東京都大田区西糀谷 4-28-14  
TEL 03-3742-7607  
FAX 03-5705-8097

E-mail: jinsato@cityhousing.co.jp  
糀谷本店・蒲田東口店・大森店・大井町店・雪が谷店



## 明治高校テニス部OB会 有志一同

昭和 47 年卒	鈴木 信夫
〃	金宮 秀王
昭和 48 年卒	浅川 敏弘
〃	山形 厚夫
昭和 50 年卒	石山 祐司
昭和 51 年卒	林 伸光
〃	太田垣政紀
昭和 52 年卒	山本 哲夫
昭和 54 年卒	岩佐 浩之
〃	中津 洋行

祝 第42回総明会 総会  
昭和49年卒 翼明会

### ターカム保険企画(有)

日本興亜損害保険株式会社  
日本興亜生命保険株式会社 代理店

代 表 **竹 澤 啓**

〒134-0084 東京都江戸川区東葛西9-20-3  
T E L 03-3675-9955  
F A X 03-3675-9922

昭和四十七年卒  
五木田・三浦法律事務所

弁護士

三 浦 雅 生

〒100-0061  
中央区銀座五丁目一  
第一御幸ビル一  
九四一  
〇階五  
電話 三五七五  
〇一〇

## 株式会社 サンリッツ **SANRITZ** CORPORATION

営 業 品 目 液晶ディスプレイ用プラスチック偏光板、通信機器周辺製品

代表取締役社長 三 上 嗣 治 (昭和44年卒)

取 締 役 島 野 竹 夫 (昭和46年卒)

〒176-0094 東京都板橋区成増1-30-13

TEL 03-3930-1101

FAX 03-3930-1167

URL <http://www.sanritz.corp.co.jp> E-mail [sohmu@sanritz.corp.co.jp](mailto:sohmu@sanritz.corp.co.jp)

## 個人情報保護に関する規則

### 第1章 総 則

#### (目的)

#### 第1条

この規則は、明治大学付属明治高等・中学校同窓会総明会（以下「総明会」という。）における個人情報の取り扱いに関する基本的事項を定めることにより、同窓会活動の適正かつ円滑な運営を図るとともに、個人の権利利益を保護することを目的とする。

#### (定義)

#### 第2条

- 1 この規則において「個人情報」とは、総明会の会員に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）をいう。

- 2 この規則において「保有個人情報」とは、総明会が

作成し、又は取得した個人情報であって、総明会が組織的に利用するものとして、保有しているものをいう。ただし、文書、図面及び電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他の人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。以下同じ。）に記録されているものに限り。

- 3 この規則において、「個人情報ファイル」とは、保有個人情報を含む情報の集合物であって、次に掲げるものをいう。

(1) 一定の事務の目的を達成するために、特定の保有個人情報を電子計算機を用いて検索することができるように体系的に構成したもの。

(2) 前号に掲げるもののほか、一定の事務の目的を達成するために、氏名、生年月日その他の記述等により特定の保有個人情報を容易に検索することができるように体系的に構成したもの。

- 4 この規則において「情報主体」とは、個人情報によって識別される特定の個人をいう。

(会長、個人情報保護管理者)

#### 第3条

- 1 総明会会長は、この規則及び関係法令等の趣旨にのっ

とり、個人情報の適正な取扱いを確保するために必要な施策を総合的に策定し、実施するとともに、保有個人情報の管理について、これを統括する。

- 2 この規則の目的を達成するため、個人情報保護管理者（以下「管理者」という。）を置く。

- 3 管理者は、専務理事・事務局長とする。

- 4 管理者はこの規則の定めに従い、その所管する業務の範囲内における個人情報について、各理事、各委員会及び会員がこれを適正に取扱うよう指導し、監督するとともに、その取扱い並びに所管する保有個人情報の開示及び訂正等の請求、個人情報の取得、保管、利用、第三者提供等に関し、会長を補佐し、これを適正に処理する。

- 5 保有個人情報の管理責任範囲について疑義が生じ、これが緊急性を要する場合は、当該管理者間の協議により、これを定めるものとする。

- 6 管理者は会長及び理事会並びに評議会に対して、個人情報の処理、協議等について報告し、会長の承認を受ける。

### 第2章 理 事 会

(審議事項等)

#### 第4条

- 1 理事会は、次の事項について審議する。
  - (1) 個人情報の保護に関する基本的施策に関する事項
  - (2) その他、本規則に定める事項及び個人情報の保護に関する重要な事項
- 2 理事会は前条に規定する事項の審議のため、関係する総明会会員の意見を求めることができる。
- 3 理事会は、管理者からその執り行った措置に関する報告を受ける。

#### 第3章 個人情報の取扱い

##### (利用目的と保有の制限等)

#### 第5条

- 1 個人情報の保有は、総明会の活動を遂行するために必要または有益な場合に限るものとし、保有にあたってはその利用の目的(以下「利用目的」という。)をできる限り特定しなければならない。
- 2 個人情報、前項の規定により特定された利用目的の達成に必要な範囲を超えて、これを保有してはならない。

##### (利用目的の明示)

#### 第6条

##### (利用及び提供の制限)

#### 1

文書、図面及び電磁的記録に記録された個人情報を取得するとき、及び情報主体から直接書面(電磁的記録を含む。)に記録された当該情報主体の個人情報を取得するときは、次に掲げる場合を除き、あらかじめ、当該情報主体に対し、その利用目的を明示しなければならない。

- (1) 会報の発送・総会開催時のための通知。
- (2) 各種総明会行事の案内・提供、会員名簿の維持管理。

(3) その他同窓会活動に関連・付随する業務。

- (4) 人の生命、身体又は財産の保護のために緊急に必要があるとき。

(5) 利用目的を情報主体に明示することにより、当該情報主体又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがあるとき。

- (6) 出版、報道等により当該個人情報ですでに公にされているとき。

(7) 法令の規定に基づくとき、又は司法手続上必要と理事会が判断したとき。

- (8) 前各号に掲げる場合のほか、取得の状況からみて利用目的が明らかであると理事会が認めたとき。

#### 第7条

1 保有個人情報は、利用目的以外の目的のために利用し、又は提供してはならない。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、利用目的以外の目的のために保有個人情報を利用し、又は提供することができる。ただし、保有個人情報を利用目的以外の目的のために利用し、又は提供することによって、情報主体又は第三者の権利利益を不当に侵害するおそれがあると認められるときは、この限りでない。

(1) 法令の規定に基づくとき。

(2) 情報主体の同意があるとき。

(3) 人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、情報主体の同意を得ることが困難であると管理者が判断したとき。

(4) 公衆衛生の向上又は在校生の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であって、情報主体の同意を得ることが困難であると管理者が判断したとき。

(5) 総明会の活動に必要な限度で保有個人情報を総明

会内部で利用する場合であつて、当該保有個人情報を利用することについて相当の理由があると管理者が判断したとき。

(6) 管理者が、情報主体以外の者に提供することが明らかに当該情報主体の利益になると認めたとき。

(7) 前各号に掲げる場合の他、専ら統計の作成のために保有個人情報を提供するとき、その他管理者が相当の理由があると認めたとき。

3 前項により利用目的以外の目的のために保有個人情報を利用し又は提供するときは、対象とする保有個人情報範囲をできる限り特定するものとし、個人情報の中の必要な事項に限定して利用し又は提供しなければならぬ。

4 第2項第5号の場合にあつても、管理者は、個人の権利又は利益を保護するため必要があると認めるときは、当該保有個人情報の利用を特定の組織単位に限定することができる。

5 管理者は、第2項により利用目的以外の目的のために保有個人情報を利用し又は提供するときは、その事実を記録しなければならない。

(提供を受ける者に対する措置要求)

## 第8条

管理者は当該保有個人情報の提供を受ける者に対し、所管する保有個人情報を提供する場合において必要があると認めるとき、提供に係る個人情報について、その利用の目的若しくは方法の制限その他必要な制限を付し、又はその漏えいの防止その他個人情報の適切な管理のために必要な措置を講ずることを求めることができる。

## (安全確保の措置)

## 第9条

1 管理者は、所管する保有個人情報の漏えい、滅失、き損及び改ざんの防止その他保有個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。

2 個人情報事故が発生した場合における取扱は、管理者が行う。

3 理事、会員等は、個人情報事故が発生したと認められる事実を認知した場合あるいはそのおそれのある場合、直ちに管理者にその旨を連絡する。

4 管理者は、前項の場合直ちに調査を実施する。

5 管理者は、2項の連絡を受けた場合、3項の調査結果を、会長に速やかに報告する。

6 前項の規定は、総明会から個人情報の取扱いの委託を受けた者が、受託した業務を行う場合について準用する。

## (委託に伴う取扱い)

## 第10条

1 個人情報の取扱いを含む業務を外部委託する場合は、当該契約において、個人情報の適正な取扱いについて受託者が講ずべき措置を明らかにしなければならない。

2 前項の委託を受けた業務に従事している者又は従事していた者は、その業務に関連して知り得た個人情報の内容を他に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。

## (外部要員の受入れに伴う取扱い)

## 第11条

前項の規定は、個人情報の取扱いを含む業務を行うため、外部から要員を受入れる場合について準用する。

## (保有等に関する事前通知)

## 第12条

総明会の各委員会及び会員において個人情報ファイルを保有又は利用等を行うときは、当該委員会の長は、あらかじめ管理者に対し、次に掲げる事項を

届出なければならない。届出た事項を変更しようとするときも、同様とする。

(1) 個人情報ファイルの名称

(2) 委員会の名称及び委員会担当の理事の氏名

(3) 個人情報ファイルの利用目的

(4) 個人情報ファイルに記録される項目及び個人情報ファイルに記録される情報主体の範囲

(5) 個人情報ファイルに記録される個人情報の収集方法

法

#### 第4章 情報の開示その他

(個人情報に関する開示請求及び提供)

#### 第13条

1 総明会会員からの開示請求については管理者が処理、対応する。

2 管理者は総明会会員から本人に関する開示請求が総明会所定の書面においてなされた場合、請求者が本人であることを確認した上で速やかに文書にて回答するものとする。

3 会員は、代理権の存在を示す資料を提出して代理人によって前項の請求を請求することができる。この場合は、代理権の存在を示す資料(委任状など)の

提出を確認した上で処理する。代理人は、会員に限る。

4 なお、会員からの請求に関しては別途定める手数料を徴収するものとする。

5 この「個人情報保護法に基づく開示等」の方法については、管理者がホームページまたは会報などを用い、会員に対して周知徹底をはからなければならない。

#### 第14条

総明会の各同期会及びクラブのOB会からの開示請求については管理者が処理、対応する。なお、各同期会は評議員が、各クラブOB会はその責任者が総明会所定の書面をもって開示請求する。

(監査)

#### 第15条

1 会長は、総明会における個人情報の取扱いについて、定期的に監査を行う。

2 会長は、前項の監査を行うにあたっては、監査担当者を選任するものとする。

3 監査担当者は、監査の結果を会長に報告しなければならない。

(個人情報の帰属)

#### 第16条

本規則に定める個人情報とは、総明会に帰属する。

(補則)

#### 第17条

この規則に定めるもののほか、この規則の実施に必要事項は、別に定める。

(改廃)

#### 第18条

この規則の改廃は、理事会の議を経て会長が行う。

附則

(施行期日)

#### 第19条

この規則は2006年4月1日より施行する。

平成18年10月吉日

明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会  
「総明会」会員 各位

明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会  
総明会会長 佐久間 洋一

### 明治高校「校舎移転」並びに「創立100周年」 記念事業への寄付のお願い

母校明治高校は、2008年3月に長年慣れ親しんだ神田駿河台（猿樂町）から調布へ移転し、より一層の飛躍を目指しています。また、2012年には、母校が学校創立100周年を迎え、さらに歴史の重みを具えた学校となります。

そこで明治高校・中学校同窓会・総明会では、母校の益々の発展を望むと共に母校の記念的な時期を迎えるに際しまして、総明会より母校へ記念品（校舎移転記念品・創立100年記念品）を寄贈する計画とそれに伴う寄付の募集を今年の総明会総会で決定いたしました。

つきましては、本年度より総明会会員の皆様に下記要領により、ご寄付のご協力をお願いすることと致しましたので、どうかご理解いただき、ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

なお、寄贈する記念品については、総明会内部に選定委員会を設置して、学校側と協議し決定していく予定でございます。今回は、学校側の協力が得られましたことから、学校から税控除の対象となる証明書（注1）が発行されることになりました。

注1：証明書の発行は、皆様のご寄付の年度ではなく、総明会としてまとめて学校に寄付行為を行う2008年3月以降及び2012年の2回にまとめて発行（後日、郵送）されますのでご注意ください。

## 記

1. 寄 付 金 額      1口   1万円以上  
(平成24年まで、複数回数の納付可能です。)
2. 寄付募集期間      2006年10月から2012年12月
3. 寄付目標金額      1,000万円
4. 申   込   先      同封の「郵便振込用紙」により、お近くの郵便局にて振込みをお願いいたします。  
なお、お手数ですが管理の関係から通信欄に卒業年月(例：昭和49年3月卒)と税控除の証明書が必要な方は、「証明書必要」と記入してください。
5. 振   込   先      口座番号   00170-6-93825  
加入者名  
「明治高等学校同窓会総明会」
6. 問 合 せ 先      総明会・会計   中村   正容  
TEL(勤務先) 03-3663-4351  
総明会・財務委員長   佐藤   眞弘  
TEL(携帯)090-8500-5447

### 編集後記

今年の会報誌はいかがでしたか。

「男坂」への惜しみない讃歌をここに残し、次代を担う未来の後輩たちへの熱きメッセージとします。もう二度と来ない青春時代を今一度思いだして下さい。そして、駿河台の思い出話を肴に12月3日は一杯やりましょう。最後になりましたがこの会報作成にあたりご協力いただきました全ての方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。万一、誤字脱字があった場合はご容赦下さい。

そして、なにより「おゝ明治」に感謝を。

明誠会   会報委員一同

## 2006年度総明会会報

発 行

明治大学付属明治高等学校・中学校 同窓会

総 明 会

<http://meiji.cside7.com/>

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-4-1

明治大学付属明治高等学校内

電話 (03) 3296-4555

編集：明 誠 会（昭和54年卒）  
会 報 委 員 会